

5B19

4

153
1
94

訓 解

官令類聚

沿革附

第三號

明治十一年三月										
官達	内達	内	外達	大達	大	陸達	文達	海達	工達	地達
第五	甲三ヨリ五	乙十六ヨリ廿九	第二	甲七	乙八ヨリ十五	乙廿九ヨリ卅三	壹ヨリ三	甲壹乙壹	第四	乙壹
警達	警	東達	東	東達	内誌	司民	司民	司刑	司民	
甲十九ヨリ廿二	乙八ヨリ十	甲六	乙六ヨリ八	二	第三十六ヨリ八	第三十三	第二十號附錄	第五十九	追加二十九ヨリ三十一	

特30
196

明治十一年第三月

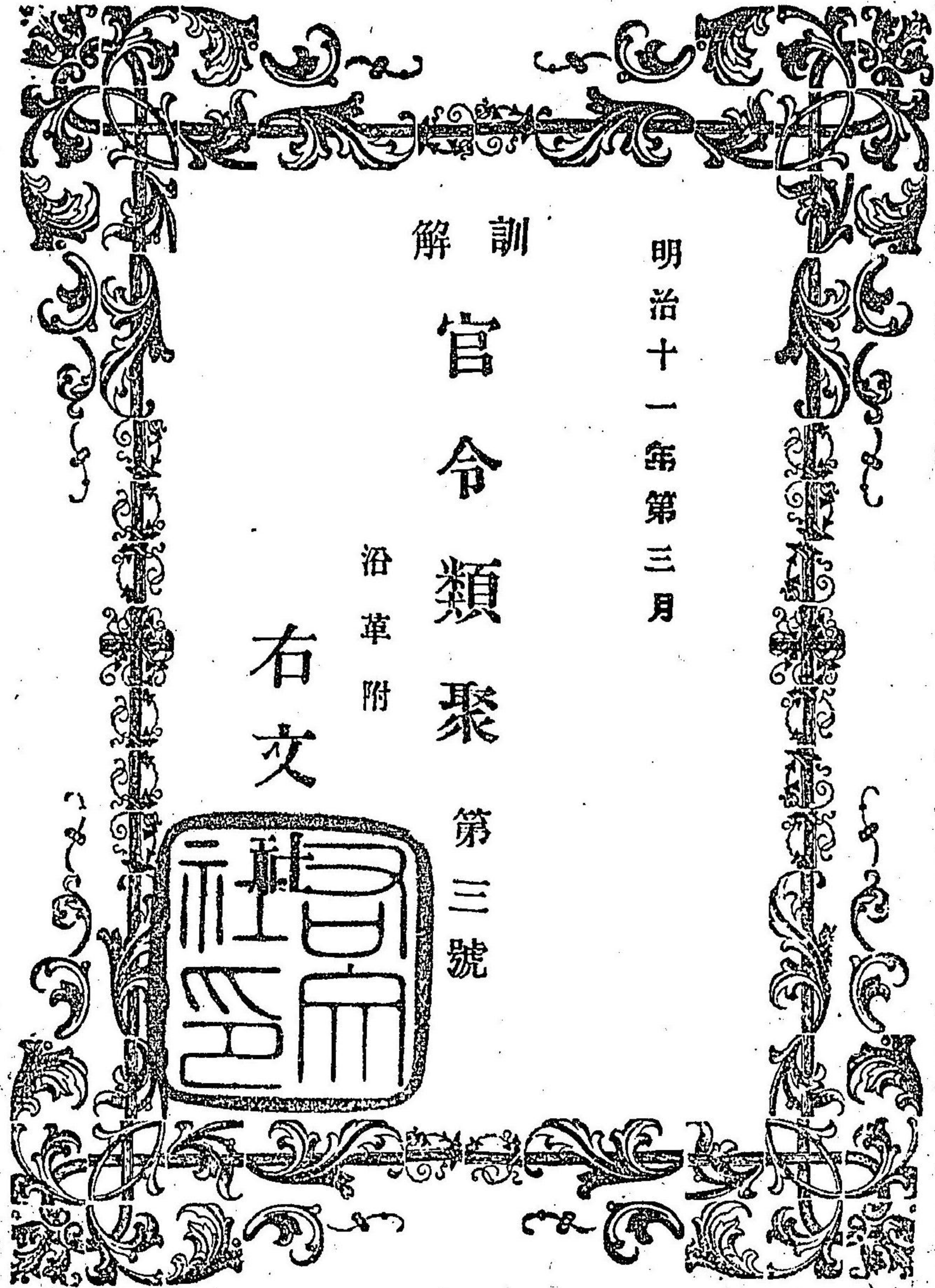
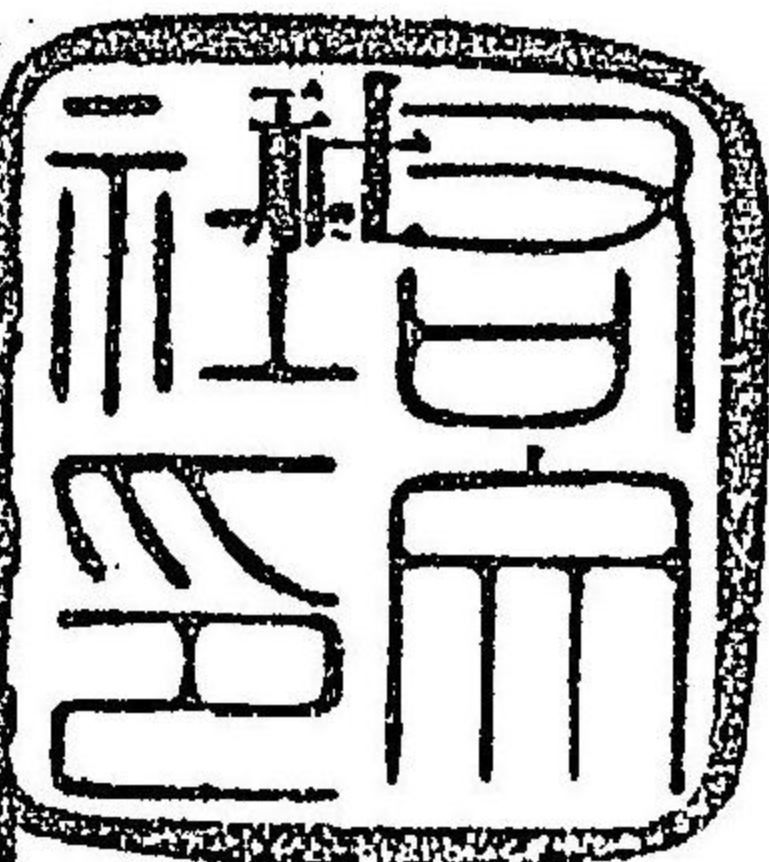
訓解

官令類聚

沿革附

第三號

右文



C2
4
021

官令類聚

編纂綱目
主ト爲スト雖
或ハ符號由ルチ便トスル者
之ニ由リテ列シテ敢テ重複
ナシクシテ忍ビヨ

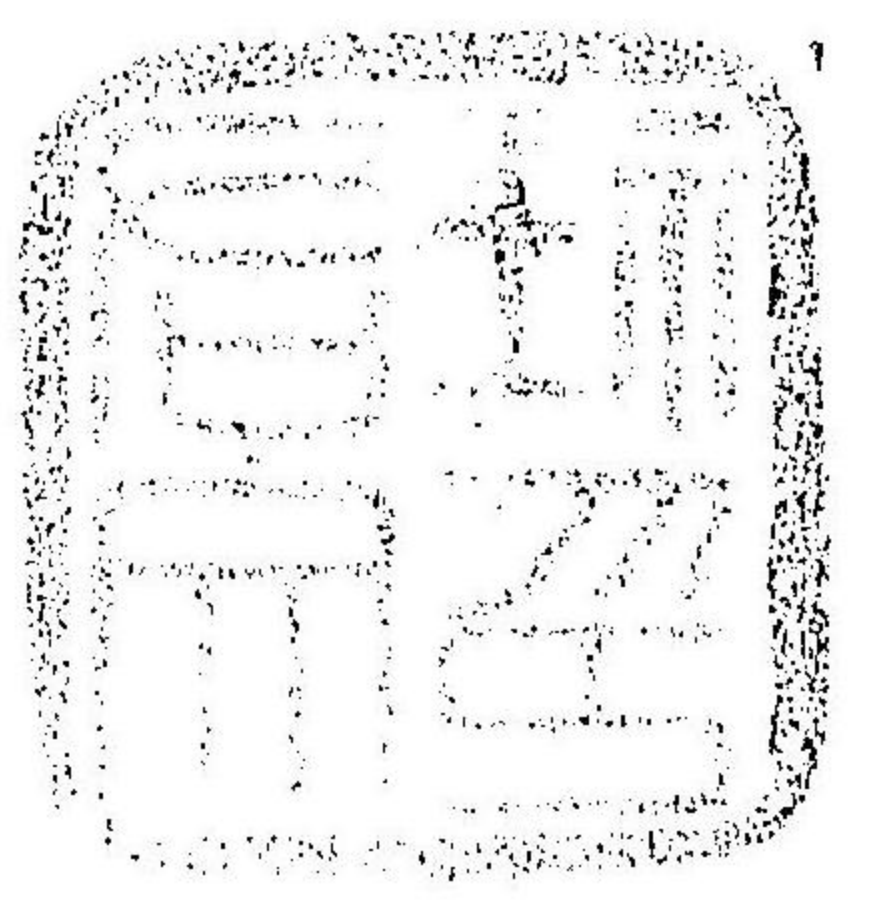
第五 銀行條例中改正 一

- 内務省
 - 甲 三 美濃信濃國界 十四
 - 甲 四 植林條例施行 十四
 - 甲 五 姫井村改稱 一四
 - 乙 十六 官舎營繕豫算 二二
 - 乙 十七 危難ノ救死傷者 二三
 - 乙 十八 揭示場ノ件 一七
 - 乙 十九 營繕豫算簿 一八
 - 乙 二十 轉宗改式 一一
 - 乙 廿一 神輿供奉帶刀 一一

訓官令類聚第三號標目 明治十一年三月

- 職制
 - 職務章程之部
 - 海軍省甲 第壹號 職掌更定ノ件 一
 - 陸軍省乙 第卅二號 宮門乘馬ノ件 一
 - 警視局甲 第十九號 伊豆七島管轄ノ件 二
 - 内務省乙 第廿九號 事務章程改正ノ件 二
 - 制度
 - 洋行法之部
 - 外務省 第二號 旅券規則ノ件 三
 - 雇傭法之部
 - 海軍省乙 第壹號 本省傭人身元引受証ノ件 三
 - 戶籍之部
 - 内務省乙 第廿五號 民費ノ件 三
 - 軍事
 - 死傷處分之部

標目



乙廿二	淨土宗東西區分	一二	陸軍省乙第廿九號	婦鄉療養規則ノ件	四
乙廿三	修驗宗建物	一三	○警察		
乙廿四	十七號文中正誤	一三	○家業之部		
乙廿五	民費	三	警視局乙第九號	鑑札願面書式ノ件	五
乙廿六	街路修繕	九	警視局乙第八號	湯屋木拾ヒノ件	六
乙廿七	植林ノ儀達	一六	警視局甲第廿一號	凍氷製造ノ件	六
乙廿八	植林官員巡視	一七	警視局甲號廿二號	獸肉商業鑑札ノ件	六
乙廿九	事務章程改正	二	○道路之部		
○外務省			警視局乙第十號	街路規則施行ノ件	七
第二	旅券規則	三	內務省乙第廿六號	街路修繕ノ件	九
○大藏省			○違式之部		
甲七	銀行設立	二三	警視局甲第十八號	違式罪目ノ件	九
乙八	酒造人員石高	二二	警視局甲第二十號	外國人免狀ナキ者止宿九	
乙九	簿記法傳習	二二	○學校		
乙十	船其他稅納期	一九	○學政之部		
乙十一	八年前經費收入	一七	文部省第一號	小學補助金配付ノ件	一〇
乙十二	米麥相場書	一八	文部省第二號	官立學校募集報告廢止	一〇

乙十三	征討費勘定	一九	文部省第二號	官立師範學ノ報告廢止	一〇
乙十四	勘定帳外整頓	二二	文部省第三號	公立師範學補助金	一〇
乙十五	金祿利金	一九	文部省第三號	中學廢止ニ付本文ノ條々	一一
○陸軍省			○教 法		
乙廿九	婦鄉療養規則	四	○社寺之部		
乙廿三	宮門內乘馬	一	內務省乙第二拾號	轉宗改式ノ件	一一
○文部省			內務省乙第廿一號	神輿供奉ノ者帶刀ノ件	一一
第一	小學補助金配賦	一〇	內務省乙第廿二號	淨土宗東西區分ノ件	一二
第二	學校募集報告廢	一〇	內務省乙第廿三號	修驗宗建物ノ件	一三
第三	師範校報告廢止	一〇	○地 理		
第三	師範校補助金	一〇	○地理經界之部		
第三	中學廢止ニ付關	一一	內務省甲第三號	美濃信濃國國界ノ件	一四
	係ノ條被廢	一一	內務省甲第五號	肥後姫井村改稱郡界	一四
○海軍省			改正ノ件		
甲第壹	職掌更定	一	內務省甲第四號	植林ノ儀ニ付條例施	一四
乙第壹	雇人身元引受證	三	行ノ件		

標目

第四 通信姓名割合	二四	內務省乙第十七號	全上付府縣御達ノ件	一六
○地租改正局		內務省乙第十八號	全上付掛官員巡視ノ件	一七
乙第一 山林原野開墾	二〇	○官舎之部		
○警視局		內務省乙第十八號	揭示場ノ件	一七
甲十八 違式賣肉條刪除	九	○會計		
甲十九 伊豆七嶋管轄	二	○計算之部		
甲二十 外國人止宿	九	大藏省乙第十一號	八年前係ノ經費收入	一七
甲廿一 凍水製造	六	大藏省乙第十二號	米麥等相場書	一八
甲廿二 獸肉商業鑑札	六	內務省乙第十九號	營繕豫算簿ノ件	一八
乙八 湯屋木拾	六	大藏省乙第十三號	征討費勘定ノ件	一九
乙九 鑑札願書式	五	大藏省乙第十五號	金祿利金ノ件	一九
乙十 街路規則施行	七	○租稅之部		
○東京府		大藏省乙第十號	船車賣藥牛馬稅納期ノ件	一九
甲六 轉宗改式	二六	地租改正局乙第一號	山林原野開墾之件	一〇
乙六 船其他稅納期	二五	○帳簿之部		
乙七 車稅期限	二五	大藏省乙第八號	酒營業人員並石高ノ件	二一
乙八 祭祀供奉帶刀	二六	大藏省乙第九號	簿記法傳習ノ件	二一

無號 街路掃除	二五	大藏省乙第十四號	勘定帳通算表整頓ノ件	二一
無號 小學試驗法改正	二六	內務省乙第十六號	官舎等營繕豫算簿	二二
		○給與之部		
		內務省乙第十七號	人ノ危難ヲ救ヒ死傷ノ者	二三
		二扶助料ノ件		
		內務省乙第廿四號	同上文中正誤ノ件	二三
		○銀行之部		
		大藏省甲第七號	第三十三國立銀行設立	二三
		太政官第五號	條例十八條改正并取消	二四
		○遞報		
		○電信之部		
		工部省第四號	規則并通信姓名等割合	二四
		東京府	街路掃除等ノ件	二五
		東京府乙第六號	船車賣藥牛馬稅納期ノ件	二五
		東京府乙第七號	車稅期限改正并新調稅	二五
		東京府乙第八號	祭祀供奉ノ者帶刀ノ件	二六

標目

○内務省日誌標目

東京府甲第六號 轉宗改式ノ件 二六
 東京府 小學試驗法改正ノ件 二六

○制度之部

(東) 京 府) 版權交換ノ伺
 (山) 口 縣) 鑑札料ノ伺

○職務罰例之部

(島) 根 縣) 區町村代人職務上過誤ノ處分伺
 (三) 重 縣) 處刑濟ノ者途中逃走ニ付護送人罰例ノ伺
 (長) 崎 縣) 官吏舊任中ノ過失發覺ノ伺
 (島) 根 縣) 身代限ノ官員并教導職等辭職ノ伺
 (青) 森 縣) 戸長錯誤呼出旅費ノ伺

○民法之部

(宮) 城 縣) 養父他ニ縁付者忌服ノ伺
 (福) 島 縣) 醫生漢洋法ノ検査及ヒ他管ヨリ移住ノ伺

一 一 二 三 三 四 四 五

(嶋) 根 縣) 長次男アル者ノ養子並養家ノ伯母ヲ妻トナス云々伺 六
 (廣) 島 縣) 幼年ヨリ佛學ニ從事スル者職業肩書ノ伺 七
 (和) 歌 山 縣) 區入費遲滞ニ付怠納金ノ伺 八
 (三) 重 縣) 逃亡人ニ係ル呼出狀費用ノ伺 九
 (廣) 島 縣) 民事呼出狀途中遲滞ニ付郵税ノ伺 一
 (和) 歌 山 縣) 舊名ニ復シ度ノ伺 一
 (愛) 知 縣) 死後地券書換ノ法ニ觸ル、者ノ伺 二
 (和) 歌 山 縣) 人民呼出狀費用ノ伺 二
 (三) 重 縣) 地所書入質入ノ手續前後スル者ノ伺 三
 (愛) 媛 縣) 質子アル者ノ養子位次ノ順並ニ違妻幼孤後見ノ伺 四
 ○戸籍之部
 (島) 根 縣) 脱籍ノ者實家斷絶ニ付處分伺 一五
 ○警察之部
 (福) 島 縣) 陸海軍ノ兵卒逃走ニ分署へ首告ノ伺 一五
 (京) 都 府) 違失物中ノ三品盜賊ニ係ル伺 一六
 (大) 坂 府) 違失物中 皇帝皇后ノ宮御寫像ノ伺 一六

六 七 八 九 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六

標目

(島根縣)

神道教導職邸内ノ祭ノ關々他ノ祭事ヲ助ルノ伺

一六

(愛知縣)

神體更改ノ伺

一七

(島根縣)

寺院住職選舉ノ伺

一七

○地理之部

(福岡縣)

官林燒失消防費用並木伐取費用ノ伺

一八

(神奈川縣)

橋毀渡錢並假橋ノ伺

一九

(神奈川縣)

渡場見張小屋ノ伺

一九

(福岡縣)

飛地入組等處分ノ伺

二〇

(秋田縣)

官民未定ノ地土石開坑料金ノ伺

二〇

(滋賀縣)

往還並木伐取費用並植付ノ伺

二一

○會計支收之部

(福岡縣)

警部巡查給與ノ伺

二三

(愛知縣)

巡查ノ誤傷ニ逢フ者給與ノ伺

二三

(福岡縣)

獄丁番卒等罰俸金納付ノ伺

二三

○物産之部

(岩手縣)

拜借綿羊剪毛ノ伺

二三

○司法省指令錄民事標目

○訴訟之部

(金澤裁判所)

論所測量ノ儀ニ付伺

(開拓使本廳)

民事訴訟濟方ノ儀ニ付伺

○身代限之部

(松江裁判所)

裁判入費允取特權ノ儀ニ付伺

(名古屋裁判所)

國稅府縣稅民賃等配當伺

(青森縣)

分散金先取順序ノ伺

(松山裁判所)

財産公賣ニ付租稅未納ノ伺

(福岡裁判所)

財産處分ニ付建議

○代言之部

(警視本署)

本人痲氣代人ノ儀ニ付伺

○貸借之部

(長崎裁判所)

貸米穀利息ノ儀ニ付伺

(福岡縣)

利足制限法ニ付伺

(廣島縣)

同上伺

標目

一一

一三

一四

一五

一八

一九

一一

(大藏大書記官) 貸下金云々ノ儀ニ付照會 二

〇書入之部

(横濱裁判所) 書入質規則ニ付伺 一三

〇費用辨償之部

(内務權大書記官) 人民呼出入費ニ付照會 一三

(内務卿) 人民呼出狀誤寫ニ付照會 一七

(權中警視) 人民呼出狀違付費用ニ付照會 一八

〇逃亡之部

(大藏卿) 公債證書ヲ有スル戸主逃亡ニ付照會 一九

〇相續法之部

(戸籍局長) 幼主相續ノ儀ニ付照會 二〇

〇類聚追加標目

〇上告之部

(宮城上等裁判所) 裁判無効ノ儀ニ付伺 一

(福島裁判所) 宮城上等裁判無効ニ付御達ノ儀伺 三

(高知縣) 地方廳ノ指令ニ逆フ者處分伺 七

(宮城上等裁判所) 裁判所ヨリ却下スル者控訴ノ儀伺 七

〇書入之部

(大坂府) 書入物一本證文ノ儀ニ付伺 八

(東京上等裁判所) 建物書入規則ニ付伺 九

〇貸借之部

(岡山縣) 利息制限法ニ付伺 一一

(島根縣) 同上伺 一二

(青森縣) 同上伺 一二

(群馬縣) 同上伺 一三

(山形縣) 同上伺 一四

(高知縣) 同上伺 一四

(福島縣) 什長連署ノ儀ニ付伺 一五

(廣島縣) 出訴期限ニヨリ權利得失及身代限ノ者後年加利法方伺 一六

(山梨縣) 利息制限法ニ付伺 一九

(高知縣) 同上伺 二〇

(堺縣) 同上伺 二一

〇代言之部

標目

(松山裁判所) 訴訟代言人ニ付上申

(金澤裁判所) 懲役人代言ヲ用ユル儀伺

○費用辨償之部

(京都裁判所) 呼出狀郵便費ノ伺

(熊本裁判所) 同上伺

○詐偽之部

(高知縣) 民事再訴ノ儀ニ付伺

(神奈川縣) 財産押隠ス嫌疑ノ者處分伺

○身代限之部

(青森縣) 區入費先取ノ儀ニ付伺

○銀行之部

(金澤裁判所) 銀行條例ノ儀ニ付伺

○司法省指令錄刑事標目

○保釋之部

(三重縣) 上告ニ係ル保釋願並檢事實付ノ伺

○詐偽之部

(京都裁判所) 雇主ノ金ヲ詐取シ又ハ偽証ヲ行ヒ或ハ三字樣ヲ改描スル紙幣ヲ使用等ノ伺

○賊盜之部

(京都裁判所) 盜三犯自首シテ贓徴ス可カラサル者處分伺

(愛知縣) 贓物追徴ノ伺

○破廉耻之部

(京都裁判所) 華士族犯罪ノ儀ニ付伺

○特典之部

(島根縣) 懲役人特典減等ノ儀伺

訓解官令類聚第三號

明治十一年三月

○職制

○職務章程之部

(海軍省)

甲第壹號 二月二十五日

府 縣

明治九年九月當省職制章被定候ニ付テハ從前諸寮司及ヒ部府等ニ掛ル事務ハ左之諸應ニ於テ管掌候條此旨布達候事

舊主船寮ノ事務ハ造船所及ヒ主船局ニ於テ之ヲ管ス○舊水路寮ノ事務ハ水路局○舊兵學寮ノ事務ハ兵學校○舊軍醫寮ノ事務ハ醫務局○舊武庫司ノ事務ハ兵器局○舊水兵本部舊提督府ノ事務ハ鎮守府 但下士以下徵募及ヒ家族扶助金其他履歷ニ關スル事務ハ凡テ軍務局ノ所管トス

(陸軍省)

乙第三十三號

三月十二日

陸軍 一般

陸軍將校以下別紙記載ノ軍人自今 皇居諸御門乘馬通行差許サレ候條此旨相達シ候事 (別紙 陸軍佐官及ヒ同當以上並ニ之ト同當官ノ職務ヲ奉スル者、參謀士官砲騎輜重兵科士官下士兵卒、傳令使並ニ砲騎輜重兵隊附會計軍醫部諸士官、工兵中隊長並ニ歩工兩隊副官ノ職ヲ奉スル士官、但シ他ノ士官ニ在ツテモ時トシテ差使ノ命シ乘馬セシムル者ハ本文ニ準ス

(警視局)

甲第拾九號

三月一日

伊豆國八丈島始々七島今般東京府管轄被仰付候ニ付該島警察事務東京警視本署ニ於テ管理候條此旨布達候事

(內務省)

乙第二十九號

三月十九日

府 縣

明治八年十二月第二十七號太政官達書ノ内當省事務章程上款第十八條下款第七條左ノ通相成候條此旨相達候事

上款第十八條諸銀行及右類似ノ會社(公債証書洋銀等賣買相場立テ以テ專業ト爲ス者)及米商會社並ニ鑛山鐵道電信燈臺ニ係ル會社ヲ除クノ外諸會社ノ規則ヲ創立更正スル事 下款第二十七條諸銀行及ヒ右類似ノ會社(金錢ヲ貸出シ之ヲ預リ兩換シ爲換テ取組等ヲ以テ專業ト爲ス者)並ニ株式取引會社及右類似ノ會社(公債証書洋銀等賣買相場立テ以テ專業ト爲ス者)及米商會社並ニ鑛山鐵道電信燈臺ニ係ル會社ヲ除クノ外諸會社ノ設立ヲ准允スル事

(太政官第二百十七號九年十二月廿八日)元老院內務省大藏省文部省工部省開拓使職制章程別冊ノ通り定メラレ候條此旨相達候事(上款第十八條 金券發行ノ會社ヲ除クノ外諸會社ノ規則ヲ創立更正スル事)(下款第十七條 金券發行ノ會社ヲ除クノ外諸會社設立ヲ准允スル事)

○制度 洋行法

(外務省)

第二號

三月六日

本年二月廿日第一號達々海外旅券規則第一條外務省又ハ開港場管廳ト揭載之アリ候處朝鮮國へ旅行候者ニ限リ左ノ縣廳へ願出旅券受取候テ苦シカラヌ候條此旨布達候事 廣嶋 山口 島根 福岡 鹿兒島 長崎縣嚴原支廳

○雇傭法

二月二十五日

府 縣

(海軍省) 乙第壹號 當省所轄各廳限リ傭入ノ者(艦船乘組定員ノ職名ヲ云フ)身元引受人証書ノ儀從前書式一定ニ之レナク不都合候條自今別紙書式雛形ノ通り相定候間右ニ照準シ本人共ヨリ差出候節ハ區戶長ニ於テ捺印致シ候様可相達此旨相達候事 但海軍ニ從事スル者ヲ以テ本文身元引受人ニ相立候共一切採用不致候事

○民事 戶籍

乙第廿五號

三月十四日

府 縣

(內務省) 十年一月第二號テ以テ民費ハ正租五分ノ一ヲ超過スベカラサル旨布告相成候處右ハ地租改正濟地價額相定候土地ニ限リ候儀ト相心得ヘキ事但シ改正未濟ノ土地ハ假定ノ租額ニ據リ五分ノ一賦課致シ其消費候民費ハ改正濟ニ到リ租額ニ照シ指引精算ニ及ハサル儀ニ候事

○軍事 死傷處分

官令

(陸軍省) 乙第廿九號

三月五日

昨年鹿兒島逆徒征討ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者歸郷療養中概則同年八月大坂征討陸軍事務所丁第四百五十一號ヲ以テ相達シ候内士官以上並ヒニ文官取扱ヒノ儀更ニ別紙ノ通り相定候條此旨相達シ候事

別紙

士官以上及ヒ文官傷痍ニ因テ入院治療ヲ受ル者創口全愈若クハ全愈ニ至ラズト雖モ醫官治療ヲ要セズ漸次平愈スベキ者ニシテ速カニ復職致シ難キハ軍醫ノ診定ニ因リ追テ傷項策定迄歸郷又ハ温泉入浴ヲ許シ退院療養セシムルコトアルヘシ 傷者ヲ退院セシムルキハ其治療セシ病院長ニ於テ之ヲ命シ其旨本人所轄長へ診定ノ詳細ヲ通牒シ該長官ハ其診定ニ因リ復職ノ成否ヲ論定シ復職ノ目途ナキ者ハ軍醫ノ診定並ニ意見書ヲ添へ陸軍卿へ上申スヘシ 士官以上復職ノ目途ナク現職ヲ免セラルト雖モ傷項策定迄ハ舊所管長官ニ於テ之ヲ管轄シ各自俸給其他共總テ待命士官ニ準ス 文官出仕ヲ以テ職務ヲ離ル者ハ其本官或ハ出仕ヲ免セラレ、迄ハ俸給ハ全額ヲ給スヘシ 負傷後即今ニ至ル迄入院治療致シ未タ全愈ニ至ラサル者モ其復職ノ成否ヲ該病院長ト所管長官ト協議シ總テ前條ニ準シ取扱フヘシ

○警察

○家業ノ部

(警視局)

乙第九號

三月十二日

區 戶 長

諸藝人開業鑑札受願書區々ニテ不都合候條左ノ第一號書式ニ照シ認メサセ可申且從前鑑札受居候者ハ第二號書式ニ照シ認メサセ可申此旨相達候事

第一號用紙半紙二通

第何大區何小區何町何番地

何 某 專 藝 名

何 藝 何 等 何 某

右開業ニ付鑑札御付與(何々ニ付何等ニ昇降等候間鑑札御書換(何大區何小區何町何番地へ轉居仕候間鑑札御書換)被下度且本人事故有之納稅差支候ハ、引受人ヨリ上納可仕候也

年 月 日

右

何

某 印

第何大區何小區何番地

引 請 人

何 某 印

何 藝 頭 取

何 某 印

戶 長

何 某 印

大警視姓名殿

第二號用紙半紙一通

第何大區何小區何町何番地

何某事藝名
何藝何等 何 某
右ハ私引受人ニ相立候間藝業上ニ係ル事故ニ付本人差支筋有之節ハ私引受可申候也
第何大區何小區何町何番地
何 某 印

大警視姓名股

(警視局) 乙第八號 二月廿五日 區 戶 長

湯屋木拾ヒト稱フル者猥リニ他人構内又ハ路次等ニ立入竹木ヲ採拾シ間々宜ッカラサル所爲之アル趣キニ付以來該地主家主等ノ承諾ヲ得ス市街人家ニ接シタル場所ニテ竹木拾ヒ取候儀相成ラス候條此旨該營業人へ相達スヘキ事

(警視局) 甲第二十一號 三月十一日

田面沼池溝渠等ニ溜滯スル汗濁水ヲ以テ凍氷ヲ製造シ貯藏候者之アル趣キ右ナ飲料ニ供スル時ハ人身ノ健康ヲ害スルニ付貯藏及ヒ販賣禁止候條此旨布達候事

(警視局) 甲第二十二號 三月十二日

明治十年二月甲第十號布達賣肉規則中第二條第三條左ノ通り改正候條此旨布達候事
第二條 獸肉商業ヲナサントスル者ハ該業頭取加印ノ上戸長與印ヲ以テ警視本

署へ願出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料トシテ卸賣十錢小賣五錢ヲ納ム可シ若轉居タル節ハ同様ノ手續ヲ以テ鑑札書換テ願出ヘシ且廢業ノ節ハ免許鑑札ヲ所轄分署へ返納ス可シ 第三條各商業人ハ左ノ圖式ノ看板ヲ店頭ニ掲グヘシ

業 名	姓 名	豎 三 尺	幅 七 寸

(甲第十號明治十年二月十九日) 第二條屠肉卸賣及ヒ小賣商業ヲナサントスル者ハ頭取加印ノ上戸長與印ヲ以テ東京警視本署へ願出鑑札ヲ受クヘシ但卸賣鑑札料金拾錢小賣鑑札料金五錢ヲ納ムヘシ其廢業者鑑札返納ノ手續モ亦本文ニ依ル 第三條各商業人ハ左ノ圖式ノ看板ヲ製シ警視本署ノ烙印ヲ受ケ店頭ニ掲ク可シ

○道路之部

(警視局) 乙第十號 三月十八日 區 戶 長

本年一月甲第五号ヲ以テ街路取締規則布達候處今ニ等閑ノ向モ之アリ不都合ニ付本月三十一日限り相改ムヘシ右日限後犯則ノ者ハ取糺シ處分及フ可ク候條心得違之ナキ様至急諭達致スヘシ此旨相達シ候事

(甲第五號一月十六日) 街路取締規則○第一條凡テ下水外ニ招牌標旗物干等建設

スルヲ許サス○第二條街燈ヲ建設スルハ下水際ヨリ一尺迄ニ限ル可シ但人道車道區別アル場所ハ此例ニアラス○第三條日除ヲ張出シ及ヒ物品ヲ排列スルハ下水際(人道車道區別アル場所ハ家屋土臺際)ヨリ二尺迄ニ限ル可シ○第四條使用セサル荷車其他諸車ヲ置クハ檐下又ハ垣根等ニ寄セ往來ノ妨害ヲナス可カラス○第五條街路ニ沿ヒタル地ニ薪炭其他物品ヲ積置クハ高サ九尺以下ニ限ル可シ○第六條左ノ諸件ニ於テハ其場ノ圖面ヲ添ヘ該地所轄ノ警視分署ヘ出願ス可シ第二條ノ建設ヲサントスル者第三條第五條ノ場合ニ於テ己ムヲ得ス制限外ニ及フ者工事ノ爲メ材木土石等ヲ街頭ニ置キ或ハ板圍足場等ヲ設ケル者家屋土藏等甲地ヨリ乙地ヘ引移ス爲メ街路ヲ通過スル者○第七條公衆ノ爲メ街頭ニ便所ヲ建設セントスルキハ其場ノ圖面ヲ添ヘ該地所轄ノ警察分署ヘ伺ヒ出可シ○第八條材木土石等運搬ノ節已テ得ス一夜以上街路ニ停メ置クキハ其旨巡行ノ巡查ヘ申告ス可シ但夜中ハ通行人ノ衝突セサル様目標ヲ建置ク可シ○第九條街路ニ沿フタル地ニ竹木ヲ貯フルモ必ス鉄鎖又ハ繩索等ヲ以テ之ヲ嚴ニ纏繞シ顛仆セサル様注意ス可シ○第十條家屋垣牆等朽腐壞敗シ又ハ落ントスル危險ノ虞アル者ハ速カニ修補又ハ改造ス可シ○第十一條屋上又ハ檐端等ニ物品ヲ積載スルキハ墜落セサル様防禦ヲ嚴ニス可シ○第十二條第三條第四條第八條第十條第十一條ノ場合ニ於テ通行ノ妨碍トナル可キ物又ハ墜落ノ虞アル者ハ直ニ取除カシ

ムルコアル可シ○第十三條免許ヲ得ス猥ニ床店被篋張ヲ建設シ又ハ人寄ヲナシ通行ヲ妨ク可カラス○第十四條諸荷車ヲ負擔シ休憩スルハ路傍ニ避ケ通行ヲ妨ク可カラス○第十五條街路中央ニ佇立シ或ハ小兒ヲ放歩セシム可カラス○第十六條紙鳶ヲ揚ケ羽子ヲツキ及ヒ獨樂ヲ翫弄シテ通行ノ妨ケヲナス可カラス○第十七條車馬道區畫中ハ(假車馬道ヲ除ク)車馬ノ往來ヲ爲ス可カラス

(内務省)

乙第廿六號

三月十四日

東京警視本署府縣

昨年十二月乙第百十七號ヲ以テ下水便所芥溜掃除ノ儀相達シ候處下水ヲ浚ヒタル淤泥並ニ塵芥ヲ市街ノ傍ニ堆積シ及ヒ市街ノ道路修繕ニ供シ候テハ却テ危害ヲ醸シ候條成ヘシ市街人家遠隔ノ地ニ搬出シ候様措置可致此旨心得ノ爲メ更ニ相達候事追テ人家隔タリタル田畑ノ培養ニ供シ候儀ハ苦シカラヌ候事

○違式ノ部

(警視局)

甲第十八號

二月廿五日

明治十年甲第十號ヲ以テ賣肉規則布達候ニ付テハ違式罪目第六十八條刪除候條此旨布達候事 正誤 本年當署甲第十六號達シ文中事狀ニ依リノ下(本署ニ於テ)ノ五字誤脱スルニ付追加ス

(違式罪目六十八條豚肉營業規則ニ違背スル者(刪除))

(警視局)

甲第二十號

三月二日

逆式罪目第十四條左ノ通改正候條此旨布達候事

第十四條 旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿セシムル者

(舊) 第十四條外國人ヲ無届ニシテ止宿セシムル者

○學校

○學政ノ部

(文部省) 第一號 二月廿六日

府 縣

小學補助金ノ舊明治十一年七月ヨリ明治十二年六月マテ一周年金四拾貳万五千圓
配付候條此旨相達シ候事

(文部省) 第二號 三月十五日

明治七年文部省第十號ヲ以テ相達シ置候官立諸學校生徒募集報告ノ儀自今相廢止
各學校ニ於テ公告致スヘシ候條此旨相達シ候事

(文部省) 第二號 三月十五日

明治八年文部省第四號ヲ以テ布達致シ置候官立師範學校卒業生徒人名報告ノ儀自
今廢止候條此旨布達候事

(文部省) 第三號 三月十五日

府 縣

公立師範學校補助金ノ舊明治十一年七月ヨリ明治十二年六月マテ一周年金七方圓
配附候條此旨相達候事

(文部省) 第三號 三月十八日

文部省明治八年第五號第七號第十一號第十三號布達並ニ明治九年第六號布達廢止
候條此旨相達候事

○教法

○社寺ノ部

(內務省) 乙第二十號 三月四日

府 縣

舊教部省九年一月第二號ヲ以テ相達シ候轉宗改式ノ節承認書授受ノ儀向後廢止候
條渾テ壬申六月第百九十二號七年二月第拾三號公布ノ通り相心得自今轉宗改式ノ
者ハ是迄葬祭受持ノ者ヘ通知及ヒ置其旨管轄廳ヘ届ケ出サスヘシ此旨相達シ候事
但シ同宗派ニテ甲乙相轉候モ同様タルヘシ

(太政官第十三號七年一月廿九日) 葬儀ハ神官僧侶ノ内ヘ可相頼旨壬申六月第百
九拾二號布告候處自今教導職ノ輩ヘハ信仰ニ寄葬儀相頼候儀不苦候條此旨布告
候事

(內務省) 乙第二十一號 三月四日

府 縣

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以テ
神宮並ヒニ官國幣社ヘ相達シ置候趣ニ候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代ノ裝飾
ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來リ候舊例之アル向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀苦シカ

ヲス尤モ其都度其筋へ届出サスヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事 但シ普通祭服着
用ノ者帶刀相成サル儀ハ勿論タルヘシ

(教部省甲第五號九年七月二十日) 諸神社神興渡御ノ節供奉ノ者共從前甲冑又ハ
大紋素袍等着用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦
候尤モ其都度其筋へ届出候儀ト可心得此旨相達候事

神官並官國幣社神官

各社神興渡御ノ節供奉ノ者古例ニ因リ帶刀ノ儀明治九年七月舊教部省甲第五號達
書ノ趣キニ候處今般別紙乙第二十一號ノ通り各府縣へ相達シ候條此旨心得ノ爲
相達シ候事 (別紙零ス)

(内務省) 乙第二十二號 三月八日

府 縣

淨土宗中寺院ノ儀別紙ノ通り西東兩部ニ區分シ各自管長ヲ置キ取締致シ度段願ヒ
出聞届候條此旨相達シ候事

西部寺院國分 總計五十四箇國

- 山城國 大和國 河内國 和泉國 攝津國 伊賀國 伊勢國 志摩國 尾張國
- 參河國 近江國 美濃國 飛彈國 信濃國 若狹國 越前國 加賀國 能登國
- 越中國 越後國 佐渡國 丹波國 但馬國 因幡國 伯耆國 出雲國 石見國
- 隱岐國 播磨國 美作國 備前國 備中國 備後國 安藝國 周防國 長門國

- 紀伊國 淡路國 阿波國 讚岐國 伊豫國 土佐國 筑前國 筑後國 豐前國
- 豐後國 肥前國 肥後國 日向國 大隅國 薩摩國 壹岐國 對馬國
- 東部寺院國分 總計拾九箇國並ニ北海道一圓
- 武藏國 遠江國 駿河國 甲斐國 伊豆國 相模國 安房國 上總國 下總國
- 常陸國 上野國 下野國 磐城國 岩代國 陸前國 陸中國 陸奥國 羽前國
- 羽後國 北海道一圓

(内務省) 乙第二十三號 三月十一日

府 縣

舊修驗宗廢合寺ノ節建物處分ノ儀當省八年乙第百十三號及ヒ九年乙第七十號達書
院廢合處分規則ニ準シ取扱ヒ來リ候處右ハ一般寺院ト同視シ難キ次第モ之アリ候
條向後其建物先代等ノ私營ニ係リ他ニ故障之ナキ分ハ本人へ付與致スヘシ此旨相
達シ候事

(内務省乙第七拾號九年六月三日) 今般第五十四號公布ノ趣モ有之ニ付テハ昨明
治八年乙第百十三號達廢合寺院路地并建物處分規則中第一節第一項左ノ通改正
候條此旨相達候事 第一節第一項 一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶
ノ資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス官沒スヘシ 但佛像什器處分ハ明治五
年第三百三十四號達書ノ通タルヘシ 一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧
侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

官令

○地理

○經界ノ部

(內務省) 甲第三號

三月二日

岐阜縣管下美濃國惠那郡加子母村ト長野縣管下信濃國筑摩郡王瀧村トニ係ル國界
字三浦山反別六千四百四十六町十七步自今信濃國ニ屬シ候條此旨布達候事

(內務省) 甲第五號

三月十五日

熊本縣下肥後國玉名郡姬井村ヲ同國山鹿郡米野村ヘ合併里村ト改稱シ從前ノ郡界
ヲ更定候條此旨布達候事

(內務省) 甲第四號

三月十四日

植林ノ儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙ノ通施行候條其趣旨ヲ體
認從事候様致ス可シ此旨布達候事

部分木仕付條例

第一條 植木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支之レナキ時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡
シ地味ニ適當セル木種ヲ植挿セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ収メシムル之
ヲ名ケテ部分木ト云但シ官林伐木跡ト雖ヒ從前部分ノ慣行之レアル箇條ハ本文
ニ準スルヲ得ヘシ○第二條 第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ
先該所ノ反別ヲ測量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照シ地方廳ニ願出

ヘシ○第三條 前條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違
ナキキハ之ヲ聞届ケ別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地券狀ヲ下ケ渡ス可シ○第四條 樹
木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニヨリ二官八民(假令ハ
百本ノ立木ナレハ二十本ヲ官収シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ)ヨリ五官五
民迄ノ間適宜ニ之ヲ區分スヘシ○第五條 第四條ニ掲ル所ノ部分方法ハ成木ノ上
立木ノ儘分配スルヲアリ又ハ伐木ノ節官民ニ於テ各々評價人ヲ出シ總計金額ヲ
豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス但
シ已テ得サル事故アツテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レ
ル樹木ヲ買上シヘシ○第六條 地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民ヘ貸渡シタル
地所反別(植付插付)木種員數及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ
分翌年一月限リ內務省地理局ヘ届ケ出ヘシ○第七條 官ハ地所ノ貸渡料ヲ取建サ
ルヘシ借人ハ植挿養護ヲ擔任スルモノトス○第八條 植挿ノ後樹木成育スルニ隨
ヒ手入伐木セント欲スルキハ前以テ地方廳ニ願出ヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不
都合ナキモノハ是ヲ許可シ伐除ノ樹木ハ悉シ仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ
就ギ其伐伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限リ遺漏ナク內務省地理局ニ届出ツヘ
シ但十五年以後ニ至リ拔伐スル木品ハ當初ノ約束ニ基キ各々之ヲ配賦スヘシ○
第九條 地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通り仕立主ヲシテ標木ヲ

官令

建設セシムヘシ

裏

何(府縣)下何國何郡(町村)字何四至境界
 第何號幾官幾民部分林反別何程

何年何月(挿付植付)仕立主何郡何(町村)

何之誰

第十條仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓リ渡セント欲スルハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願ヒ出ツヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルハ証券ニ裏書シテ下渡シ追テ内務省地理局ヘ届ケ出ツヘシ但シ本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルハ明治七年第六號公布ノ手續キニ準據シ所長ノ檢認ヲ受クヘシ○第十一條借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スル者トス但シ植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植挿ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ追次其植挿ヲ許スヘシ然レモ三ヶ年ヲ過キ猶其植挿未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘシ○第十二條一時植立並ニ追次植繼ニ拘ハラヌ實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ届ケ出ツヘシ (書式畧ス)

(内務省)

乙第二十七號

三月十五日

府 縣

森林ノ經國ニ緊要ナルハ勿論ニ候處近來工事進歩土木多端ノ折柄木材ノ需用日一日ヨリ相増候ニ付テハ植樹ノ儀ハ最モ方今ノ急務ニ之アリ然ルニ偶マ種樹ニ志アルモ所有地無キガ爲メ着手致シ得サル者之アル哉ニ相聞候ニ付今般部分木仕付條例頒布候條其趣旨管下人民ヘ丁寧告諭シ國益ヲ永達ニ圖リ候様致スヘシ此旨相達候事

(内務省)

乙第二十八號

三月十八日

官林掛リ官吏官林巡視ノ節猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除ク可キタメ其區域内ヲ限リ銃獵差許シ雛形ノ通り鑑札渡シ置候條官林監守及ヒ警察官吏ヘ達シ置ク可シ此旨相達候事 (鑑札雛形畧ス)

○官 舍

(内務省)

乙第十八號

二月二十八日

府 縣

布告布達類揭示場ノ儀ニ付取調ノ筋有之候條現今設置ノ數及ヒ設備割合等取調更ニ參照ノ爲大小區以下ノ員數共左ノ雛形ノ通り記載シ來ル三月限り差出スヘシ此旨相達シ候事(雛形略之)

○會計

○計算ノ部

(大藏省)

乙第十一號

二月廿八日

府 縣

官令

八年六月以前ニ係ル収入及ヒ經費金ノ儀未タ精理ニ至ラサル向モ有之候處右収出ノ儀ハ本年三月十五日ヲ以テ閉鎖致シ候條全日迄ニ納拂順序相整ヒ難キ分ハ租税其他ノ収入及ヒ經費共勘定帳上ニ於テ一旦打切決算證書交付致ス可シ尤モ右打切ノ金員ハ其事由ヲ記載シ明細報告書ヲ以テ完結候儀ト相心得自然完結ノ際ニ方リ過不足相生シ候節ハ納拂取計ラヒ候年度ノ税外收入及ヒ經費勘定帳中ニ雜部ヲ設ケ整頓候様致ス可シ此旨相達候事

(大藏省)

乙第十二號

三月二日

府

縣

各月米麥大豆其他ノ物品相場書ノ儀當省ニ於テ照會ノ筋之レ有リ候條當三月分ニ以降年々從前ノ振合ニ取調毎翌月十五日限り差出スヘク此旨相達候事
但シ本年一月二分ハ三月分ト一同差出スヘキ事

(內務省)

乙第十九號

三月四日

府

縣

明治十一年七月ヨリ同十二年六月迄諸官舎營繕費豫算簿申牒ノ儀ハ各歲當省乙第四十二號達シノ通相心得(但シ警察署ニ屬スル廉ハ乙號中ヨリ引分ケ別冊ニ取調ヘ丁號ヲ付スヘシ)來ル四月卅日限り差出スヘシ此旨相達シ候事 但シ十年度府縣營繕費ノ儀ハ同年各廳豫算總額ノ凡ソ三分ノ一ニ決定相成候條來年度ノ儀モ其割合ヲ以テ格別節減ノ見積リ相立ヘキ事

(內務省乙第四十二號十年四月十九日) 明治十年七月ヨリ同十一年六月迄廳舎以

下營繕費豫算簿別紙雛形ニ照準往復ヲ除クノ外日數十日限り調成各正副二冊宛可差出此旨相達候事 但客年當省乙第六號達ノ通難聞見込ノ場所ノニ可申立ハ勿論ニ候處本年第十六號及第十八號公達ノ次第モ有之候ニ付一層省略ノ見積ヲ以取調修繕ハ瑣細ノ破壊又ハ雨漏等迄豫メ見込ノ事由ヲ詳記可致事(別冊略之)

(大藏省)

乙第十三號

三月十六日

府

縣

明治十年十二月乙第四十七號ヲ以テ九州地方賊徒征討ニ關スル費用中同年十一月以降通常經費ヨリ支出スヘキ分勘定仕上ノ儀同年十二月迄ハ支廳經費ノ例ニ倣ヒ別項ニ掲載差出スヘキ旨相達シ置候處計等整理ノ都合モ之アリ候條尙本年一月ヨリ六月迄ノ分ニ引續キ同様調成候儀ト相心得ヘク此旨相達シ候事 但シ本文通常經費ヨリ支出スヘキハ寡婦孤兒扶助料及ヒ國事犯繫費獄同ク處刑濟護送費ノ類ト相心得ヘキ事

(大藏省)

乙第十五號

三月十八日

府

縣

當五月相渡スヘキ金祿公債利金ノ儀ハ未タ證書下附以前ニ付金券調總計表ニ掲載ノ利子金額下附候條客年十一月相渡シ候順序ヲ以テ夫々渡シ方取計フヘシ此旨相達シ候事

○租税ノ部

(大藏省)

乙第拾五號

二月廿八日

府

縣

船車賣藥牛馬賣買等税金納期ノ儀今般第四號ヲ以テ公布相成候ニ付本半年分收入方ハ左ノ通り相心得ヘシ此旨相達シ候事

牛馬稅 右ハ本半年分ハ從前ノ日限通り收入苦ツカラス候事 車稅 賣藥稅 右ハ本半年分ハ六月迄適宜月割ヲ以テ毎月收入取計ヒ苦カラサル事 船稅 右ハ本年一月ヨリ六月迄ノ分ハ會計年度十年分ニ編入致シ右以後其年七月ヨリ翌年六月迄ノ分ニ其年分ニ編入致ヘキ事 但シ商船鑑札再渡書換手數料仕譯書ハ船稅帳ニ編入致シ本年一月ヨリ六月迄ノ分別帳ニ製シ七月三十一日限リ該廳差立右以後ハ其年七月ヨリ翌年六月迄一ケ年分七月三十一日限リ差立租稅局ヘ差出スヘキ事

(太政官第四號二月十五日) 船車賣藥牛馬賣買等税金納期左ノ通り明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事 但從前布告達シ中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ 船(商船船渡船等)車賣藥牛馬賣買等ノ税金前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄廳ヘ相納ム可キ事 但船稅ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ一年分七月以後ハ半年分七月破船六月以前ニ係ル者ハ半年分七月以後ハ一年分納稅ス可キ事

(地租改正局) 乙第一號 二月二十八日

山林原野其他開墾許可ノ分別紙雛形ニ照準詳悉取調本年ハ可成手續調理次第差出ス可シ以降ハ反別増加或ハ繼年季等之アル年度毎帳簿ヲ更正致シ地券稅帳一同大

藏省へ差出ス可シ此旨相達候事

但各廳ニ於テハ雛形ニ準シ原籍ヲ製シ本反別人等遺漏無之様調理可致事

〇帳簿ノ部

(大藏省) 乙第八號 二月廿五日

府 縣

明治八年六月乙第八十四號ヲ以テ相達シ候酒類營業人員並ヒニ釀造石高帳ノ儀ハ釀造石高而已記載候儀ノ處自今釀造元米高何石此釀造石高何石ト相認メ候儀ト相心得ヘシ此旨相達シ候事 但シ十年度石高帳差出シ濟ノ分ハ其釀造元米高更ニ届ケ出ヘキ事

(大藏省) 乙第九號 二月廿七日

府 縣

西洋複記式記簿ノ方法ハ出納上必須ノ儀ニ付右法方傳習致サセ候條右ニ從事スヘキ者兩名以上相撰ヒ當省ヘ差出スヘシ此旨相達候事 但シ從前傳習届ケ既ニ習熟ノ分ハ差出スニ及ハス候事

(大藏省) 乙第十號 三月十八日

府 縣

本年第一號ヲ以テ當一月以降勘定帳附屬通算表明細表共差出ニ及ハス右原簿ハ整頓ノ上各廳ヘ可備置旨公達有之候處該原簿ノ儀ニ付ヲハ往々誤認ノ向モ有之哉ニ相聞ヘ候得共右ハ全ク從來ノ通算表及明細表ヲ以テ即チ原簿ト指示セラレシ儀ニ有之尤モ表面縱橫線ヲ相用ヒスル一目瞭然ナレハ適宜編製ニテモ苦ツカラス候條

官令

支廳及ヒ神社ノ分トモ悉皆取纏メ全部整頓ノ上本廳へ備置候儀ト相心得ヘシ此旨
爲念相達候事

(太改官第壹號十一年一月十七日)明治十一年一月以降勘定帳書式改正候ニ付明
治八年(八月)第百四拾九號達出納勘定帳書式ノ内乙號通算表明細表共同月以降
差出ニ及ハス候條右原簿ハ整頓ノ上各廳ニ備置可申事

但勘定帳書式ノ儀ハ大藏省ヨリ相達スヘシ

明治六年三月第八拾號ヲ以テ常額金渡方及ヒ勘定帳差出期限相達候處若シ事故
アリテ勘定帳定期ノ通送致シ難キハ五拾日以内ノ延期可差許ニ付其時々大藏
省へ可申出事 右相達候事

(内務省) 乙第十六號 二月廿八日 府 縣

明治十年十二月廿日當省乙第百十二號達シ中甲乙丙三類ニ準シノ下へ伺書及請
求書並ノ七字増加候條此旨更ニ相達シ候事

(内務省)乙第百十二號十年十二月廿日)廳舎以下營繕ノ儀調査ノ都合モ有之候條
自今新營修繕ニ不拘本年乙第百四十二號達ニ基キ諸官舎及ヒ獄舎警察署並ヒニ官
國幣社御陵墓等營繕費豫算簿甲乙丙ノ三類ニ準シ目論見精算帳共夫々別廉ニ申
牒候様致ス可シ此旨相達候事但シ乙類中目論見帳精算帳ノ儀ハ獄舎ト警察署ト
別冊ニ取調指出スヘキ事

○給與ノ部

(内務省) 乙第十七號 二月廿八日 東京警視本署東京府ヲ除ク府縣

一般人民時機止ムヲ得サル場合ニ於テ身ノ危難ヲ顧ミズ巡查同様ノ働キヲナシ死
傷ノ者弔祭及ヒ扶助料給與方ニ付明治八年太政官第百八十八號御達シノ趣キ之ア
リ候處自家ノ賊難ニ罹リ死傷スル者ハ給與ノ限ニアラス候條此旨心得ノ爲相達シ
候事 但シ特ニ感誦ノ事情アツテ救恤セサルヲ得ザルモノハ其都度事實具狀伺ヒ
出ベキ事

(内務省) 乙第廿四號 三月十四日 東京警視本署東京府ヲ除ク府縣

本年當省乙第十七號達シ文中太政官第百八十八號ハ同官第百八十六號ノ誤リニ候
條此旨更ニ相達シ候

○銀行ノ部

(大藏省) 甲第七號 三月十六日

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金ニ拾万圓ヲ以テ東京府下第一大區六小區新右衛
門町十六番地ニ設立シタル第三十三國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換
準備金ヲ置本年十八日ヨリ壹圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換致
サセ候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除ク外租稅其他一切公私ノ取引上總テ疑念
ナク授受致スヘシ此旨布達候事 但シ右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告

ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

(太政官) 第五號 三月二日

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例第十八條左ノ通改正シ明治十年十二月第

八十三號布告同條例追加取消候條此旨布告候事

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タル可
シ然レニ大藏卿ハ全國ニ發行スベキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルベシ故ニ新
ニ創立ヲ願フ者アルトキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルベシ
尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ
時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ
出納局ニ預クヘシ但シ公債證書ノ時價低下スルトキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公
債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムベシ

○遞報

○電信ノ部

(工部省) 第四號 三月十五日

海外電機通信ノ儀ハ本月廿五日ヨリ明治八年(即チ西曆千八百七十五年)魯國聖彼
特堡府ニ於テ議定ノ萬國電信公法ニ從ヒ取扱ヒ來候事但シ右ニ付諸規則ハ最寄電
信分局ニ於テ承知致ス可キ事

內國和文通信ノ儀從前本文ノ賃錢ノミ取立來候處來ル四月十五日ヨリ出狀人受信
人共住所姓名等ニ至ル迄本文同一ノ割合ヲ以テ賃錢可取立候事 右布達候事

(東京府) 二月 區 戶 長

管内人民諸願ヒ伺ヒ届ケ建白等當府並ニ警視署事務取扱ヒノ區分兼テ達シノ通り
ニ候處其餘目中下水其外汚水浚方或ハ蘆溜街路掃除方並ニ行商辻店等ニ付屢々當
廳ニ申シ出ノ向少カラス右ハ警視署掌管ノ事務ナル儀兼テ各區務所心得ノ通りニ
付區内不心得ノ者之ナキ様注意致スベシ此旨念ノ爲メ相達候事

(東京府) 乙第六號 三月九日 伊豆國七島ヲ除ク區戶長

船車並ヒニ賣藥其他牛馬賣買等税金納期ノ儀ハ本年第四號ヲ以テ公布相成候ニ付
テハ諸車賣藥稅ノ儀ハ本年前半期分ニ限リ當三月ヨリ來ル六月迄四ヶ月ニ割合毎
月徵收シ七月以後ヨリ成規ノ通り半期分取纏メ一時徵收候様該營業人ニ告示ニ及
フベシ此旨相達候事

(東京府) 乙第七號 三月九日 伊豆國七島ヲ除ク區戶長

本年第四號公布ヲ以テ車稅徵收規限改正相成候ニ付テハ自今諸車新調檢印顯出候
節ハ直ニ該半年度ノ税金區務所ニ收入ノ上與印致スヘシ此旨相達シ候事但シ本年
一月以降既ニ檢印濟ノ分ハ即今徵收致スヘキ事

(東京府)

乙第八號

三月十一日

區 戶 長

諸神社神輿渡御ノ節古代ノ裝飾ニ摸倣シ供奉致シ來リ候舊例之アル向ハ其人員而
 已供奉中ニ限リ帶刀若シカラザル旨兼テ官國幣社ニ達シ相成居候處自今府社以下
 モ同様相心得若シカラザル段内務省ヨリ達シ相成候條各社神官ニ告示及フベク此
 旨相達候事但シ本文ノ通り帶刀候節ハ其都度警視署ニ届ケ出ベク尤トモ普通祭服
 着用ノ者ハ帶刀相成ザル儀ト相心得ベキ事

(東京府)

甲第六號

三月十一日

區 戶 長

明治九年舊教部省第二號達シ轉宗改式ノ節承認書授受ノ儀向後相廢止渾テ壬申第
 十三號公布ノ通り相心得ベキ旨内務省ヨリ達シ之アリ候條自今轉宗改式ノ者ハ從
 前葬祭取扱ヒノ者ニ通知及ヒ候置其旨當廳ニ届出ヘク此旨布達候事但シ同宗派ニ
 テ甲乙相轉モ本文同様相心得ベキ事

(太政官布告第十三號七年一月十九日)葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ可相頼旨壬申六月
 第百九十三號布告候處自今教導職ノ輩ニハ信仰ニ寄葬儀相頼候儀不苦候條此旨
 布告候事

(東京府)

三月十五日

學區取締公立小學校教員

小學試驗法中第八條第九條第十條及ヒ第十二條別紙ノ通り改正候條此旨相達候事
 (別紙) 第八條定期試驗臨時試驗大試驗及ヒ集合試驗ニ於テ優劣ヲ判スル之レテ

二等ニ區別ス及第落第是ナリ其方法ハ其級ニ於テノ定點ヲ折半シ(譬ヘハ定點四
 十ノ折半二十ナルキ二十一以上ヲ及第トシ二十以上ヲ落第トスルノ類)其得點ノ
 數半數以上ニ入ルモノヲ及第トシ入ラサルモノヲ落第トス但シ二科全ク零點ヲ採
 ル者ハ其得點半數以上ニ入ルモノト雖モ落第トス
 第九條定期試驗臨時試驗(拔群俊秀ノ生徒ニシテ定期ヲ待ツコト能ハサル者ニ施
 ス試驗ニ限ル)大試驗及ヒ集合試驗ニ於テ褒賞物ヲ定ムルノ法ハ試驗ニ於テノ得
 點ヲ其級ノ定點ニ比較シテ定點ノ二十分ノ十八以上ヲ得ルモノヲ優等トス而シテ
 定點ノ滿點ヲ得ルモノヲ甲科トシ定點二十分ノ十九以上ヲ得ルモノヲ乙科トシ定
 點ノ二十分ノ十八以上ヲ得ルモノヲ丙科トス但シ一科全ク零點ヲ採ルモノハ褒賞
 物ヲ與ヘス且ツ點數ヲ定ムルニ小數ヲ生スルハ四捨五入ノ法ニ據之テ加減ス可
 シ
 第十條定期試驗及ヒ臨時試驗ノ問題ハ試驗掛リ其受持教員ト協議シ之ヲ定ムヘシ
 ト雖モ時宜ニヨリ學務官之ヲ與フコアルヘシ
 第十二條定期試驗大試驗及ヒ集合試驗臨時試驗ヲ行ヒ卒業證書ヲ與フルハ其校教
 員之ヲ掌リ褒賞物ヲ與フルハ試驗掛リ之ヲ行フヘシ

官令

内務省日誌

自明治十年第四拾六號至第四拾八號

○制度ノ部

第四十六號 東京府伺 十一月廿一日

府下寄留和歌山縣士族大井憲太郎外壹名ヨリ板權免許狀書替ノ儀別紙ノ通免狀添願出候處如何取計可然哉相伺候也

(指令) 十一月廿六日 書面箕作麟祥大井憲太郎合譯(佛國)法律提要第貳冊ヨリ大井憲太郎一名ニテ翻譯致シ候ニ付免狀書換願出候處不及其儀出版條例第貳拾九條ニ準シ其府ニ於テ裏書捺印シ本人へ下付可致候事

第四十七號 山口縣伺 十一月廿日

本年四月中石川縣伺へ御指令ニ行商鑑札一枚ニ五方迄ヲ限リ鑑札料八十枚毎ニ收

入云々ト有之然ラハ五方迄ハ幾度ニ願出候トモ鑑札書替下渡シ其都度鑑札料ハ徵收スルコ及ハサル哉將ク其都度二拾錢ノ鑑札料收入可然哉相伺候也

(指令) 十二月七日 書面ノ趣幾度ニモ願出候モノハ其都度五方以内タリモ別ニ製シテ之レヲ下付シ鑑札料ハ二拾錢收入可致事

○職務罰例ノ部

第四十七號 鳥根縣伺 十一月八日

區町村總代人掌務上ニ就キ過誤失錯アルキハ客年六月八日付太政官達第一項備其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スルモノ云々ニ據リ處分可然哉又ハ民撰ヲ以テ人民ノ代理ヲラシムル者ナレハ一般人民ト看做シ懲戒處分ノ限ニ無之哉相伺候也

(指令) 十二月三日 書面伺ノ趣懲戒處分ノ限ニアラス

第四十七號 三重縣伺 十月十日

本年御省日誌第拾九號堺縣伺處刑濟宿村遞送ノ節看護人其途中逃走スルヲ覺ラサルルキ云々右看護人ノ如キ都テ其宿村戸長役場ヨリ雇入ル者ニシテ同場ヲ官衙ト看做キハ官廳雇ノ者ト同シ明治九年太政官第三拾四號御達官吏懲戒例追加第一項雇其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スルモノ云々トアルニ準據シ處分可致哉伺ノ通ト御指令有之當縣宿村送ノ者繼立ノ儀ハ明治八年六月中及上申置候通り各區ノ情類ニ任セ各驛通運會吐其他望願ノ者ニ爲請負看護人モ請負人ヨリ雇入候者

ニテ官廳雇ノ者ト同一ニ看做シ難キニ付途中逃走等ヲ覺ラサルキハ看護人ハ不問ニ置キ請負人ノニ懲戒處分可然哉相伺候也

(指令) 十二月七日 書面伺ノ趣通運會社或ハ望願ノ者ニ爲請負看護人其逃走ヲ覺テカル者ノ如キハ懲戒處分ノ限ニアラス

第四十七號 長崎縣伺 十一月十四日

本年五月二十三日付ヲ以テ官吏一旦免職再ヒ奉職ノキ舊任中ノ過失發覺スルモ轉任トハ異ナルニ付該過失ハ不問ニ付ス可哉云々相伺候處八月廿日付ヲ以テ官吏轉任免職廢官ヲ論セシ現ニ官職ニ在ル者舊任中ノ過失發覺スル時ハ懲戒處分ニ及ラ可旨御指令有之過失ヲ犯シテ處斷前依願免職スル者ト雖モ其他日再任ノ時ヲ待テ懲戒處分ニ可及哉然ルキハ處斷前免職ノ者年ヲ經テ他ニ再任スルモ必ス舊任應ヨリ新任應ニ通牒シテ新任本屬長官ヨリ處分ニ及フ可キ儀ト相心得可然哉相伺候也 (指令) 十二月十日 書面伺ノ趣官吏過失アリテ發覺若クハ自舉シ懲戒セントスル際罷免シ一旦其懲戒ヲ止メシ者他日再任セシキハ之ヲ新任ノ廳ニ移シテ懲戒スルコ舊任中過失アル者轉任ノ後發覺スル者ト同一ノ儀ト可心得事

第四十六號 島根縣伺 九月十二日

負債償却ノ爲メ身代限處分ヲ受ル者ハ人民ノ義務ヲ欠キ獨立ノ權理ヲ失フニ付其儘官員又ハ區戸長神官一寺住職等ニ差置候モ如何敷候間旨ヲ諭シ辭職セシムヘキ

哉且教導職權訓導以上ニ係ル分ハ御省へ具申試補ハ其管長へ移牒前段ノ手續ニ取計可然哉相伺候也

(指令)十一月廿二日 書面伺ノ通

第四十八號

青森縣伺

十月三十日

民事裁判ノ末身代限濟方申付候者ハ勿論示談ヲ以テ身代差出候分共原被告人戸長役場へ申出候ハ、財産取調ノ節戸長立會可致旨兼テ區戸長へ達置候處管下第八大區三戸郡五戸町平民藤田富太郎ヨリ第七大區大浦村平民蝦名兵次郎へ係ル貸金滯ノ儀出訴相成遂ニ身代限濟方申立ニ付裁判所ヨリ揭示書ヲ受取戸長役場へ財産取調ヲ申立ルノ處戸長之ニ立會ハス而シテ戸長ヨリハ裁判所へ立會ヲナスヘキヤ否ヲ伺出候處本縣達ノ趣モ有之速ニ立會財産取調可致旨指令アリ仍テ戸長役場ヨリ更ニ該原被告ヲ呼出シ戸長立會財産取調ニ付原被告再度往復ノ内一回ノ旅費ハ全ク戸長ノ錯誤ヨリ生スル儀ニ付該戸長ハ懲戒例ニ據リ處分可致候得共旅費ハ何レヨリ支給可然哉相伺候也

(指令)十二月十二日 書面戸長錯誤ノ爲メ呼出旅費ノ儀ハ官費ヲ以テ支給可致筋ニ付定額常費ノ内ヨリ仕拂可致事

○民法ノ部

第四十六號

宮城縣伺

十月廿七日

明治六年第貳拾八號家督相續法公布第四條ノ御趣旨ニ基キ隱居ノ養父他へ縁付候節忌服ニ差別有無ノ儀同七年七月廿五日付テ以テ相伺候處同年十月四日隱居セシ養父他へ縁付候節ハ當戸主ノ養子ハ無忌服ト可心得旨御指令有之然ルニ今般御頒布相成候法例彙纂第三板ニ昨九年四月五日御省伺ノ條款第二條ニ家生ノ養父隱居ノ後他家相續セハ都テ前條ニ倣ヒ養方叔父ト稱シ叔父ノ服忌ヲ受ケ可然哉へ同四月廿七日太政官御指令ニ二條共同ノ通ト有之然ルルハ養父ニ家生他生ノ二種有之ニ付家生ノ養父ナルルハ御省伺定ノ通ニシテ他生ノ養父ナレハ當縣伺定ノ通ニ樣共遵行候儀ニ可有之哉再應相伺候也

(指令)十一月十七日 書面伺ノ通

第四十六號

福島縣伺

十一月六日

第一條 從來管內醫生ノ内過半漢洋法折衷ト唱へ開業ノ者有之其初メ漢法ヲ學ヒ中間僅ニ一二ノ譯書ヲ讀ミ或ハ師ニ就ク半年乃至一兩年ニシテ開業スル者ニテ治療ノ功拙ハ暫ク之ヲ措キ藥品取扱上ニ於テモ往々危殆ノ患甚カラス今回專ラ洋法ニ改業致度段出願ニ及ヒ候ニ付御省日誌昨九年八月三日付鳥取縣伺第九條ノ御指令ニ據リ相考候得ハ是等モ新規開業ノ者ト看做シ客歲乙第五号御達科目ニ照準シ試驗ヲ遂ケ其成績ニヨリテハ醫術改進ノ一端ニモ有之候間上申ノ上免狀御授與可相成哉將々試驗ノ摸樣ニ依リ縣限リ許否取計可然哉 ○第二條 他管內醫術開業

ノ節試験ヲ要シ候儀ハ昨九年御省衛生局官員巡回ノ際口達ニ有之且同年五月十三日付京都府御指令ニテ判然候得共新規開業ト看做シ候上ハ其成績具狀ノ上免狀御授與可相成哉或ハ前條ノ如ク縣限リ許否取計可然哉 ○第三條 前條ノ者漢洋法ニ候得者豫テ御達ノ科目ニ從ヒ試験シ學術上不適當ニ候得ハ洋法施術ハ差止メ漢法開業開屆不苦哉ニ相考候處漢法主一ノ者ニ候得者素ヨリ試験科目ニ比スヘキ様無之乍併新規開業ト看做シ候上ハ適宜問題ヲ與ヘ試験可致哉或ハ不問ニ付シ可然哉 右件々相伺候也

(指令) 十一月廿六日 第一條伺ノ通り從前漢洋折衷ノ者新タニ洋法專業志願ノ者ハ試験ヲ遂ケ其對策書相添當省ヘ可伺出事 第二條他管内ニ於テ從來開業ノ者移轉開業ヲ請フ者試験ノ儀ハ京都府ヘ指令ノ旨モ有之候得共當分該地ノ情況ニ因リ邊僻ノ村邑ニ至テハ醫師缺乏ノ憂モ可有之ニ付適宜處分不苦候事 第三條他管ヨリ轉住シテ開業ヲ請フ者テ新規ト看做シ試験ヲ遂ケタル上ハ其學術不適當ノ者ヘ漢法ノミ開業開屆候儀ハ不相成候儀ト可相心得事

第四十六號 島根縣伺 六月十二日

第一條 明治八年御省日誌第十號名東縣伺第三條長次男有之配偶スヘキ娘並分家スル目途無之ニ養子貰受候儀不苦旨御指令相見候得共客年四月舊鳥取縣伺ヘ御指令ニハ實子女ヲ有スル者ハ婿養子ハ不相成云々ト有之候得者名東縣ヘノ御指令ハ

御取消相成タル儀ニ候哉果シテ然ラバ嗣子ノ外女ヘ婿養子致シ分家ノ見込アル分モ不相成儀ニ候哉或ハ婿養子ニ無之分ハ長次男ノ外ニ養子致シ不苦哉且既往ニ涉ル分ハ其儘差置可然哉 ○第二條 客年六月舊鳥取縣ヘ養家ノ伯母(血肉ノ續ナシ)ハ一旦他ノ養女トスルモ妻トスルテ得サル旨御指令有之就テハ明治六年七月廣島縣伺養子ノ續ニテ父母ヲ除クノ外都テ一旦他ノ養女トシ娶リ候ハ不苦旨御指令ハ御取消ト心得可然哉又ハ右廣島縣伺中一旦他ノ養女トシテ妻ニ娶ルモ不苦トアルハ何等ノ續柄ニ候哉 右兩條相伺候也

(指令) 十一月廿七日 第一條相續致サセサル養子婿養子共貰受候儀ハ舊名東縣伺指令ノ通心得ヘシ但舊鳥取縣ヘ指令ハ相續スヘキ婿養子ヘ對シ候者ト心得ヘシ 第二條舊鳥取縣ヘ指令ハ取消ト可心得事

第四十六號 廣島縣伺 十一月十四日
 教導職試補以上ニ非サル者ハ仮令得度濟ノ者ト雖モ平民ヲ以テ論シ職業ハ農工商雜ノ内取極候筋ニ可有之候得共幼年ヨリ佛學ニ從事シ他ニ職業無之者眞宗僧侶ノ内ニハ數多有之既ニ本山ニ於テ得度ノ際終身教義ニ從事スヘキ旨誓約書モ差出候處農工商ノ職業相設候テハ其本ヲ失フ旨申立候者モ有之其實職業取極届出候トモ有名無實ニ付無職業ノ者ハ戶籍簿并本人願伺届書等肩書共平民トノミ記載可然哉 相伺候也

(指令) 十一月廿七日 書面伺ノ通記載可致候事

第四十六号

和歌山縣伺

九月十三日

第一條 爰ニ一ノ公有秣場アリ其之ヲ芟刈スルヤ從前村内ノ規約ナキヲ以テ頗ル雜濫紛淆ニ涉リ太甚シキニ至テハ他村ヨリ竊ニ之ヲ芟伐シ或ハ一村中ニシテ他ノ所有ヲ侵刈スルカ如ク擧村ノ不便ヲ醸生シ其勢不得已ヨリ今般村民一同熟議ノ上秣刈取ノ規約ヲ立テ違約ノ者アルハ相當ノ違約金ヲ取立村内ノ公費ニ相充度ト事 ○第二條 地租金怠納ノ儀ハ一般ノ制規有之候得共區費ニ至テハ其制限モ無之ヨリ各自本分ノ義務ヲ緩漫ニ付スルノ輩モ尠カラス隨テ區戸長役場ノ不都合ト一區一村ノ支牒トテ胚胎候ニ付自今區費ニ於ルモ相當ノ怠納金ヲ取立一般區費ノ補助ニ相充度トノ事 右兩條ノ通伺出候區モ有之候得共客年司法省達第八拾號ヲ以テ大審院等ニ被相違候次第モ有之ニ付裁判上素ヨリ無効ノ者ト相心得且第二條ノ如キハ事理殊ニ不穩當ニ候得共未タ一般ノ公布モ無之且村民一同ノ熟議ニ出テ別段支牒無之分ハ地方廳限リ聞置可然哉相伺候也

(指令) 十一月三十日 書面第一條村民一同ノ熟議ニ出候上ハ申出ノ通聞届所轄裁判所ニ通牒可致第二條ハ本年第七十九號公布ノ通相心得別段ノ約束ヲ立候儀ハ不相成旨可相違事(司法卿連名)

第四十七號

三重縣伺

十一月廿日

本月二日裁判事件ヨリ生スル呼出狀往復賃錢仕拂費途ノ儀伺ニ同十日付ヲ以テ御指令相成候處右御指令第一項ニ據ルルハ町村事務所ヲ經テ本人ニ達スル呼出狀モ其町村事務所マテノ賃錢ハ官費町村事務所ヨリ本人ニ達スル賃錢ハ町村費ト相心得可然哉又御指令第二項但書ノ赴モ有之候得共畢竟其本人現在ノ時ハ必ス之レヲ辨償スヘキ筋ニ付其家族或ハ親戚ヨリ辨償取計ヘシ候得共若シ家族親戚トモ無之ニ於テハ其原告人ヨリ辨償爲致可然哉何分逃亡人ニ係ル呼出狀ノ費用ヲ以テ該區ノ民費ニ賦課シ難キ様被存候間再應相伺候也

(指令) 十二月八日 一裁判所ヨリ刑事ニ屬シ町村事務所ヲ經テ本人ニ達スル呼出狀賃錢ハ伺ノ通 一民事ニテ逃亡人ヲ呼出タル呼出狀賃錢取立方ハ別紙達書ノ通り可相心得事

達書

本月十日相達候裁判事件ニ付區戸長ヲ經テ本人ニ達スル呼出狀其間ノ儀伺書指令文第三項司法省ヨリ申越ノ次第モ有之候ニ付左ノ通り更正候條此旨相達候事
一裁判所ヨリ人民呼出ノ節呼出狀誤寫ニテ名前違ヒ或ハ其呼出人名ノ者無之等ニテ往復ノ賃錢ハ其主務官員ヨリ賠償セシムル儀ト可相心得事 但シ民事ニテ逃亡人ヲ呼出タル賃錢ハ其區ノ民費ニ可相立尤原告人アルハ其原告人訴答文例第一卷第一章ノ手順ヲ踐履セヌ其以前逃亡セシテ知ラヌシテ出訴セル場合ニ於テ

ハ原告人ヨリ可取立儀ト可相心得事

(前伺) 十一月二日

名古屋裁判所安濃津支廳ニ於テ裁判事件ヨリ生スル呼出狀區戸長ヲ經テ其本人ハ達セシムル等ノ儀往々有之ニ付該支廳ヨリ區扱所迄又區扱所ヨリ其呼出人ハ達スル賃錢ハ民費或ハ其呼出人ノ自費ニ相立ヘキ哉或ハ支廳ヨリ區扱所迄ノ分ハ官費ヲ以テ仕拂フヘク哉且該支廳ヨリ人民呼出ノ節逃亡又ハ誤寫ニテ名面違ヒ或其呼出人名ノ者無之等ニテ戻狀等往復ノ賃錢ハ總テ民費ニ課出相成度旨同支廳ヨリ照會有之候得共該實ノ如キハ民費ニ相立ヘキ理由無之殊ニ本年七月以降ハ管内ノ飛脚賃其他區戸長及ヒ人民願伺指令書并其他ノ簿書類等總テ縣廳ヨリ大小區扱所及ヒ町村事務所迄ノ遞送費ハ悉皆官費ト相成候儀ニ付前陳各種費用ノ如キモ本年七月前後ニ跨リ候心ノ有之何レノ費途ヨリ仕拂可然哉相伺候也

(指令) 十一月十日 一裁判所ヨリ區扱所ヲ經テ本人ハ達スル刑事ニ屬スル呼出狀區扱所迄ノ賃錢ハ該裁判所ノ官費區扱所ヨリ本人ハ達スル賃錢ハ區費ニ可相立儀ト可心得事 一裁判所ヨリ本人ハ直チニ相達スル刑事ニ屬スル呼出狀賃錢ハ該裁判所ノ官費ニ相立候儀ト可心得事 但シ兩條共民事ニ屬スル分ハ自費ト可相心得事 一裁判所ヨリ人民呼出ノ節呼出狀誤寫ニテ名前違或ハ其呼出人名ノ者無之等ニテ往復ノ賃錢ハ該裁判所ノ官費ニ相立候儀ト可相心得事 但シ民事ニテ逃

亡人ヲ呼出タル賃錢ハ其區ノ民費ニ可相立儀ト可心得事 一前條ノ入費本年七月以前ノ分ハ従前慣習ニヨリ仕拂候儀ト可心得事

第四十八號 廣島縣伺 十一月六日

各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリノ人民呼出狀(戸長宛ニテ其結文ハ何日第何時民事課ニ可令届候也ト記載ス)途中川支或各廳ヨリノ呼出期限切迫ニシテ(警ハ十里内外ノ地ヘ八日付ニテ十日午而ニ出頭方ノ呼出狀ヲ區務所宛ニテ郵便局ヘ差出其郵便線路ノ脚夫差立定日ハ半ノ日ニ付翌九日ニアラサレハ脚夫ヲ差立テス故ニ其呼出狀翌十日即チ呼出刻限後ニ區務所ヘ届キタルノ類)區務所ヘノ到達既ニ其期日ヲ過去リ或切迫ナルヲ以テ區長ニ於テ本人刻限通り出頭スル能サル者ト確認スル上ハ本人ニ傳達セス(傳達スル片ハ七年司法省甲第二拾一號布達ニ據リ本人遲參ノ罪ヲ免カル、ニ由ナシ)直チニ其事由ヲ細述シ其呼出狀ハ差立ノ各廳署ヘ還附シ其郵便稅ハ該廳費或警察費ヨリ辨償スル方當然ノ儀ト被存候得共定規外ニ付相伺候也

(指令) 十二月十一日 書面伺ノ通但民事呼出狀途中川支ノ如キ天災ノ爲メ遲延ナル時郵便稅ハ曲者ノ辨償タルヘキ儀ト可相心得事

第四十八號 和歌山縣伺 十一月十五日

管下第壹大區九小區黑江村平民岩橋吉兵衛ナル者從來漆器工ニ候處嘗テ舊名吉右

衙門ヲ本名ニ改更候得共得意向都テ舊名相唱へ營業上支障甚カラス因テ舊名復稱ノ儀別紙願書差出候ニ付聞届可然哉相伺候也 別紙畧之

(指令) 十二月十二日 書面ノ趣聞届不苦候事

第四十八號 愛知縣伺 十月廿五日

第一條 死亡者跡家督相續ニ由テ地券書換願出ノ處滿六箇月ヲ總過セシニ付推問中其者病死致シ犯科消滅候分ハ科金ヲ取立テス券狀ハ順序ヲ逐ヒ一旦相續人(病死セシ者)名前ニ書換相渡シ而シテ再ヒ後ノ相續人名前ニ書換願出サセ可然哉

第二條 死亡者跡養子ニテ家督相續滿六ヶ月後地券書換出願致サレル内病死或ハ病氣ニ依テ離縁復籍セシヨリ直ニ寡婦名前ニ書換ヲ請願スルカ如キハ固ヨリ書換ノ順序ヲ履行シ難キニ付寡婦相續セシヨリ滿六ヶ月ヲ經過セサレハ聞届々直ニ書換相渡可然哉

(指令) 十二月十三日 第一條病死ニ依リ犯科消滅候分ハ科金取立ニ及ハス候得共地券死者ノ名前ニ書換フル筋ハ無之候條其儘後ノ相續人へ下戻シ其者ヨリ更ニ書換出願爲致候儀ト可相心得事 ○第二條伺ノ通

第四十八號 和歌山縣伺 十一月廿日

本年七月裁判所ノ懸合ニ依テ取計候人民呼出狀遞送費ノ儀ニ付相伺候處同八月十六日付テ以テ民事ニ付人民呼出狀遞送費ノ儀ハ曲者ヨリ一應裁判所へ取立同所ヨ

リ其縣へ償却候モ曲者ヨリ直ニ其縣へ取立候モ兩應協議ノ上便宜可取計且刑事ニ付證人及ヒ付添人等呼出狀遞送費ノ儀ハ本管廳ノ經費ニ可相立旨御指令ニ據リ裁判所ト協議ノ末右ニ照準取計居候處本年御省日誌第貳拾貳號愛媛縣伺へ御指令ノ趣ニテハ民事刑事ニ付人民呼出ハ裁判所ヨリ直達可致者ニシテ府縣廳ヲ經由スヘカラサル者ト相見へ候果シテ然ラハ自今裁判所ヨリ直達候様掛合ニ及ヒ前段經費ノ如キモ當廳ニ於テ一切關係無之筋ト相心得可然哉相伺候也

(指令) 十二月十四日 書面伺ノ趣民事刑事ニ付人民呼出ノ儀ハ本支區裁判所ヨリ可成直達可相成筈ニ候得共事故有之呼出方地方廳へ掛合越候節ハ受續キ相達シ右遞送費仕拂ノ儀ハ本年八月十六日付指令ノ通可相心得事

第四十八號 三重縣伺 二月十三日

地所書入質入規則御頒布前質入書入等取計候分其村町戸長ノ與書割印モ有之取テ成規ニ觸レタル廉無之故ヲ以テ其儘舊証書ヲ所持スル者有之節ハ質入書入ノ效可有之哉且又成規ニ觸レタル舊証文ニテ明治六年八月一日以後証文書改ノ式ヲ失シ候分ハ無論質入書入ノ証據ニハ不相成儀ニ付假令ヒ質入地ニテ地租諸役共金主ヨリ勤來ル者ト雖モ書改ノ式ヲ失セシ廉發顯ノ節ヨリ地主ヨリ相勤サセ相當ニ可有之哉相伺候也

(指令) 十二月十四日 書面ノ趣公布前從前ノ與書割印等無之者ト雖モ原ト六年第

十八號及ヒ七年第七十六號布告ハ裁判上糶賣公配ノ節先取ノ特權ヲ失フヲ示ス
モノトス行政上取扱ニ於テハ成丈之ヲ懇諭シ成式ニ遵ハセ候様可致事

第四十八號 愛媛縣伺 九月九日

第一條 實子長次三男共廢疾又ハ事故有之養子ヲ以テ相續人ト定ムルハ長次三男養子共各年長テ以テ順序可相立哉ノ旨明治八年一月十五日相伺候處伺ノ通ト御指令有之就テハ養子長男ヨリ年長ナルハ養子ヲ以テ長男トナシ實長二三男ハ順次繰リ下クルハ勿論右養子離別ニ及ヒ再ヒ養子ヲ迎ヘ候節其養子ノ年齢實子ノ長男ヨリ少ク二男ヨリ長シタルハ養子ヲ三男トシ二三男ハ再ヒ繰リ下ケ可然哉
第二條 獨身ノ戸主幼少ニシテ一家ヲ經營スル能ハサルヲ以テ年長ノ者ヲ養子(該家ヲ相續セシムルタメニアラス赤貧ニテ糊口ニ艱ムヲ以テ幼戸主養育ヲ受ケル積リノモノ往々有之)トナシ後見人ニ相立不苦哉 ○第三條 分籍セシ戸主死去後他ニ相續人無之且赤貧ニシテ遺妻モ亦相續スル能ハス依テ其家ノ祭祀ハ宗家ニ托シテ遺妻ハ實家ヘ復歸スルモ不苦哉 ○第四條 婦女子ニシテ自他幼者ノ後見人トナルハ聞届不苦哉 右件々相伺候也

(指令) 十二月十四日 第一條實子アル者ノ養子ハ實子長次男ノ次ニ記載シ相續ノ旨ヲ額書シ置クヘシ但最前指令ハ改正ノ儀ト心得ヘシ 第二條養子ヲ以テ後見人ト致シ候ハ不都合ニ候得共實際赤貧等不得已者ニ候ハ、相續人貰受ケ其身嗣子ト

相成候ハ苦シカラス 第三條伺ノ通 第四條女戸主ノ外婦女ニテ後見致シ候ハ不相成候共自家ニ候ハ、家族ニ候共母祖母ニテ後見致シ苦シカラス

○戸籍ノ部

第四十八號 島根縣伺 十一月二日

父甲母乙長男丙次男丁ノ四名アリ甲死亡ノ後丙脱籍シテ乙他ニ再嫁ス其後數年ヲ經テ丁ナル者親屬ノ許ニ寄食シテ更ニ他ノ養子トナリテ其家ヲ相續ス(以上維新前ノ事ニ係ル)其後丙ヲ捕縛スルニ之ヲシテ復籍セシメントスルニ其家ハ既ニ斷絶ス然ルニ丁ハ丙脱籍後其家ヲ相續スヘキ理由ナルニ之ヲ捨置キ他家ヲ相續セシ上ハ該家ノ負擔スヘキ義務ハ丁之ヲ盡サ、ルヲ得ス然レハ丙ハ丁ニ引渡シ候方至當ニ可有之哉又ハ丁既ニ他家ヲ相續スル上ハ之ニ關係ナキモノト看做シ丙ハ無籍ヲ以テ取計ヒ授産場ヘ入場申付可然哉相伺候也

(指令) 十二月十四日 書面ノ趣既ニ他家ノ養子トナリシ者ヘ實家ノ家族ヲ可引渡筋ハ無之候條丙ハ無籍ヲ以テ可取扱事

○警察ノ部

第四十六號 福島縣伺 十月廿七日

各警察署權限一定ノ御規則モ無之候得共實際ニ於テ不都合無之分即チ陸海軍省ノ兵逃走中該署ヘ首告スルニヨリ拘留ノ上該省ヘ實否取札ノ爲メ照會スル等ノ如キ

內務省日誌

ハ官省へ伺書ヲ出ストハ事實異ナル儀ニ付無論差許可然哉相伺候也

(指令) 十一月廿六日 書面ノ趣ハ本人所管ノ兵營へ直ニ照會爲致候儀ハ不苦候事

第四十七號 京都府伺 十一月十二日

甲某山林ニ於テ遺失物數拾點拾得ノ旨届出ニ付檢査スルコ其内三點ハ乙某向ニ盜難ヲ届出シ書面品書ニ的當セリ因テ事主ヲ喚問スルニ果シテ被盜品ニ係ルヲ以テ事主ニ全給シ其費用ヲ償ハシムルニ素ヨリ當然ニ候得共殘品數拾點ハ盜贓ト尋常遺失物トノ區別判決シ難キニ依テ一年間掲示スルト雖モ終ニ事主遺失主トモ届出無之然ルニ其三點ハ盜贓ニ係ルモ其餘迄一概ニ之ヲ不正品ト看做シ難キニ付尋常遺失物ト同視シ拾ヒ主へ全給致シ可然哉相伺候也

(指令) 十二月四日 書面伺ノ通

第四十八號 大坂府伺 十一月廿四日

遺失物品中

主上 皇后宮ノ御寫像有之官沒致候節ハ御省へ相納可然哉相伺候也

(指令) 十二月十一日 書面ノ趣宮内省へ納付可致事

○教法ノ部

第四十七號 島根縣伺 十月廿五日

神道教導職及ヒ試補人民ノ請求ニ應シテ邸宅内ノ祭事ヲ執行シ或ハ神官ノ依頼ヲ

受ケテ一社ノ神事ヲ相扶ケ候等ハ差支無之哉尤祠官掌ノ代理ヲ致サセ候儀ハ不相成筋ニモ可有之哉相伺候也

(指令) 十二月一日 書面ノ趣邸宅内タリモ衆庶參拜差許有之神祠ノ祭事ハ神官ニ限ルヘシ一社ノ神事ハ當日備等ヲ以テ神官ヲ相扶ケ候ハ苦カラヌ尤祠官掌ノ代理ハ不相成儀ト可心得事

第四十七號 愛知縣伺 十一月二日

神體ノ儀ハ容易ニ更換不相成儀ト存シ候處勸請ノ際皇太神宮大麻或ハ神札等ヲ以テ神體トシ崇敬致シ來リ候分更ニ神鏡ニ相改メ度旨ヲ以テ神宮司聽へ神鏡請求方ノ儀伺出候向有之右ハ式内ニアラサル郷社以下ノ神祠ト雖モ一切不相成筋ニ可有之哉若シ更換不苦儀ニ候ハ、篤ト調査ノ上縣應限リ聞届可然哉相伺候也

(指令) 十二月五日 書面ノ趣大麻神札等ヲ以テ神體ト致シ來リ候向ハ神鏡相納候儀ハ其縣限聞届苦カラヌ尤由緒アル靈代變換ノ儀ハ寶物處分ニ準シ其都度可伺出事

第四十八號 島根縣伺 十一月一日

寺院住職選舉ノ儀ハ壬申八月舊教部省達ニ據リ該寺檀徒總代二名以上ノ願書ハ其宗取締ヨリ履歷薦舉書爲相副管長或本寺ノ副書ヲ以テ出願ノ手續ニ取計來候處左ノ件々如何相心得可然哉相伺候也 ○第一條 寺院ハ檀徒ノ保護ヲ以テ永存スヘキ等ニ付其住職撰舉ニ檀徒ニ於テ協議相整ヒ別ニ品行上不都合ナキ者ハ其本寺法

類該管長取締等ニテ法系ノ順席或前住ノ遺言アル等ヲ主張シ檀徒ノ情願ヲ拒ム權
利ハ無之哉果シテ然ラハ本寺法類等ニテ差拒ムトモ檀徒ノ情願ニ任セ住職申付其
段該管長へ通知致シ置不苦哉 ○第二條 住職撰擧ノ際檀徒歸依ノ僧甲乙アリテ
協議相整ハス甲乙トモ品行上不都合無之ト雖也假令ハ甲ハ檀徒中其八分乙ハ其二
分ノ歸依ナルキハ甲ヲ住職ニ爲相願可然哉

(指令) 十二月十一日 書面ノ趣左ノ通可心得事 第一條檀徒ノ情願ニ任セ苦カラス
第二條歸向ノ多數ニ從フヘシ

○地理ノ部

第四十六號 福岡縣伺 九月十四日

第一條 官林燒燼ノ際其村方或ハ近隣ヨリ驅付消防スルト雖トモ容易ニ撲滅ニ至
ラス或ハ數刻ヲ移シ或ハ一兩日ニ涉リ消防者ニ於テハ喫飯セサルヲ得ス因テ出張
ノ巡查及ヒ村吏等時機見計ラヒ糧米ヲ焚出シ喫食セシメ候トキハ右入費官費支給
取計可然哉 ○第二條 暴風雨ノ爲往還並木道路へ轉仆シ人馬ノ通行ヲ妨ク須臾
モ難關ニ付取敢ス戸長ノ取計ヲ以テ枝葉ヲ斬リ道路ヲ開キ始末方致シ候入費官費
支給取計可然哉 右兩條相伺候也

(指令) 十一月十七日 書面第一條警察官吏ニ於テ及指圖候分ハ伺ノ通取計追テ其顛
末並焚出入費等詳細取調へ別途請取方可申出第二條ハ昨九年當省乙第拾五號達ノ

趣モ有之ニ付右賣拂金ノ内ヲ以テ支給候儀ト可相心得事

第四十六號 神奈川縣伺 十一月廿日

三等道路へ橋梁ヲ架シ渡津ヲ開キ及ヒ入費消却ノ爲メ路錢橋錢等ヲ收入スルコトハ
府縣事務章程下款第四十一條ニ開載セリ而シテ其二等以上ニ該ル者ハ明文ナシト
雖也左ノ條件ノ如キハ伺ヲ經ス處分シ可然哉 ○第一條舊一二等ノ道路中既ニ設
置ノ渡船及架橋(橋錢ヲ収ムルモノ)賃額ノ内假令ハ牛馬ハ若干ノ定額アリト雖也
馬車人力車ニ至テハ未タ其定額無之箇所アルキハ之ニ相當ノ賃錢ヲ新定シ或ハ從
來各品ノ定額アルモ若シ不當ト思考スルキハ之カ増減ヲ爲サシム等ノ事 ○第二
條同前渡船場ニシテ洪水ノ際其水位ニ因テ渡船ヲ止メ及ヒ減水ノ後之ニ川明ヲ許
ス等其制未タ立サル箇所へ新タニ之カ定限ヲ設クル事 ○第三條 全前渡船場ノ
内冬季等ニ際シ該川枯涸ニ由テ便宜ノ爲メ一時假橋ヲ設クル願ヲ許可スル事

(指令) 十一月廿九日 書面第一條渡船場ノ儀ハ賃錢増減差支無之候得共道路橋梁
ニ至リテ入費消却年限伸縮ノ儀有之候條其都度可伺出第二條第三條伺ノ通ニ候事

第四十七號 神奈川縣伺 十一月廿日

客月十九日水車營業ノ爲メ河川へ舟ヲ泛へ舟中ニ器械一切ヲ備へ陸上ニ杭木ヲ建
テ該船ヲ繫留シ或ハ微少ノ小屋ヲ河原ニ建設シテ營業スルノ儀ニ付處分方相伺候
處同月二十九日舟中ニ器械一切ヲ備へ陸上ニ杭木ヲ立テ繫留ノ分ハ伺ノ通微少ト

雖小屋ヲ河原へ建設候儀ハ難差許儀ト可相心得旨御指令有之然ルニ渡船ノ場所ニ於テ河原へ微少ノ(水主見張所)小屋ヲ設ケ置キ出水ノ都度其小屋ヲ船へ積込繫留シ又ハ冬季涸水ノ節ノニ筏小屋ト唱へ(筏乗夫休泊所)前ニ同シキ微少ノ小屋ヲ設ケ置キ候類有之此等ハ兼テ出水ノ際流失セサル様注意爲致候ニ付水利ノ防碍ハ無之候得共是等モ爲取拂候テハ事實差支相成候間官地貸渡ノ處分ニ及ハス從前ノ如ク据置申度右ハ彙ニ御指令ノ趣モ有之候間更ニ相伺候也

(指令) 十二月一日 書面申立ノ通可取計事

第四十七號 福島縣伺 十一月廿日

本年御省乙第百四號御達第二條ニ他ノ村町ニ點在セル云々其所在ノ町へ可組替ト有之各村町交互點散スル地所等ハ此際其所在ノ村町へ可爲組替トノ儀ナル哉又ハ第一條ノ如ク本年御省乙第八拾三號御達ノ限ニ無之トノ儀ナル哉相伺候也

(指令) 十二月七日 書面ノ趣乙第百四號達第二條ノ主意ハ飛地錯雜等ノ如キハ必ス其所在ノ村方へ組替候様ト可相心得事

第四十八號 秋田縣伺 十一月廿二日

明治九年御省甲第三號及ヒ明治十年甲第二十壹號ヲ以テ土石類開坑ノ儀御達有之候處縣下ハ元公有地ノ箇所未タ官民ノ區分取調不相成ニ付該地ニ於テ營業致來候分ハ遐テ一般地籍取調濟迄從來仕來ノ通り營業差許置キ地籍調成ノ上官地ニ屬セ

ル分ハ取纏相伺候積(料金舊來ノ儘)テ收入シ明細帳へ組入上納致來候)本年三月一日付ヲ以テ相伺同月十七日付ヲ以テ御開届相成候處該地種中ニ於テ新規開坑願出ノ向多分有之ニ付一般調濟迄差止置候テハ目下人民營業ニ差支候ニ付遐テ地種區分ノ上官地ニ屬シ料金收入可相成節ハ其營業免許ノ月ヨリ起算シ一時上納ノ積ヲ以テ官民未定地ノ儘開坑差許置候様取計度相伺候也

(指令) 十二月十三日 書面伺ノ通

第四十八號 滋賀縣伺 九月五日

往還並木損木跡又ハ從前ヨリ間斷ノ場所へ松苗木爲植繼居候處土質ニ不適當ノ箇所ハ生育セス且ツ並木ハ寒暑風雨ノ際行旅ヲ保護スル旨趣ニシテ概シテ松木ニ限ルヘキ者ニモ無之ト相考候條他ノ雜樹タリヒ枝葉繁茂シ冬季凋落セサル種類ヲ撰ニ適宜植繼可然哉相伺候也

(指令) 十二月十三日 書面並木植付ノ儀ハ夏日ニ方リテハ其葉茂密ニシテ炎日

ヲ遮リ冬日ニ在テハ其葉墜落シテ日光ヲ疎透シ寒威ヲ防キ道路ヲ乾燥セシムルヲ以テ其主旨トナスニ付左記種類ノ落葉樹中ニ就キ栽植致スヘシ此他土地ニ宜キ樹種モ候ハ、取調向申 尤降雪多分堆積スル地ハ雪中旅行目標ノ爲メ單ニ常綠樹ヲ植へ又ハ之ヲ交植スル等適宜取計可申事 ○櫻○楓○菩提樹○青梧○桐○椴

○會計支收ノ部

第四十六號 福島縣伺 十一月七日

今般御省乙第九十三號ヲ以テ警部巡查給與規則御改訂相成候處昨九年御省乙第三十九號廢止ノ明文不相見候得共八年御省乙第百六十八號ニ附帶セシ御達ナレハ原達タル百六十八號廢セラレ候上ハ自然消滅ノ儀ト愚考候得共該御達ノ儀ハ特別ノ様ニモ祓存候ニ付相伺候也

(指令) 十一月廿日 書面客歲當省乙第三拾九號ノ達ハ消滅セサレ儀ト可相心得事
第四十六號 愛知縣伺 十月十二日

管下愛知郡平針村強盜徘徊セシヲ以テ四等巡查近藤鎌治踪跡探偵中本年八月三十日夜一人アリ田代村字瓶杓官林中ヨリ突出ス言語ヲ接スレテ返答無之直ニ抗敵セシトスルカ如キニ付手棒ヲ以テ之ヲ撃テ遂ニ路旁溝中ニテ取押尋問ノ末同村農民水野太助ナル者私用ニ付夜行ノ際此場ニ立至リ候段始メテ覺知スルニ付該巡查ハ懲罰例ニ據リ相當處分ニ及ヒ候得共太助負傷ニ付治療別紙仕譯書ノ通ニ有之別途御渡有之候様致度尤當縣ニ於テ可仕拂筋ニ候得ハ何レノ費額ヨリ仕拂勘定組ハ何レノ部分ニ組込可然哉相伺候也

(指令) 十一月廿六日 伺ノ趣其縣警察費ノ内ヲ以テ仕拂可申事但該費勘定組ノ儀ハ雜費ノ部編入可致事
第四十七號 福島縣伺 九月十二日

公事ニ關スル者(守卒獄丁或ハ倉庫番等ノ類)過失アリ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜罰俸申付候節該金ハ本例第四條ニ依リ大藏省ニ送付可然哉相伺候也

(指令) 十二月六日 書面伺ノ趣本例第四條ニ照準シ大藏省ニ納付可致事
○物産ノ部

第四十七號 岩手縣伺 十一月十五日

當縣下第二拾三大區三小區福岡村蛇沼政恒外二名ニテ昨九年中舊勸業寮ヨリ拜借ノ綿羊牧養候處右綿羊ノ剪毛牧費ノ一助ニ致度趣ヲ以テ別紙ノ通願出候間書面相添相伺候也(書面除之)

(指令) 十二月七日 書面ノ趣聞届候事

民事部
司法部指令錄

十年第三十三號
並附錄二十號

○訴訟ノ部

第三十三號

十二月十日

金澤裁判所長判事櫻井直養

(第二百八十七)

測量吏員等ノ儀ニ付伺

第一條 司法部指令錄民事部第二十七号東京上等待判所へ指令ニ伺、趣裁許繪圖ハ原被告ヨリ差出候測量方ニテ製造爲致不苦候事ト以之觀之ハ實地檢査ノ簡其測量方ハ必ス詞訟人ヨリ差出スモノ、如シ然リト雖モ若シ現今適當ノ測量方無之旨申立ル時ハ測量吏員出張ノ義地方官へ照會ニ及フ可キヤ將タ裁判所ニ於テ之ヲ雇ヒ入レ可然哉○第二條 同上地方廳へ照會セシニ事故アルヲ以テ出張致サセ難キ旨通知アルニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ雇ヒ入ル、節若シ其管内ニ適當ノ測量方無之

指令錄民事

時ハ如何處分シ可然ヤ○第三條 同上若シ地方廳ニ於テ測量吏員ハ出張セシムル
モ其旅費等ハ給シ難キ旨通牒アルトハ之ヲ裁判廳ニ於テ立替置キ他日其裁判結局
後曲者ヨリ償却セシメ可然ヤ○第四條 同上若シ曲者償フ可キ資力ナキトハ身代
限ヲ以テ追徴シ尙不足ナレハ其証書差出サセ而シテ後日ノ産ヲ待チ之ヲ償却セシ
メ可然ヤ 右疑義相伺候條速ニ仰御指揮候也

(指令) 十二月廿四日 第一條 地方廳ニ照會ニ及フモ又ハ裁判所ヨリ雇入ルモ
便宜取計フヘキ事○第二條 管ノ内外ニ拘ハラサル儀ト可相心得事○第三條 詞
訟者ヨリ仕拂置裁判落着ノ後曲者ヨリ償却スヘキ儀ト可心得○第四條 伺ノ通
第二十號附錄 十一月七日

民事訴訟濟方云々ノ儀ニ付札幌本廳開拓堀大書記官ヨリ照會

民事訴訟濟方延期願中云々ノ儀ニ付過般調所權大書記官ヨリ及御問合候處行文明
確ナラサルニ付尙詳細可申進様第三千六百三十八號ヲ以テ御申越ノ趣了承右ハ民
事訴訟取扱方ニ就テノ儀ニ有之候條尙委詳細報知相成度此段再應申進候也

回答

去ル十一月七日附テ以テ民事訴訟云々ノ趣了承原被告共死失或ハ失踪逃亡シ跡相
續人モ無之時ハ其詞訟ハ自カラ消滅スル儀ニ付其訴狀ハ固ヨリ現在件數ニ無之該
件ニ付何様ノ取扱ニ及ハサル儀ト思考仕候此段及御回答候也

但前御照會文意頗ル審理表調製方ニ係ル哉ニ存及御問合候處民事訴訟取扱ノ儀
御再申ニ付本文ノ通回答ニ及ヒ候也

明治十年十二月四日

司法省民法課長牟田口權大書記官

札幌本廳開拓大書記官殿

○身代限ノ部

第三十三號 十一月廿九日

松江裁判所長判事河口定義代理判事山縣迂一

(第二百八十八) 先取特權ノ儀ニ付伺

本邦從來ノ成文律中未ク裁判入費ト稱スヘキ條則ナシト雖モ其裁判入費ト稱スヘ
キモハ人民ノ詞訟事件ヲ裁判スルカ爲メニ生スル所ノ費用即チ訴訟入費償却規
則第十三條ノ類ニシテ其費用ヲ要セサレハ裁判ヲ結了スルヲ得ス故ニ同條ノ末項
ニ右ハ前數條ノ入費ニ先ツテ取立ツ可シトアルハ他ノ事件ニ關セス第一等ノ先取
特權ヲ有スル儀ト相心得可然カ若又前條ニ反シテ第一等ノ權ナシトセハ其地位ハ
孰レニ置テ以テ相當トスルカ且第一等ノ權ナキ上ハ既ニ他ノ先取特權ノ者アルカ
故ニ該入費ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ如何處分致シ然ル可キヤ
右相伺候條至急御指揮有之度候也

(指令) 十二月廿四日 第一條伺ノ通

第三十三號

十二月十五日

名古屋裁判所長判事兒島惟謙

指令錄民事

(第二百八十九)

本年第七十九號公布ヲ以國稅府縣稅民費不納ノ者處分方ノ儀ニ付伺

人民相對ノ金穀貸借上ヨリ訴訟ニ及ヒ裁判所ニ於テ既ニ負債者身代限裁判宣告致シ土地家屋又ハ諸器物等ヲ差押所役人及ヒ權利者ヲシテ其財產ヲ管守セシメ揭示中地方官ヨリ國稅府縣稅民費等不納ノ報告有之節ハ其不納ニ隨ヒ右財產中ヨリ區別シ相當品地方官ニ引渡シ裁判所ニ於テハ裁判執行ヲ中止シ地方官ノ處分ヲ相待ツ儀ニ可有之哉果シテ然ラハ土地家屋又ハ諸器物等質入或ハ書入ニ致シ有之詞訟裁判所ニ於テ既ニ其財產ヲ公賣シ權利者ニ返辨セシメタル者ハ如何相心得可然哉又前條ノ場合ニ於テ裁判入費相生シタル時租稅民費並ニ地方官ニテ財產ヲ公賣スル入費及裁判入費等ノ内其先取ノ順序ハ如何相心得可然哉

(指令) 十二月廿五日

第一條本人他ノ負債上ヨリ身代限トナリ揭示中地方官ヨリ照會ノ節ハ裁判所ニ於テ本年七十九號公布ノ通財產公賣等ノ處分ニ及フヘシ
第二條 地方官ニテ財產ヲ公賣スル時ハ(七十九號公布第四條)勿論裁判所ニ於テ前條ノ手續ヲ爲ス時ト雖モ其裁判入費ハ租稅民費ニ先立ツテ取立ツヘシ

第三十三號

七月廿日

青森縣令山田秀典

(第二百九十) 身代限ノ者分散金先取順序ノ儀ニ付伺

當縣下第三大區一小區茶畑町居住工藤喜重太郎儀他ノ負債上ヨリ身代限處分相成

候處本人儀地租及區入費未納金有之ニ付分散金ノ内先取ノ儀弘前裁判所へ掛合置候處右分散金ハ該訴訟ニ付呼立用野紙代價ニ引去リ殘餘無之ニ付追テ身代持直シ次第當縣ニ於テ徵収方可取計旨回答相成候右入費ハ地租金區入費等ノ順序ニ不拘先取ノ權ヲ有スヘキ儀ニ候哉此段相伺候間至急御指令有之度候也
(指令) 十二月廿六日 伺ノ趣他ノ負債上ヨリ裁判所ニ於テ身代限ノ處分ニ及フ時ハ伺ノ通 但身代持直シ次第取立ルコト及ハサル儀ハ本年第七十九號公布第四條ノ通タルヘシ

第三十三號

十二月六日

松山裁判所長判事伴 正臣

(第二百九十一) 第七十九號公布ニ付身代限裁判ノ者取扱方伺
本年第七十九號公布第四條ニ凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ云々ト有之所譬ヘハ甲者アリ乙者ヨリ負債ノ爲メ訴訟ニ及ハレ遂ニ身代限裁判ニ相成六十日間揭示中地方官ニ於テ之ヲ知得タルト被告者租稅未納有之(徵收期限ノ後日數ヲ過シ者)ニ於テハ地方官ヨリ裁判所へ照會シ其未納ニ關ル被告ノ財產ハ地方官ニテ公賣シ租稅ノ未納ニ充テ畢リタル未若剩餘アラム其計算ヲ明記裁判所ニ報復ス可キ義ニ有之耶果シテ然ラハ裁判所ニ於テハ最初地方官ノ照會ヲ得タル時其裁判ヲ中止シ地方官ノ處分終ルヲ待テ後其結局ヲ爲スヘキ手將又右公布ハ都テ租稅未納ノ者ヲ地方官ニ於テ處分スル場合ニ限ル義ニテ或ハ他ノ

指令錄民事

負債ニ付身代限裁判ニ相成上ハタトヒ其者租税ノ未納有之共其處分ニ於テハ則第七十九號ノ手續ヲ裁判官之ヲ爲スヘキ義ニ候哉當地方官ニ於テハ己ニ其見込ニ有之趣ニ而端々照會之次第モ有之旁相伺候至急御指令被下度候也

(指令) 十二月廿七日 伺ノ趣他ノ負債上ヨリ身代限トナリ掲示中地方廳ヨリ

租税等未納ノ照會ヲ受ケル節ハ裁判所ニ於テ本年七十九號布告ノ通處分ニ及マヘキ事

(第二十號附錄) 十一月七日

福嶋裁判所長荒木判事ヨリ建議

人民身代限處分ノ節區入費取立ノ義ハ明治九年第七十號本省御達ニ依テ先取ノ處分ニ及フハ勿論ニ候然ルニ區入費ノ内ニハ道路修繕費或ハ學費金等ノ如キ人民私シノ出費ニ屬スル者數多有之ニ付書入質入ノ債主ニ先ツヘキ特權アルヘカラサル道理ト思考スルニ付處分上不都合ノ至リトハ存シ候得共右成法ヨリ生スル不都合ハ裁判上ニテハ致方モ無之候雖然其區戸長ヨリ申立ノ手續ニ至リテハ明治九年第百二十一號御達ノ地方廳ヨリ租税不納ニ付テノ通牒トハ至ク異ナルニ付當廳ニ於テハ尋常ノ訴訟ト同シク訴訟用郵紙ニ認メ出訴候上受理致候處先般福島縣ヨリ本省ニ區入費取立方ノ儀ハ通常ノ公文郵紙ニ認メ通申シ可然哉ノ伺ニ伺ノ通リト御指令相成候趣同縣ヨリ通知ニ及ヒ候然處該縣管内ノ如キハ各村用掛什長等ニ於テ

適宜區入費ヲ賦課シ候儀ニ付錯雜曖昧ノ廉ノミ多ク有之候仍テ原被ニ就キ多少審問ヲ經タル后ニ非サレハ未納ノ金員スラ確定致サス隨テ裁判ヲ申渡サ、レハ未納者ノ苦情不勘ハ言テ埃サル儀ニ有之候然ルニ區會所ヨリノ照會ニ依處分シ候儀ニテハ審査行届兼候儀ハ勿論若又齟齬ノ廉見認候テモ徒ニ往復ノ書通ニテハ迎モ相分ル儀ニ無之候ニ付矢張從前ノ通尋常訴訟ノ手續ヲ以テ處分候方聊成法ニモ抵觸セズ相當ノ儀ト存候元來身代限ノ儀ニ付テハ法律ノ周備ナラサルヨリ其弊害モ百端有之ニ付其弊習ヲ救護スルコトニ注意致シ度候間御不都合ノ筋モ無之候ハ、右福島縣エノ御指令御取消相成候様致度別紙目今ノ審理事件ヲ騰寫シ(略之)御參考ノ一端ニ供シ鄙見ノ旨趣具申仕候也

右ニ付民法課評議案

荒木判事建言ハ其旨趣後半段區費出訴ノ節訴訟用郵紙ヲ用ユヘキ云々ニ在ルカ如シト雖モ前半段區費先取ノ如何ヲ論スルヤ云々中畧一言辨セサルヲ得ス道路修繕費ノ如キハ固ヨリ其區ノ公費ニシテ人民各自ノ私費ト見做スヘキ者ニアラス之ヲ公正ノ區費ト謂ハスハ其レ將々孰レチ公正ト者ナリトセシ該伺ニ書入質入ノ債主ニ先ツヘキ特權アルヘカラサル道理ト謂フ時ハ通常債主ニ先ツヘキ道理ハアル者ノ如シ夫レ道路修繕ヲ以テ人民ノ私費トス則通常債主ト何ソ先後ヲ論センヤ抑書

指令錄民事

入質入ノ債主ニ對シテハ租稅ト雖モ先取ノ權利アルコトナシ（是レ過般
 太政官伺案ニ詳論アリ）區入費亦同様ナルコト固ヨ不俟言然ルコト今ヤ費
 入質入ノ債主ニ先ツヘキ道理アルヘカラストシ通常ノ債主ニハ先ツヘ
 キ道理アルトスルハ抑何等ノ道理ナルヤ又區入費ヲ訴フルハ錯雜曖昧
 ノ廉多々有之原被ニ就キ多少審問ヲ經サレハ審査行届兼候ニ付通常訴
 訟ノ手續ヲ履行スヘシト謂フ時ハ租稅ト雖モ錯雜委曲ニ沙ル時ハ原被
 ニ就キ審問セサルヲ得サルナリ必シモ一通ノ照會狀ニテ足レリト謂フ
 ニ非ス然モ租稅ノ照會ト區費ノ訴出ト自カラ其情況ヲ異ニスル所アル
 ヘキニツキ該伺ノ如ク通常訴訟ノ手續ヲ履行セシムルコト或ハ便宜ナル
 ヘシ然ルニ該件ニ付テハ過般法制局ヘ御質疑ノ廉モ有之ナリ云々以下
 略ス

○代言ノ部

第三十三號 十二月十九日

大警視川路利良

（第二百九十二） 人民召喚ノ儀ニ付伺

區裁判所ヨリ召喚スル者ノ内或ハ病氣ト稱シ代人差出候者吟味上不都合ヲ生シ候
 節ハ本人ノ病症ヲ診斷セシメ出頭スルモ後患ヲ醸サ、ル容体ニ候ハ、拘引候様同
 所ヨリ警視分署ヘ照會之向有之右ハ疾病ト詐稱スル者ノ外假令後患ヲ爲サスト診

斷スト雖モ病者ヲ拘引スルハ事情愍然ノ事ニ候併シ裁判上差問ト有之上ハ民刑ノ
 差別ナシ其照會通取計可然哉此段爲心得相伺候也

（指令） 十二月廿七日

伺ノ趣疾病ト偽稱スル者ノ外民事ニ於テ病者ヲ引致ス

ハ儀ハ不相成候事

○貸借ノ部

第三十三號 十二月十四日

長崎裁判所長判事瀧彌太郎

（第二百九十三） 貸米穀利息之儀ニ付伺

貸金利息之儀ニ付テハ本年第六十六號公布ヲ以テ制限被相定候得共該公布中貸米
 穀利息之儀不相見右ハ素ヨリ貸金利息之制限ニハ準セス一般人民ノ契約ニ任セ苦
 シカラサル儀ト存候得共爲念此段至急御指揮有之度候以上

（指令） 十二月廿八日 伺ノ通

第三十三號 十月九日

福岡縣令渡邊清

（第二百九十五） 利息制限法ノ儀ニ付伺

本年第六十六號公布金銀貸借利息制限規則中左ノ廉々相伺候
 一米穀貸借ノ利息ハ別ニ制限相定メテ候哉若クハ現時ノ米價ヲ算出シ其得ル所
 ノ價格ヲ以テ現金ト看做シ爾後價直ノ高低ニ關セス本則第二條ノ通利息相定候
 儀ニ可有之哉

指令録民事

一金銀貸借ノ利息ハ本則第二條ノ通ニ有之然ル處土地ニ依リ債主負債主互ニ相承諾ノ上本則ニ超過スル利息ヲ定メ其貸借証書ヲ以テ(地所書入等)公証ヲ要求スル時ハ區吏等ニ於テハ與書割印スル儀ニ候哉果シテ然ラハ區吏ノ公証ハ地所書入等ヲナス者ニシテ利息ノ契約ハ無論區吏ノ公証ニ係ラサル儀ニ候哉而シテ他日はヨリ釀成スル紛訟ヲ訟庭ニ訴フル等ノ時ハ區吏ノ公証ハ無論湮滅スル儀ニ候哉

一米穀衣類其他ノ物品ヲ一時融通上ヨリ質置致シ候節モ本則第二條ノ通利息相定候哉

一御公布前ノ金銀貸借利息ハ本則第二條ノ通ヨリモ超過スル者ト雖モ其儘据置候哉將々今般ノ制限ニ爲引直候哉

一利息ハ年何分ト有之然ラハ六ヶ月或ハ二三ヶ月内外ノ金銀貸借利息ハ年何分ヲ目的トシ月ニ割出シ利息相定候哉

(指令) 十二月廿八日 第一條 米穀貸借ハ該公布ノ限外ト心得ヘシ

第二條 該公布ニ超過スル利息ヲ掲載スル貸借証書ニ區戸長等ノ與印不相成儀ト心得ヘシ 第三條 伺ノ通 第四條 其儘据置儀ト心得ヘシ 第五條 伺ノ通

第三十三號 十月十三日 廣島縣令藤井勉三

(第二百九十六) 同上同

第一條 利息制限ノ儀ハ若シ裁判ヲ仰ク場合ニ於テ無効ノ者ト相成ル迄ニシテ人民相對取引候分ニ於テハ從前ノ通双方(債主負債主ヲ云)ノ契約ニ任セ妨無之哉

第二條 果シテ前條伺ノ通ニ候得ハ官地ニ建設ノ家屋書入質ノ與書及ヒ總テ地所建家書入質入ノ公証願出ル証書面ニ制限外ノ利子ヲ掲載スルモ不問ニ閣キ可然哉 第三條 右制限ノ施行ハ本年(九月十一日)第六十六號公布後

ニシテ既ニ其以前契約ヲ爲セシ者ハ右制限ニ超過スル者ト雖モ妨無之哉 第四條 若シ公布アリシ以上ハ前日ノ契約ト雖モ制限通引直候方ニ有之候ハ既ニ期限過去リ即今催促中ニシテ返金未濟ノ分モ制限通引直スヘキモノニ可有之哉

第五條 利子ノ制限ハ獨リ金銀貸借ノミニシテ米穀等ノ利息ハ無論此限外ト相心得可然哉

(指令) 十二月廿八日 第一條 伺ノ通 第二條 該公布ノ制限ニ超過スル利息ヲ掲載スル証書ニ區戸長等ノ與印ハ不相成但シ違犯ノ廉ハ刑事ニ問フニ及ハス

第三條 伺ノ通 第四條 前條ノ通心得ヘシ 第五條 伺ノ通

(第二十號附錄) 十一月五日

諸貸下金云々ノ儀ニ付遠藤大藏大書記官ヨリ照會

一諸貸下金ノ内假令ハ甲乙丙三人連印ノ一紙証書ヲ以テ貸下各自分借金

指令錄民事

高確証ナキ者有之然ルニ右連印ノ内甲他ノ負債ノ爲メ身代限處分相成候節右証書面ノ總金額ヲ以テ出訴致シ右金額ニ對シタル割賦金ヲ受取証書裏書相濟候後其殘不足金ヲ乙丙ヨリ取立候儀ニ有之候哉

一若又右三人連印証文ニテ各自分借高確証無之上ハ甲ハ他ノ債主ニ身代相渡トモ出訴不致右証書面ノ金額ハ乙丙ヨリ取立候儀ニ有之候哉

一右同斷貸下金ノ内本年第六十號公布ニ寄リ其戸主其家名ヲ廢シ他ニ入夫縁付又ハ實家ニ改籍等致シ候者有之節ハ其轉籍後ノ家名ニ係リ取立候哉若然ラサレハ廢絶致スヘキ家ニ所有スル處ノ財産物ハ如何ノ順序ヲ以テ取立可申哉

右廉々取計振了解致兼候間及御問合候尤差向差圖可及品モ有之候間其旨御了承早々御答有之候様致度此段及御照會候也

右回答 十一月廿八日

諸貸下云々御照會ノ趣第一款第二款甲身代限ノ節ハ一應出訴シ果シテ連帶ナルヤ將ク分借ナルヤ裁決ノ模様ニ從ヒ乙丙ニ係リ出訴シ若クハ出訴セサルコト相當ト存候第三款ハ轉籍後ノ家名ニ係リ取立ルコト當然ナリ可シ尤本年第六十號公布ニ付テハ當省ヨリ法制局ニ質疑ニ及ヒタルニ其家族ト財産トヲ携帶シ去テ他ニ入夫縁付又ハ實家ニ復籍スルノ謂

ナル旨回答有之ニ付其廢絶スヘキ家ニハ毫末モ遺留セル財産無之等ト思考仕候此段及御回答候也

○書入ノ部

第三十三號 十二月十五日

横濱裁判所長判事立木兼善

(第二百九十四) 諸建物書入質規則公証之儀ニ付伺

借地ノ建物ニシテ地主ノ與書ナキ書入質之証文若クハ返濟ノ期限ヲ定メサル書入質ノ証文ニ戸長公証ニテ與書割印シタル者ハ無効ノ者トスル歟有効ノ者トスル歟果シテ無効ノ者トセハ其契約主即チ權利者ノ間ニ於テ承認スルトモ書入質ナキ通常貸借ト見做ス可キ歟果シテ有効ノ者トセハ他ノ債主ヨリ故障ノ訴アル時ト雖モ亦効アル者ニシテ其書入質主ハ先取ノ特權ヲ保有スル者ナル歟將タ他ノ債主ヨリ故障ノ訴アル時ハ効ナキ者ニシテ其書入質主ハ先取ノ特權ヲ亡失スル者ナル歟右相伺候也

(指令) 十二月廿八日 伺ノ趣ハ契約ヲ爲ス双方ノ間ニハ其効ヲ有ス可シ但他ノ債

主ニ關スル場合ニ於テハ書入質ノ効無之儀ト可相心得事

○費用辨償ノ部

(第二十號附錄) 本月十八日

裁判所ヨリ發出スル人民呼出狀脚夫賃金ノ儀ニ付松平内務權大書記

指令錄民事

官ヨリ照會

岩手兵庫兩縣ヨリ裁判所ニ於テ人民呼出脚夫賃金等ノ儀別紙ノ通申出有之ニ付左記ノ通可及指令ト存候處昨九年當省丙第十八號ハ元御省ニ於テ太政官エ御建議ニ出候儀ニモ有之旁御省御意見ノ程一應承知致シ度此段及御照會也

別紙

昨明治九年御省丙第十八號各地裁判所御用狀遞送凡例第二條人民呼出狀或ハ督促狀ノ類ハ總テ民費タルヘシトアリ然ル處爰ニ民事詞訟ニ付各扱所ヲ經テ人民呼出ヲ達スルアリ素ヨリ其脚夫賃金ハ民費タルヲ以テ裁判所ヨリ其賃金ハ一時扱所ニ於テ繰替置追テ本人ヨリ可取立トアルニ依リ扱所常備金ヲ以繰替置追テ本人ニ償還ヲ促スモ素ト極貧ニシテ其返還スル能ハサル者アリ右等ノ類ハ其裁判決定ノ上曲者ヨリ償却スル者ト雖モ若シ本人曲者トナリ負債ヲ償フ能ハサルヲ以テ身代限ノ處分ニ逢ヒ財産分散ノ節ハ右賃金ハ其財産糶賣中ヨリ先取ノ權アルモノト心得可然乎試ニ一昨明治八年五月滋賀縣ヨリ司法省ヘ伺指令ヲ參觀スルニ役場ヨリ立替スル入費ハ第一番ニ引去可キ事トアリ果テ然ラハ若シ其賃金タモ不足相立候ハ本人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直次第可取立筋ニ可有之哉相同申候現時本文ノ類屢有之事務上差支候間至急何分ノ御指揮被下度候也
但丙第十八號御達ハ刑事ニ係ルモ同様ト相心得ヘキ乎刑民事ノ區別無之ニ付是

又添テ相伺候也

明治十年六月八日

岩手縣令嶋惟精

內務卿大ハ保利通代理內務少輔前島密殿

(指令案) 書面脚夫賃金身代限處分之上尙不足有之節ハ其區内ノ損失ニ相立可致棄捐尤但書丙第十八號達ハ民事ノミニ係ル儀ト可相心得事

別紙

九年第十八號ヲ以裁判所御用狀遞送凡例御達相成候處第二條總テ民費タルヘシト有之候右ハ九年司法省第五號布達訴訟入費規則第十一條十二條ノ通り曲者一身ノ私費ニ可相立モノニシテ管内割民費ニハ無之被存候 亦貧ノ者被告トナリ喚問相成候節途中旅費難支候ハ、戸長繰替候モ償還ノ道無之候間其事由裁判所ヘ爲申立可然哉 既ニ戸長ヨリ本人ヘ達シタル使賃又ハ郵便稅本人身代限相成候モ償還ノ道ナキニ付官費仕拂可相成哉 右伺出候間早々御指令有之度候也

明治十年四月十六日

兵庫縣權令森岡昌純

內務卿大久保利通殿代理內務少輔前島密殿

(指令案) 書面伺之趣左ノ通可相心得事 第一項 伺ノ通 第二項 赤貧ノ者旅費繰替金ノ儀ハ追テ裁決ノ上曲者ヨリ差出入費ヲ以テ償却可爲致等ニ候得共若シ本八曲者トナリ身代限處分ノ上尙償却スル能ハサル場合ニ於テハ官費支給可致事

指令錄民事

第三項 使賃又ハ郵便税ノ儀ハ其區内ノ損失ニ相立可致棄捐事

(民法課長牟田口權大書記官ヨリ回答(十年九月八日))

岩手兵庫兩縣ヨリ裁判所ニ於テ人民呼出脚夫賃錢等ノ儀ニ付伺書相添御照會ノ趣了承因テハ聊カ意見ノ廉左ニ陳述仕候

岩手縣ヘノ御指令案ニ身代限處分ノ上尙ホ不足有之節ハ區内ノ損失ニ相立棄捐スヘシトアリ右ハ素ヨリ一私人ノ詞訟ニヨツテ生スル入費ナレハ之ヲ區内ノ損失トナスハ其理ナキカ如シ然レモ之ヲ本人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第取立ツヘキ事トナスモ實ハ辨償ノ際限之レナク區内民費ノ計算上ニモ不都合ノ事モ之レアル故ニ斯ノ通御指令相成儀ニ候ハ、別ニ異議ナシ

兵庫縣伺ノ第一條ハ貴省御指案ノ通ニテ異議之レナシ

同第二條御指令案中身代限處分ノ上尙ホ不足スル時ハ官費支給可致トアリ是全ク窮民救助ノ御趣意ニ出タル御指案ナラハ別ニ異議ナシ

同第三條伺ニ戸長ヨリ本人ヘ達シタル使賃又ハ郵便税トアルハ裁判所ノ民事詞訟上ニ係ルモノナレハ岩手縣ノ御指令案ニ續陳セシ意見ノ如ク因テ玆ニ贊セス

(附議) 昨九年貴省達丙第十八號ハ元ト當省建議ニ係ル云々ノ御照會ニ付取調候處去七年十一月比當省ヨリ太政官ヘ伺定候條件之レアリ候因テ尙審査候ニ該達第二條人民呼出狀督促狀ノ類ハ總テ民費(民費トハ即チ區内ノ民費ヲ指シタル

者ナラム)タルヘシト云フハ甚ク其當チ得サルモノ、如シ何トナレハ裁判上人民ノ呼出督促等ハ其費用固ヨリ一私人ノ詞訟ヨリ生スル私費ニ屬スル者ナレハ之ヲ其區内ノ損失ニ付スヘキノ理ハ之アルマシ且現ニ前顯兵庫縣伺第一條ノ貴省御指令案ノ趣旨ニモ抵觸可致因テ該條件ハ太政官ヘ上稟ノ上廢止候方可然存候間貴省丙第十八號ノ第二條モ御廢止相成候テハ如何御異見ノ程御示シ相成度希望仕候此段御回答旁御照會ニ及候也

(第二十號附錄)

一月十日

人民喚出狀誤寫ノ儀ニ付内務卿大久保利通ヨリ照會

名古屋裁判所安濃津支廳ヨリ人民呼出ノ節呼出狀誤寫ニテ名前違或ハ其呼出人名ノ者無之故ヲ以戻狀等往復ノ賃錢總テ民費ニ課出相成度旨三重縣ヘ照會有之候趣ヲ以テ該縣ヨリ伺出有之候得共誤寫ハ元々官府ノ錯誤ヨリ相生シ候入費ニ付民費ニ賦課致候儀ハ不穩當候間該裁判所ノ官費ニ相立候儀ト可相心得旨及指令候間此段一應申入候也

回答

喚出狀誤寫云々御照會ノ趣了承抑誤寫ニテ名前違或ハ其人名無之故ヲ以テ戻狀等ノ賃錢ハ素ト主務タル書記ノ過誤ニ出ツルヲ以テ該書記ヨリ賠償セシムベキト當然ト思考仕候因テ諸裁判所ヨリ伺出ノ向キエハ右ノ主旨ヲ以テ指令ニ及ヒ置候儀

指令錄民事

有之此段及御回答候也

明治十年十一月十二日

第二十號附錄 十一月廿日

人民呼出狀還付費用辨償方ノ儀ニ付權中警視石井邦猷ヨリ照會
各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリノ人民呼出狀還付費用辨償方別紙ノ通廣島
縣ヨリ申出候ニ付勘考候處於當局ハ右伺ノ通可心得旨指令相成可然見込ニ有之候
間貴省御異存ノ有無及御問合候條至急御取調御回答有之度候也

回答

廣島縣伺各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリ人民呼出狀還付費用ノ儀ニ付御照
會ノ趣他ハ毫モ異存無之候得共民事呼出狀ハ途中川支ノ如キ天災ノ爲メ遅延シタ
ル時ハ其郵便稅ハ曲者ノ辨償タルヘキ儀ト思考仕候此段及御回答候也

明治十年十一月廿九日

司法省民法課長牟田口權大書記官

石井權中警視殿

別紙

人民呼出狀還付入費ノ儀ニ付伺

各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリ人民呼出狀(此呼出狀ハ戶長宛ニテ其結文
ハ何日第何時民事課ニ可令届也ト記載有之候)途中川支或ハ各廳ヨリノ呼出切迫

ノ期限ニシテ(譬ハ其呼出テ受ル人民居住所迄片道九里有餘ノ場所ニ本月八日付ニ
テ十日午前七時ニ出頭方ノ呼出狀ヲ區務所宛ニテ郵便局ニ差出其郵便線路ノ脚夫
差出定日ハ半ノ日ニ付翌九日ニアラサレハ脚夫ヲ立テス此故ニ其呼出狀翌十日即
チ呼出刻限後ニ區務所ニ届キタルノ類ヲ云フ)區務所ニ到達ニ其呼出ノ期日ヲ
過去リ或ハ切迫ニシテ本人刻限通り出頭スル能ハサルモノト區長確認候上ハ本人
ニ傳達セス(區長本人ニ傳達スルハ七年司法省甲第二十一號布達ニ據リ本人遲
參ノ罪免ル、ニ由ナシ)直チニ其事由ヲ細述シ其呼出狀ハ差立ノ各廳署ニ還付シ
郵便稅ハ該廳費或ハ警察費ヨリ辨償スル方當然ノ儀ト被存候得共定規外ニ付相伺
候條至急御指揮被下度候以上

明治十一年十一月六日

廣嶋縣令藤井勉三

內務卿大久保利通殿

○逃亡ノ部

(第二十號附錄) 十月二日

公債證書ヲ所有スル戶主逃亡云々ノ儀ニ付大藏卿大隈重信ヨリ照
會

公債證書ヲ所有スル戶主タル者逃亡或ハ行衛不知等ノ節二年以内タリ其妻子或
ハ遺產管守ノ者ヨリ該債主名面ノ證券ヲ以利金若シクハ中籤ノ元金ヲ請求セハ委

指令錄民事

任狀所持無之共事實取糺下付可然被相考且前條同様ノ場合ニ於テ親戚及遺產管守者戸長等ノ協議加印ヲ以該證書ヲ他人ニ讓賣渡願出候ハ、是亦聞届管守者ノ名面ヲ記入シ其事由及代理人ノ肩書爲致置可然ト存候得共右ハ法制上ニ於テ差支ノ義ハ有之間敷哉否至急御回報有之度此段及御照會候也

回 答

公債證書ヲ所有スル戸主逃亡云々ノ儀御照會ノ趣了承右ハ貴省御意見ノ通ニテ差支無之ト思考仕候此段及御回答候也

明治十年十月八日

〇相續法ノ部

第二十號附錄 十一月廿八日

幼主相續云々ノ儀ニ付内務戸籍局長權大書記官船越衛ヨリ照會

幼主相續シ致候節ハ後見人ヲ可差置成規ニ候得共若シ親族其他ニテモ後見ニ可相立モノ無之節此幼主ニ對シ訴訟ヲ起シ候者有之手或ハ此幼主ノ身代限ヲナサ、ルヲ不得等ノ場合ニ於テハ如何御處分相成候哉兼テ御例規モ有之候儀ト存候條御處分振詳細御明示有之度此段及御照會候也

回 答

幼主相續云々御照會ノ趣ハ一般人民ノ幼者ニハ必ス後見人ヲ置シヘキノ成規ハ無

之ト思考ス六年第廿八号布告ハ單ニ華士族ニ係ル者ナリ然レハ幼者ニ對シ訴訟人アル歟或ハ身代限ヲナサ、ルヲ不得等ノ場合ノ取扱方ハ固ヨリ一定ノ例規ハ之レナカルヘシ因テハ右ノ場合ニ於テハ近親ノ代理スルヲ相當ノ事ト存候此段及御回答候也

明治十年十二月四日

司法省民法課長牟田口權大書記官

〇追加 第二十九號ヨリ三十號ニ至ル

〇上告ノ部

第二十九號

八月廿四日

宮城上等裁判所長心得判事坂本政均

(第二百五十二) 當裁判所ノ裁判無効ニ屬スル旨御指令ニ付疑義并處分伺

福島縣下第一大區飯坂村岩澤良貞ヨリ中野村佐藤飯太郎ニ對スル實地取戻ノ訴曲庇壓制ヲ以テ當裁判所ニ控訴及フコ付福島裁判所ニ初審ノ景况照會ニ及フ處別紙第一号ノ如ク報答有之依テ之ヲ受理シ別紙第二号ノ如ク見込ヲ立別紙第三号ノ如ク裁判申渡其旨福島裁判所ニ通知ニ及フ處別紙第四號ノ如ク同裁判所ヨリ本裁判結了ノ伺御指令寫相添照會有之候右御指令ニ宮城上等裁判所ノ裁判ハ無効ニ屬スヘキ云々ト有之ニ付疑義ノ廉々左ニ伺上候

追加

第一條 右控訴受理裁判ニ及ヒタル所以ハ訴答文例第二十條末項ニ照準シタル儀
 ニテ當時右末項ハ消滅セサル者ト確信スレハナリ其確信スル所以ハ明治八年第九
 十三號公布後裁判官曲庇壓制云々ノ儀ニ付各上等裁判所(東京ヲ除クノ外)ヨリ伺
 出候處文例ニ照スヘキ旨御指令アリ仍ホ東京裁判所ヨリモ右末項廢存ノ伺ニ取消
 ニハ無之旨御指令有之夫ノ東京裁判所ニ御指令ハ參考スル迄ニテ援引ハ不仕候
 得共殊ニ成文法律疑義ノ御辨明ニ付御改達以來ハ準據スヘカラサルモ(東京裁判
 所ニ御改達ヲ參考ス)以前ニ於テハ遵守可仕ハ當然ト存シ候然ルニ九年十二月
 當裁判所ヨリノ伺ニ東京裁判所ニ御指令ハ取消ト改テ御指令アルハ本年四月二日
 ニ本訴裁判ハ本年二月八日ニ在ルヲ以テ文例二十條末項ハ取消無キト心得之
 レニ照シテ裁判ナシタル儀ニ有之右ニテモ權限ヲ越タル儀ニ候哉

第二條 民事上人民ヨリ裁判官ヲ相手取り其爲シタル裁判ノ付キ訴ヲナスヘ
 キ理無之ハ勿論ナレモ文例二十條末項ノ如キ豫審又ハ終審裁判以前ノ場合ニ於テ
 曲庇壓制アルヲ以始審終ノ局ヲ仰ク能ハサルニ付キ爲スヘキ訴訟ノ式ヲ示サレマ
 ルモトト解釋シ即本訴ニ適當ナル例ナリト信認シ處分ニ及ヒタル處ノ曲庇ハ大審
 院ニ刑事ノ訴爲スヘク民事ノ訴ヲ爲スヘカラサルヲ了解セリ然ト雖モ右御指令以
 前ハ民事ノ訴ト信認シ受理裁判及ヒタル儀ニ有之然ルモ右ハ法理ニ違フタル儀ニ
 候哉○第三條 若シ當裁判所ニ於テ御指令ノ深旨ヲ誤認シ法理ニ違ヒ或ハ權限ヲ

越エ受理裁判シタルモノニ候ハ、原被告ノ内其裁判不法ヲ大審院へ上告シ同院ニ
 於テ破毀セラル、ノ後初テ無効ノ裁判トナルヘキ筈ニテ本訴ノ如キ原被告共不服ヲ
 唱ヒサルニ地方裁判所ニ於テ現在件處分方ヨリ疑義ヲ生シ上等裁判所ノ權限ヲ越
 エタルナランカト申出ルノミニテ直チニ文例二十條末項消滅ノ御改達以前ニ溯リ
 裁判無効ニ屬ルトノ御指令ニ相成タルハ如何ノ御趣旨ニ候哉

右ハ元四等判事早川景矩在勤中判事小松弘隆主任ニテ裁判及ヒタル一件ニ候處前
 條々ニ具陳スル如ク疑義ヲ生シ候旨弘隆申出候間御明示ヲ仰キ度且上告破毀ニ非
 スシテ裁判無効ニ屬シタル事件ノ取扱方如何心得可然哉別紙書類(略之)相添奉伺
 候也

(指令) 十月二十五日 伺ノ趣訴答文例第廿條末項ハ八年第九十一號布告ニ因リ既
 ニ消滅シタルモノニ付假令該裁判官ハ未タ消滅セサルモノト信認シタルモノノ裁
 判ハ權限外ノ裁判ナルヲ以テ固ヨリ其効力ヲ有セサルナリ故原被告人ノ中原裁判
 所ニ初審裁判ノ結了ヲ求ムルモ其上等裁判所ノ裁判ハ無効ノモノトシ初審裁判
 ナ結了スヘキナリ 但其裁判所ニ於テ無効ニ屬セシムル取扱ヒノ事件ハ之レ無キ
 儀ト心得可シ

第三十號 九月二十九日 福島裁判所長判事荒木博臣
 (第二百六十四) 宮城上等裁判所ノ裁判ハ無効ニ屬スヘキ旨御指令ニ付該應ヘ

追加

御達ノ儀伺

福島縣下第一區信夫郡中野村佐藤飯太郎ヨリ同區同郡上飯坂村岩澤良貞ニ係リ質地取戻ノ訴元福島縣裁判所ニ於テ審理中被告岩澤良貞ヨリ曲庇壓制ノ目安ヲ以テ宮城上等裁判所ニ控訴及ヒ該裁判所ニ於テ裁判申渡相成候ニ付元福島縣裁判所ヨリ當廳ニ引受タル初告訴狀ノ結局ニ差支本年四月十二日附テ以テ相伺候處六月二十三日附テ以テ宮城上等裁判所ヘノ判ハ無効ニ屬スヘキモノニ付初審裁判ヲ結了スヘキ旨御指令有之就テハ當廳ニ於テ初審裁判ヲ結了スヘキ儀ニ有之候得共原被告人ニ於テハ既ニ上等裁判所終審ノ裁判ヲ經タレハ即今當廳ニ於テ初審裁判ヲ結了セントスルモ輒ク之レニ應セズ實際上頗ル差支ヲ生シ候ニ付該上等裁判所ヨリ「原被告人ニ裁判無効ノ趣相達候カ又ハ裁判申渡書取消候カ兩様ノ内至急宮城上等裁判所ヘ御達相成候様致度此段相伺候也

(指令) 十一月十五日 伺ノ趣最前指令ノ通宮城上等裁判所ノ裁判ハ本來權限外ノ裁判ニシテ固ヨリ其效力ヲ有スヘキモノニ之レナキニ付原被告ヘ無効ノ言渡ヲ爲スヘキ旨該上等裁判所ニ達スルニ及ハス因テ原告請求ノ通初審裁判ノ決了ヲ爲ス可シ被告ニ於テ敢テ呼出ニ應セサル時ハ強テ引致スルモ固ヨリ妨ケナシ

福島縣裁判所長荒木判事ヨリ伺書中差支云々ノ廉別紙ノ通回答有之候是ニ因テ見

レハ最初ノ原告(即初審ノ原告)ニシテ控訴ノ被告)ニ於テハ固ヨリ初審ノ結了ヲ請求シ前ノ權外裁判ヲ甘受スヘキニ非ス然ラハ最初ノ被告(即初審ノ被告)ニシテ控訴ノ原告)ハ縱ヒ上等裁判所ノ判決ヲ固執シテ敢テ應セサルモ曩キニ御指令ノ通權限外ノ裁判ニシテ固ヨリ其效力ヲ有スヘキ者ニ非サレハ原告ノ請求ニヨリ初審ノ裁判ヲ繼續シテ結了セサル可カラサルハ固ヨリ論ヲ俟サルナリ其被告者ノ敢テ其呼出ニ應セサル者ハ強テ引致シ審判ヲ遂ケサルヲ得ス夫如斯何ソ別ニ宮城上等裁判所ニ無効言渡ノ達ヲ要スヘキノ理アラシヤ今若是ヲ達スルトセハ反テ効力アルノ裁判ト看做シタル上ニ非サレハ能ハサルナリ云々以下略

別紙

本年九月廿九日附テ以テ宮城上等裁判所ニ裁判無効ニ屬スヘキ旨原被告人ニ御達相成度義御伺出ニ相成候處該件ハモト訴狀初告ノ結局ニ差支フヘキ旨御伺出ニ付初審ノ裁判ヲ結了スヘキ様其處分方御指令有之ケル者ナリ然ルニ今原被告ニ於テ輒ク之ニ應セズ實際上頗ル差支ヲ生スル云々トハ何等ノ事柄ニ候哉思フニ實際上差支ヲ生スヘキ理由決シテ有之間敷何トナレハ宮城上等裁判所ノ裁判ハ權限外ノ事ナレハ固ヨリ無効ニ歸スヘシト雖モ若原被告ニ於テ其裁判ニ甘服シ前初審ノ裁判ハ半途ニシテ其權利ヲ放棄セシ時ハ裁判所ヨリ強テ初審裁判ノ決了ヲ爲ス可キ者ニ非サルハ言テ俟サレハ也因テハ右御差支ノ廉指的ニ詳細

追加

御明示有度此段及御照會候也

明治十年十月十七日

司法省民法課長牟田口權大書記官

福島裁判所長荒木判事殿

本年九月廿九日附テ以テ宮城上等裁判所ノ裁判ハ無効ニ屬スヘキ旨ニ付取消
候様御達相成度段相伺候處客月十七日附テ以テ差支ノ廉指摘シテ可申進旨御照
會ノ赴致承知候右ハ尙初審裁判ヲ結了スヘキ儀ニ付直ニ審問ニ着手スヘキ處宮
城上等裁判所ノ控訴裁判ニ因テ一方岩澤良貞(當裁判所ニテ被告上等裁判所ニ
テ原告)ハ勝訴訟トナリ一方佐藤飯太郎(初審ノ原告控訴ノ被告)ニハ負訴訟ト
ナリ故ニ即今當廳ニ於テ審問ニ着手セントスルモ右良貞ニ於テハ其筋ヨリ何等
告達モアラサルニ付宮城上等裁判所ノ裁判ヲ固執シテ更ニ應セス該上等裁判所
ノ裁判申渡消滅セサル上ハ良貞ノ申分ニ於テモ相當ノ儀ト被存候右飯太郎ニ於
テハ素ヨリ當廳初審ノ結局ヲ請求スル次第ニテ實際上頗ル差支ヲ生ヅタルニ付
右相伺候儀ニ有之候尤双方裁判ニ甘服シ且原告飯太郎ニ於テ初審ヲ結了スヘキ
理由無之ハ論ヲ俟タサル儀ニ有之候得共前條ノ振合ニ付尙御了承相成候様致度
此段及御答候也

明治十年十一月二日

福島裁判所長判事荒木博臣

司法省民法課長牟田口權大書記官殿

第二十九號 十月十一日

高知縣權令小池國武

(第二百五十七) 地方廳指令ヲ不當トシテ訴出ル時ノ儀ニ付伺

地方廳ノ指令ヲ不當ト看認ノ裁判所ニ訴ル者アリ右ハ裁判落著ノ日迄ノ間ハ指令
通り實施爲致可然哉將々實施爲致ヘキ義ニ無之候哉右兩端相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣指令ノ通實施可爲致事

第二十九號 十月十二日

宮城上等裁判所長心得判事坂本政均

(第二百五十八) 初審裁判所ニ於テ却下スル者覆審ノ儀ニ付伺

控訴ハ覆審ニ係ル者ノ名稱ニシテ始審ニハ決メ有ヘカテサル等然ルニ初告裁判所
ニ於テ受理セスシテ却下ヲ爲ス者ノ如キ其却下モ一ツノ裁判ト爲ス時ハ其事件ハ
始審ナルモ其却下ヲ不服トシ控訴及フ者ハ受理裁判シテ可然哉果シテ然ラハ爰ニ
貸金ノ訴ヲ爲ス者アラシニ初告裁判所ニ於テ丁卯十二月以前ニ係ルヲ以テ裁判不
及ト判決シテ之ヲ却下スル如キハ其本訴ノ理由ヲ審シタル以上ニアレハ其控訴ニ
於ケルモ則チ覆審ト云フ可シト雖モ若地方裁判所ニ於テ受理ス可キ權内ナル詞訟
ヲシテ權外ナルニ付シ受理セサルト判決シ却下スル如キハ本訴ノ主旨ヲ是非
ル者ニ非サレハ正シク覆審ト云ヒ難ク然リト雖モ彼ノ曲庇壓制ニ出タル者モ認
得サレハ本訴ノ如キハ其實全ク始審ニアルモ其不受理チ一ツノ裁判ト見做シ受理
及ヒ可然哉相伺候也

追加

(指令) 十月二十日 伺ノ趣地方裁判所ノ却下ニ服セサル者ハ控訴

スルヲ得ヘシ

○宮城上等裁判所伺地方裁判所權内ノ事件ヲ權外ナリトシ却下シタルハ固ヨリ其訴訟ノ本案ヲ判斷シタルニ非ト雖モ既ニ地方裁判所ニ於テハ却下シ之ヲ控訴スル時ハ上等裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘキハ勿論也

○書入ノ部

第二十九號 八月廿九日

大坂府知事渡邊昇

(第二百四十二) 建家并地所ニ紙證書ノ儀ニ付伺

當府下市街家屋ノ儀古來ヨリノ慣習ニテ地所建物ヲ一物ト看做シ書入質賣買等致來候處先般ノ公布ニ依テ地所ト建物ヲ分裂シ書入質ニ相改候得其實際ニ於テ地所建物ヲ分裂致候時ハ案外ノ下價ト相成候ニ付債主負債主ノ間ニ於テ相對ノ示談ヲ遂ケ其地所ト建物ヲ一物ト看做シ金額ヲ定メ(地所ハ書入建物ハ書入質ノ成規ニ隨ヒ一紙證書高金額ノ内ヨリ何程ハ地所何程ハ建物ト區分記載シ戶長役場ニ於テモ又地所書入帳ト建物書入質帳トへ割印ス)一紙證書認ノ抵當ニ差入レ其際別ニ地所ト建物ヲ區分シテ賣買不致旨副約定書ヲ相渡セリ然ルニ其負債主ニ他借出來身代限ノ處分ヲ受ルニ至テハ最前ノ副約定書ハ其効チク成規ニ依テ地所建物ヲ分裂シテ賣買ス此際奸曲ノ者アリ其建物ノ大ナルヲ見込地所ニ不當高價ノ入札ヲナ

シ名前切替ノ後地貸金ヲ非常ニ高クシ或ハ建物取拂等申立ルノ弊害アリ故ニ債主ニ於テハ後來ノ損害ヲ免カレン爲メ充分ノ貸金ヲ爲サス追々金融ノ道ヲ塞キ商業ノ不景氣ニ立至候次第ニ付右等一人ノ債主ニテ地所建物ヲ一ツニ抵當ニ取置キタル分ニ限リ賣買ノ際地所建物ヲ分裂セス合併ノ高テ以テ入札爲致候得ハ目今ノ弊風ヲ矯候儀ト存候ニ付當地裁判所エ及協議候處右ハ一定ノ法則モ有之候儀ニ付一部内限取捨スルハ不都合ニ付何分ノ回答難相成旨申越候條前條ノ弊害實地御洞察ノ上何分ノ御指揮被下度此段相伺候也

(指令) 十月十八日 伺ノ趣土地並家屋ノ書入ハ之ヲ一紙證書ニ作ルモ或ハ別ニ作ルモ便宜ニ依ルヘシ身代限賣買ノ際之ヲ分裂スルト否トハ債主ノ承諾ニ任ヘキ事第三十號 十月 東京上等裁判所詰判事西瀧訥

(第二百五十九) 建物書入質規則ノ儀ニ付伺

建物書入質規則第二條ニ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ與書ナキ證文ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用證文ト看做ス可シ第六條ニ前條ノ規則ニ背キ公證ヲ受ケサルモノハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ證文ト看做スヘシ第七條ニ若其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用證文ト看做ス可シ十一條ニ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金銀證文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ證文ト看做ス可シトアリテ其書入質ナキ證文ト看做ス可キ

ハ何レノ場合ナリト云テ記載無之ヲ見レハ初ヨリ契約ノ成立サルモノト看做シ何レノ場合ニテモ無効ナルモノニ似タリ然ルニ地所質入書入規則第九條(改正)第十六條(増補)中質入又ハ書入ノ證據ニ不相成ニ付右證文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分ヘノ時債主他ノ債主ニ對シ先取特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ貸借ノ處分致ス散ク云々トアリテ債主他ノ債主ニ對シ其効ヲ失フト雖モ契約ヲ爲シタル雙方ノ間ニ於テハ素ヨリ證書ノ効アルヘキコトハ明治十年十月十七日御指令ニ依テ益明瞭ナリ如此地所質入書入規則ニ於テ有効無効ノ場合アルニ建物書入質規則ニ至テ此二箇ノ場合ナキ道理アラサレハ其書入質ノ効ナキ證文ト看做スヘキ場合ハ公正ナル證書ニ對シ又ハ二人以上私ノ證書ヲ所持スルモノ相互ニ書入質ノ効ナキヲ云モノニシテ契約ヲ爲シタル雙方ノミノ場合ニ於テハ素ヨリ其効アルモノト被存抑人民相互ノ契約ハ其證書記載ナシト雖モ雙方該契約ヲ爲タリト明言スレハ不可得爲契約ニ非ル以上ハ其契約アリトシ將其契約ヲ履行セシメサル可カラズ況哉其證書ヲ記載シ其契約ハ人々相爲ヌテ得ヘキモノニシテ又他人(他ノ債主ヲ指ス)ノ妨害ヲ生セサルヲ故サレハ法ヲ設ケ其契約ヲ爲サレラシメ又ハ其契約ヲ破毀スヘキ道理ナケレハ該規則ノ無効ト看做スヘキ場合ハ必ス公正ノ證書ニ對シ又ハ二人以上私ノ證書ヲ所持スル時相互ニ書入質ノ効ナキコト云モノニシテ契約ヲ爲シタル雙方ノ間ニハ其効アルコト法理ニ照シ明カナルモノト存候得共何分法章上其意

義ヲ見出スコト能ハサルヨリ一箇ノ疑條ト相成候ニ付其無効ト見做スヘキ場合御示令有之度此段相伺候也

(指令) 十一月一日 伺之趣契約ヲ爲シタル雙方ノ間ニハ其効ヲ有スヘシト雖モ公正ノ證書若クハ他ノ通常債主ニ對スル場合ニ於テハ其効ヲ失フ儀ト心得ヘシ

○貸借ノ部

第二十九號 十月十八日

岡山縣令高崎五六

第二百四十七 利息制限法ノ儀ニ付伺

本年九月第六十六號公布利息制限法ノ儀ハ御發令以後與約取結ヒ候モノニ限リ其以前契約取結候證書ヲ以テ出訴スルモノ右ハ既往ニ溯ラズ裁判上制限ノ利息ニ可引直モノニ無之ト存候得共公布上判然不致目下伺出候モノモ有之候ニ付爲心得此段相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣御發令以後ノ契約ノニ制限上ニ引直シ既往ニ及ハサル儀ト可心得事

第二十九號 十月三日

嶋根縣權令境二郎

第二百四十八 同上ノ儀ニ付伺

一官令第六十六號ヲ以テ利息制限法公布相成候處右ハ從前將來ノ區別ナク爾後裁判上ニテハ總テ右制限ヲ以テ裁判相成候儀乎將テ該御布告成規ノ通人民周知ノ

追加

日ヲ以テ公判上ノ區分有之候哉

一同第二條中元金百圓以下百圓以上ト區相立居候處現百圓ハ孰レエ屬シ可申哉
右ハ差向伺出候モノモ有之候ニ付此段相伺候也

(指令) 十月三十一日 第一條 明治七年四月第四十八號御達ノ通人民周知ノ日ヨ
リ施行ノ儀ト可相心得候事

第二條 滿百圓ハ百圓以上ニ屬ス可キ儀ト可相心得候事
第二十九號 十月五日 青森縣令山田秀典代理青森縣少書記官鄉田兼徳

(第二百四十九) 利息制限法ノ儀ニ付伺
本年第六十六號公布利息制限法中疑團ノ件左ニ相伺候也

第一條 凡ソ金穀貸借上ノ利息ヲ契約上ト法律上トノ二種ニ定メ公布セラレタル
已上ハ自今人民一般該法ニ準據スルハ勿論既往ノ分迄モ總テ制限ニ引直サシムヘ
シトノ儀ニ可有之ヤ或ハ又該法ハ裁判上ノ手續ヲ明示セラレ儀ニテ既往將來ノ
分ニ論ナシ自今裁判ニ係リタル分ノ内制限超過ノ分ハ引直サシメ其他裁判上ニ係
ラサル分ニテ制限ヲ超過セシ高利ノ貸借又ハ禮金棒利等ノ名目ヲ以テ契約ナス
者アルト雖モ總テ人民ノ自由ニ任セ可然哉果シ然ラハ制限超過ノ利息又ハ禮金棒
利等ノ名目アル契約ヲ以テ地所書入質入ヲ爲サンカタメ戸長ノ公証ヲ乞フモノア
レハ戸長ハ其地所ヲ証スルカ爲メ公証ナシ該法ニ觸ルハノ廉ハ問ハスヲ可然哉

第二條 利息制限法第二條中元金百圓以上以下ノ分界ニ於テ滿百圓ノ利息ハ割合
方如何心得可然哉

第三條 同條中若此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニ迄引直サ
シムヘシト之レアリ右ハ万一此限ニ超過スル利息ノ契約ヲナスモノアルモ違犯ノ
廉ハ問ハスノ裁判上於テ其契約ヲ無効トナシ裁判官ニテ其制限ニ迄引直ヲ命スル
トノ儀ニ可有之哉

(指令) 十月三十一日 第一條 利息制限法ハ既往ニ及ハス但人民相互ノ契約ト
雖モ制限超過等ノ証書エハ戸長ニ於テ公証スヘカラサル事
第二條 百圓以下トハ未滿ノ事ニシテ滿百圓ハ以上ノ部ト心得ヘシ
第三條 制限法ニ引直ス迄ニシテ違犯ノ廉ハ問ニ付ス可シ

第二十九號 十月十日 群馬縣令代理群馬縣大書記官岸良俊介
(第二百五十) 利息制限法ノ儀ニ付伺

本年九月第六十六號公布利息制限ノ儀ハ右公布ノ後明治六年六月第二百十三號公
達ノ日限經過ノ日ヨリ一般御施行ノ義ニ候ヤ又ハ公布以前ノ契約ト雖モ此定限ヲ
超ル分及利息ノ高ヲ定メサルモノハ裁判上此公布第二條第三條ニ據判決相成候哉
同二條元金百圓以下トハ百圓ヨリ以下ト指テ百圓以上トハ即チ百圓壹厘ヨリ以上
ノ義ト相心得可然哉

追加

右兩件目今夫々伺出候向モ有之判然難致依テ爲心得相伺候也

(指令) 十月三十一日 第一條 明治六年六月第二百十三號布告ノ通人民周知ノ日ヨリ施行ノ義ト可相心得候事○第二條 百圓以下トハ百圓未滿ノ事ニシテ滿百圓ハ百圓以上ノ部ニ屬スヘキ儀ト可相心得候事

第二十九號 十月十二日

山形縣令三島通庸

(第二百五十一) 利息制限ノ儀ニ付伺

本年九月太政官第六十六號公布ヲ以テ利息制限法相定ラレ候處右利息ノ儀ハ公布ノ前後ニ係ラス自今總テ制限ニ引直裁判相成候儀ニシテ現在人民ノ契約假令制限ニ抵觸スルモ強テ縣廳ヨリ爲相改候儀ニハ無之カト存候得共判然明文無之ニ付相伺候也

(指令) 十月廿三日

伺ノ趣該公布以前ノ契約ハ制限ニ超過スルモノト雖モ其効

チ有スヘシ又縣廳ニ於テ制限ニ抵觸スル契約ヲ公認スヘキ非スト雖モ別段改正セシムルコ及ハサル儀ト可心得事

第二十九號 十月八日

高知縣權令小池國武

(第二百五十四) 利息制限ノ儀ニ付伺

本年第六十六號公布ノアリシ上ハ上下一般遵守スヘキハ言テ俟タス然ルニ若シ其制限ヲ超過シ取引ヲ爲ス者ハ違令ノ輕重ニ問フヘキモノニ候哉又ハ審ニ裁判上無

効トナルノミノ儀ニ候ヤ此段相伺候也

(指令) 十月廿五日 伺ノ趣違令ニ問フヘキモノニ非ス其制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ニ歸スル迄ト心得ヘキ事

第二十九號 十月廿日

福島縣權令山吉盛典代理少書記官中條政恒

(第二百五十五) 貸借証書上仕長連署ノ儀ニ付伺

明治七年一月當縣下區畫改正ノ際區長心得テ設ク其第一條左ノ如シ ○區内人民諸般伺屆等其他約定書等戶長仕長之ニ實印ヲ用ヒ區長ノ檢印可致事 但シ全村ニ關シ候事件ハ總代トシテ仕長一人印記致シ候儀事ノ輕重ヲ量リ適宜可取計事 右ノ通相定置借借等ニ至候テモ專ニヨリ右同様ノ手續ヲ以テ借入ノ証書ニ左ノ如ク仕長連署爲致來候儀ニ有之

借用金証

一金何圓 此抵當何々

右何々ニ付何々

年月日 借用金 何某印

組合總代証人何某印

仕長 何某印

何某殿

追加

前書ノ通相違無之候也

右片長

何某印

然ルニ借人身代限ノ處分ヲ受候日ニハ該金不足ノ分償却方順次仕長ニモ相係ルヘキ者ノ如ク仕長役務上ニ付捺印致候義ニテ該金處分ノ不足ヲ償却スヘキ義務ヲ帶タル譯ニハ素ヨリ無之候處連署ノ廉ニヨリ往々割賦ノ場合ニ至リ仕長エモ連及シ實際上不都合ヲ極候ニ付從來ノ例ハ今般相廢シ自今仕長連署ニ不及旨相違候得共既往ニ溯リ仕長連署ノ分悉ク書替候様ニテハ人民ノ迷惑不少義ニ候條管下人民ノ貸借既往ノ分ニ限リ仕長連署ノ証書ヲ以テ裁判ヲ仰キ候モ仕長ニ於テハ右裁判ニ關係無之旨各裁判所ニ御達置破下度候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣布達ニ及ハス候事

但仕長役務上ニ付捺印シタル者ニシテ請人証人ニ非サル者ハ不足ヲ辨償スヘキ義務ナキ事

第三十號 十月十日

廣島裁判所長判事鳥居斷三

(第二百六十) 受人証人ニ掛ル訴出訴期限ニ依リ權利存滅及ヒ身代限ニ過フ者之レヲ持直セシ後出訴ノ時加利法有無伺
從來借主身代限後請人証人ニ掛リ不足金ノ辨償ヲ求ムルヲ追訴ト稱シ本件ニ接續シテ之レヲ裁決シ其辨償スル能ハサル者ハ又身代限處分ニ及ヒ尙不足アレハ證書

ニ裏書シ而テ後始メテ一件落着ト爲セシ處債主ノ怠リニ依テ追訴セサルヨリ月ヲ越ヘ年ヲ亘リ落着ニ至ラサルモノ往々之レアリ又身代持直セシ後出訴證文面ノ利子ヲ加ヘンコトヲ請フ者アリ右二款己ニ少シク疑團ヲ生セン中央民事指令錄第二十二號名古屋裁判所審理表調製方指令ノ理由ヲ辨セラレタル文中受證人ヲ追訴スル如キハ本案ノ訴訟ニアラヌ更ニ新訴ト云フヘキモノナリ云々ヲ閱スルニ至リ一層ノ疑惑ヲ添フ依テ疑ヲ別ニ條ヲ追ヒ質義スルコト左ノ如キ

第一款 受人証人ニ掛ルハ新訴ト云フ可キモノト爲サハ負債主ノ義務ヲ連帶スルニ非ラスシテ別種特立ノ義務ヲ負タル者ナル哉ノ件

第一條 假令ハ甲債主ニシテ乙ハ負債主丙ハ(請人証人)タルニ返濟期限ハ明治十年五月之レニ掛リ出訴身代限迄ノ處分濟タレト尙不足金アルヲ以テ明治十年八月ニ至リ(請人証人)丙ニ掛リ出訴セリ是ニ於テ其期限内外ヲ算スルニ明治十年八月ニテ滿五ケ年ナル故ニ一面之レヲ見レハ出訴期限成規ニ依期滿得免ナルカ如シ然ルモ又一面之レヲ考レハ滿五ケ年中負債主乙ニ掛リ訴訟ヲ初メタレハ(請人証人)丙ニ掛ルハ五ケ年外ニ出ルモ其執行順序中タルニ似タリ依テ無論之レヲ受理シテ妨ケナキ哉又ハ新訴ト云フ可キモノナレハ出訴期限ニ照シ期滿得免トナシ受理セサルモノナリ哉

第二條 前條ノ如キハ猶受理スヘキトナシ假令ハ明治十年八月中滿五ケ年内負債

追加

主身代限ノ時(請人證人)ニハ成規ナキヲ以テ通知セズ處分後別段ノ故障モナク唯債主ノ怠リニ依テ數月又ハ幾年ヲ閱ヘテ後之レヲ訴ルモ尙債主甲ニ於テハ最前ノ權利ヲ有シ受證人ハ最前ノ義務ヲ免ル、ヲ得サルヤ抑返濟期限ヨリ出訴期限内返濟ニ怠ルハ義務者(乙丙)其責メヲ遁ルヘカラスト雖限内之レヲ責メヌシテ五ヶ年外ニ及フハ權利者甲自ラ怠テ其權利ヲ勉棄スルモノ、如キハ出訴スルモ其期限内外ニ從テ裁判上權利有無ヲ分別スルノ法理ハ之レナキ哉

第三條 負債主身代限處分ニ及ヒ尙不足金アル時ハ之レヲ證文ニ裏書下付シ尋テ(請人證人)ニ掛リ出訴是又身代限處分ニ及ヒ尙不足金アラハ證文ニ裏書セサルヲ得テ明治八年第百二號布告ハ負債主及ヒ(請人證人)混一ノ裏書雛形ナルモ之レテ二様ニ分タサルヲ得ス右二様裏書々式ハ適宜作爲シテ可ナリ哉又ハ二様分別ノ書式御達アルヘキ哉

第二款 身代限後受證人ニ掛及負債者ニ先テ受證人身代持直セシ後出訴加利法方ノ件

第一條 假令ハ負債主乙債主甲ヨリ金百圓ヲ借受利子ハ一ヶ月壹分貳朱ノ約定ニテ期限ノ後終ニ身代限ヲ以テ償却スルニ至リ負債元金百圓及ヒ分散配當(明治十年五月三十一日)迄ノ利子拾八圓合セテ百拾八圓ノ内ニテ財產雜賣代價拾八圓ヲ引去殘百圓不足ニ相成(雜賣代金拾八圓ハ利金拾八圓ニ差入)右テ債主甲ヨリ受

證人丙ニ掛リ追訴ニ及フ節(明明十年九月一日)不足元金百圓ニ利子壹圓貳拾錢ヲ(明治十年六月一ヶ月ノ利)加ヘ請求スルカ如キ利子ハ乙(負債主)身代分散金分配濟ノ當日ニ止リ丙(受人證人)エハ元金ノニ請求スヘキ筋カ又ハ債主甲ニ於テ丙エ對シ元利共請求スルノ權ヲ有スル哉否ノ一

第二條 假令ハ負債主乙及ヒ其請證人丙共身代限處分濟不足金有之ニ付成規ノ通證書ニ裏書下付ノ後受證人丙ニ於テ負債主乙ニ先テ身代持直シ債主甲ヨリ丙ニ係リ證書裏書元利不足金五百圓償還ノ訟ヲナスニ五百圓ノ内三百五拾圓ハ元金ニシテ百五拾圓ハ利金タルノ證アリ丙身代持直セシ當日ヨリ生スル該元金三百五拾圓ノ利子ヲ請求スルル如キハ利子モ丙エ辨償申付ル筋ナル哉又ハ負債主乙身代持直ス迄ハ一切利子ヲ生ヒサルモノトシ證書裏書ノ不足金五百圓丈々丙エ濟方可申付哉 右相伺候也

(指令) 十一月五日 ○第一款 第一條請人證人ニ係ル出訴期限ハ負債主身代分配濟ノ日ヨリ起算スヘシ 第二條前條ノ通 第三條八年第百二號布告雛形ニ據リ適宜裏書スヘシ ○第二款 第一條元利共請求スルノ權アル一 第二條元利共丙エ請求スルヲ得ヘシ 但利息ハ始終繼續スルニ付身代持直セシ日ヨリ生スル儀ニ無之事

第三十號 十月五日

山梨縣令藤村紫朝

追加

(第二百六十一) 利息制限法ノ儀ニ付伺

本年第六十六號ヲ以テ利息制限法公布相成候處右ハ金銀貸借ニ限リ候儀ニテ米穀貸借并質屋營業等ニハ關係無之儀ト相心得可然哉相伺候也

(指令) 十一月六日 伺之趣米穀貸借ハ該公布ノ限外ニシテ質屋營業等ハ制限利息ニ準據スヘキ儀ト心得ヘシ

第三十號 十月五日

高知縣權令小池國武

(第二百六十二) 同上ニ付伺

第一條 該公布第二條中百圓以上トアルハ滿百圓以上百圓以下トアルハ百圓未滿ナル哉

第二條 同上末文若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシトアルハ公布前ノ結約ニシテ其制限公布後ニ涉ルモノモ周知ノ日ヨリ引直サシメ候儀ニ候哉

第三條 米穀貸借ノ儀ハ明文無之ニ付従前ノ通制外ト心得可然哉

第四條 典舖ノ利息モ同様此規則ニ準據スヘキ儀ニ候哉
右ハ目今差掛リ承知致度候條至急何分ノ御指揮被下度此段相伺候也

(指令) 十月六日 第一條 第三條 第四條伺之通 第二條公布以後ノ契約ノニ制限上ニ引直シ既往ニ溯ラサル事

第三十號 十月十日

堺縣令稅所篤代理同縣大書記官吉田豐文

(第二百六十三) 同上ノ儀ニ付伺

本年第六十六號公布金銀貸借利息制限ノ儀ニ付現今伺出候向有之候ニ付左ノ通相伺候

第一條 質屋渡世ノ者其商業ニ依リ貸渡候金錢ハ商法上ニ屬スルモノニシテ尋常貸借ト異ナル儀ニ付右利息ノ儀ハ制限ノ外ト相心得可然哉

第二條 兩替屋其他諸商賣ニ付帳簿ヲ以テ金錢取引致候モノ互ノ契約ニテ日日ニ利息ヲ生スル等モ制限超過ノ分ハ裁判上無効ノ儀ト相心得可然哉
右至急御指令相成度候以上

(指令) 十一月八日 第一條該公布ニ準據スヘキ事 第二條伺之通

〇代言ノ部

第二十九號 十月一日

松山裁判所長判事件 正臣

第二百四十三 訴訟代人ノ儀ニ付上申

訴訟代人ノ儀ニ付當裁判所在勤判事補彦坂秀山別紙ノ通上申書指出候ニ付明治八年十月第九號御達ニ依リ進達仕候也

副申義代言人規則御頒布相成宿弊一時洗除セシ如キ又一弊ヲ生ジ方今訴答者本人ノ出願スル者百中ノ二三ニシテ皆疾病事故ニ托シ親屬アルハ痴愚ヲ名トシテ

追加

代人ヲ出ス其代人タル者悉ク代言者流ノ猶兒カ再然スル者ニシテ其弊タルヤ規
則頒布以前ニ異ナラス若秀山建議ノ旨趣御採用相成候ハ、當地ノ如キ右弊害ヲ
滅殺スル亦不勘候得共一般ノ御規則ニ關シ候儀ニ付深御詮議ニ相成候儀致度此
段副テ上申仕候也

別紙 詞訟代人ノ儀ニ付建議

秀山謹白ス明治九年二月廿二日甲第一號本省御布達代言人規則但書中四月一
日以後代言人無之且本人疾病事故ニテ不得己場合ニ於テハ其至親即チ父子兄
弟叔姪ノ内之ニ代ルヲ得ベク云々ト有之又同年四月十三日甲第四號ノ御布達
ニ曰布達但書代人ノ儀掲載候處尙ホ一般人民ノ雇人十ヶ月以上不斷雇置候者
ニ限リ至親同様代人トナスヲ得ヘシ云々秀山此ノ前後御布達ニ於テ竊ニ惑ヒ
無キ能ハサルナリ謹而甲第壹號ノ御布達ヲ按スルニ專ラ五等親圖ニ基キ二等
以上ノ至親ニ限リ代人ノ權利ヲ與ヘ三等以下ハ此權ヲ與ヘス特リ雇人ニ與フ
ルハ何ソヤ蓋シ十ヶ月以上居テ同フシ業ヲ共ニシ一家ノ事熟知スルヲ以テナ
ル歟今之ヲ同居ノ繼父庶子父トシテ之ヲ仰慕シ子トシテ之ヲ愛慈スルノ密接
ナルニ比スレハ事ノ熟否情ノ親疎彼ノ雇人ト雲泥ノ懸隔ナラズヤ該ノ繼父庶
子ニシテ代人タルノ權ヲ與ヘサルハ恐ラクハ權衡其平ヲ得サルモノ、如シ且
夫親屬ハ等ノ親疎ヲ論セス彼我相助ケ有無相通シ以テ交誼ヲ厚フスルハ人間

ノ常務天然ノ法ト云フ可キナリ故ニ秀山以謂ラク訴訟代人ノ如キハ五等親迄
ノ親屬ヲシテ盡ク其權利ヲ與ヘハ情法兩ナカラ其當ヲ得ルト信認ス仰願クハ
高識ヲ垂レヨ其職ニ在ラスシテ妄ニ成法ヲ議ス可ラスト雖モ明治八年本省達
第九號ニ據リ以テ茲ニ上陳ス頓首敬白

明治十年十月一日

判事補彦坂秀山

(指令) 十月十九日 建言ノ趣參考ノ爲留置候事

但疾病事故ニ托シ親屬アルハ痴愚ヲ名トシ云々等果シテ姦猾詐僞ノ所爲アル時ハ
相當ノ處分ヲ行フハ勿論ノ事

伴判事ヨリ上呈セル彦坂判事補建言ノ趣旨ハ代人ノ權理ヲ三等親以下ニ與ヘス
シテ特リ雇人ニ與フルハ不權衡ヲ免レテ故ニ五等親マテノ親屬ニ盡ク其權利ヲ
與ヘハ允當ナラント謂ニ過キズ然ルニ伴判事副申ニ疾病事故ニ托シ云々トアル
ハ是レ果シテ詐僞姦猾ノ所爲アルニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スヘキナリ縱令該建
言ノ趣採用スルモ右等ノ弊害ニ於テハ同一ナリト思考ス

第三十號 十月十六日

金澤裁判所長判事櫻井直養

(第二百六十五) 民事ニ付伺

第一條 爰ニ十年ノ役囚アリ金銀貸借ノ事件ニ付他人ヲ以テ代理トシ或ハ親戚ヲ

追加

代理人トシテ訴ヲ爲スノ權利アルモニ候哉○第二條 同囚ノ妻妾等糊口難キヲ以テ離婚ヲ訴フルニ由リ離縁ヲ裁決セシテ該囚不服トシ控訴スルノ權利アルモノニ候哉 設シ囚人自訴スル權無キニ於テハ是ヲ書狀ニ讓リ控訴スルモ又得ヘカラサル哉 右相伺候也

(指令) 十一月十七日 第一條 懲役中ノ者金銀貸借ニ係ル事件ハ其代理スヘキ家族ニテ可取計若シ其家族ナキハ親族協議ノ上可取計事

第二條 伺ノ通

金澤裁判所伺懲役中ノ者金銀貸借等ノ訴訟ハ其家族又ハ親戚ニテ可取計トノ舊例ニ據リ然ルヘシ第二條ハ既ニ離婚ノ裁判アリシニ該囚ノ不服ナル者ニシテ親屬ト雖モ代理スヘキ事柄ニ非ス該囚本人ノ存意ニ因リ十分ニ控訴ノ權利ヲ與フルヲ允當ナリトス

○費用辨償ノ部

第二十九號

九月十八日

京都裁判所長判事増戸武平

第二百四十五 呼出狀郵便戻リ稅償却方ノ儀ニ付伺

本年七月以降當府廳人民呼出費總テ官費ニ相立候ニ付當裁判所呼出ノ儀ハ直チニ可取計旨府廳照儀ニ付則客月廿一日以來郵便規則第三條第十五節ニ照シ呼出人エ

先拂ヲ以差立來候(客月九日同斷ノ義ニ依リ第廿八號ヲ以相伺未ダ御指令無之候)然ルニ右人名及ヒ住所(町村)名番地等相違ノ廉有之候節ハ戻リ狀郵便稅償却方ノ義左ノ通相伺候

一他ノ官廳等ノ誤謬ニ出ルモノハ官費ニ相立可然哉

一當該官吏ノ過誤書損ニ出ルモノハ事害ノ有無ニ不拘待罪書爲差出官費ニ可相立哉又ハ事ニ害ナキモノハ該官ノ償却ニ止リ不問ニ置キ可然哉

一人民申立ノ誤謬ニ出ルモノハ該人エ償却可申付哉

右ハ日々夥多ノ呼出狀ニテ自他ノ過失一ツノ誤謬ナキヲ保セヌ是カ爲メ多少ノ手數ニ相涉候儀ニ付何分ノ御指令被下度候也

(指令) 十月廿五日 第一條 該官廳ニ於テ償却スヘキモノト可相心得事

第二條 其書記ニ任セシ者ヲシテ償却セシム可キ事

但シ償却ニ止メ待罪書ヲ差出スニ及ハス 第三條 伺ノ通

第三十號

九月廿一日

熊本裁判所長判事南部養男

(第二百六十六) 人民呼出狀送達方並ニ該費弁償方ノ儀ニ付伺

當裁判所大分支廳並其所轄各區裁判所共是マテ裁判上人民呼出方ノ儀ハ協議ノ上大分縣ニ委託致置候處今般該縣廳ニ別紙甲號ノ通り掛合有之就テハ呼出狀郵便配達ノミニテハ實際不都合ノ廉不少依之呼出狀送達方志願ノ者エ一里ニ付幾錢ト

追加

預ノ其賃金ヲ相極メ入札ノ上爲請負該費弁償ノ儀ハ乙號ノ通り相定ノ置度尤モ差
急キ候事件ニ付至急御指揮有之度此段相伺候也

別紙 甲號

公翰ノ内是迄民費遞送賃ノ儀本年七月以降ハ總テ官費可相立ニ付テハ其御廳及ヒ
區裁判所ヨリ發ル管下人民喚出狀類ト同様ノ儀ニテ御廳費ヨリ仕拂可相成候ヤ然
ルモ向後ハ各區出張所エ御渡ニモ不及御廳ヨリ直ニ當地通運分社エ遞送御申付
可相成哉此段及御照會候也

明治十年九月十三日

大分縣權令香川眞一

熊本裁判所大分支廳詰判事近重八潮彦殿

乙 號

呼出狀送達費金弁償規定

一 民事呼出狀送達ノ費金ハ其呼出ヲ受タル者ヲシテ先ツ之ヲ弁セシム後テ該訴ノ
曲直ニ依リ更ニ曲者ヨリ之ヲ直者ニ償ハシム

但呼出ヲ受ケ不參ヲ爲シタル者ハ該訴ノ曲直ニ拘ハラヌ其呼出狀送達ノ費金
ヲ償ハシム

附箋

但呼出ヲ受ケ無届ニテ遲不參シタル者ハ該訴ノ曲直ニ拘ハラヌ其呼出狀送達

ノ費金ヲ自カラ償ハシム

一 刑事呼出狀送達ノ費金ハ其本人ヨリ之ヲ弁セシム

但証人附添人等ノ呼出狀送達ノ費金ハ地方廳ヨリ之ヲ給ス若シ裁判所ニ於テ
呼出人ノ姓名ヲ誤寫シタル等ニ係ルモノハ裁判所ニ於テ之ヲ給ス

(指令) 十一月十九日 呼出狀送達方ノ儀ハ伺ノ通

費金弁償規定ノ儀ハ左ノ通

第一條 本文伺ノ通但書ハ附箋ノ通心得可シ

第二條 刑事ニ付呼出狀遞送ノ費用ハ官費タル儀ト心得可シ但書ハ伺ノ通

○詐偽ノ部

第二十九號 八月二十二日

高知縣令小池國武

(第二百四十六) 民事再訴ノ儀ニ付伺

茲ニ甲乙二人アリ甲田地若干ヲ乙ニ賣渡シテ十九年ノ間ニ元價ヲ以テ可返ノ返證
ヲ乙ヨリ甲ニ渡シ置キ右年限中ニ乙ハ死ス後年滿期ニ至リ其相續人實子丙(相續
ノ時行年二十八)エ對シ田地請戻ヲ請求スト雖モ不肯ヲ以テ地方裁判所エ田地受戻
シノ訴訟ヲナシタルモ丙者其證書上ノ印章ハ亡父乙ノ印章ナルヤ否ヲ辨知セサル
旨ヲ答辨シ該裁判所ニ於テハ印章ノ確認ナキヲ以テ原告甲ノ申立難相立旨ヲ申渡
シタリ然ル後甲ハ公私ノ書類中ヨリ該證書ノ印章ハ亡乙ノ印章タル確證數端ヲ外

追加

家ヨリ得タル既ニ控訴ノ期限儘ニ經過シタリ右ハ

一明治九年十一月廿二日水戸裁判所ノ伺ニ御指令但書ノ詐偽姦謀ニ出タル類ニ付
地方裁判所ニ再訴可致筋ニ候哉

一如此詐偽ノ情狀有之モノナレハ假令控訴期限ヲ過去スト雖モ前裁判言渡ノ取消
ヲ願出シ然ル後地方裁判所ニ再訴可致筋ニ候哉

一控訴期限已ニ過キタル共如此事情アレハ上等裁判所ニ控訴可致筋ニ候哉

右條々ノ内相違ヒ不申テハ一時被告丙カ亡父乙ノ印章ナルヤ否ヲ知ラスト詐偽ナ
ル答辨ニ忽チ權利ヲ失フ如此ナレハ原告甲ナル者無念疎漏ノ一點ナキニ怨ヲ吞テ
黙止致ス筋ニ可相成實ニ惘然ノ至ニ有之然ル右ノ條件當時警察部ニ保護上ノ説諭
願出ルヨリ一應取糺シ事情如此明瞭致スト雖モ根元民事裁判ニ屬スルモノニ付到
底警察部ニ於テ結果致シ難シト雖モ保護上ノ説諭ニ依テ如此現出スル上ハ只々却
下致シ一ノ教示セサルモ保護ノ欠點ナレハ至急何分ノ御指揮有之度候也

(指令) 十月十七日 右ノ趣ハ水戸裁判所ニ指令但書ノ趣旨トハ全ク殊異ノ件ニ付
控訴ハ勿論前裁判所ニ再訴スルノ權無之事 但人民ニ教示スヘキ辨明ハ不致事

高知縣伺ノ要旨ハ曩キニ水戸裁判所ニ指令ノ但書ニ援引シテ再訴ノ手續ヲ問フ
モノナリ抑該伺面ニ就テ見レハ裁判官ニ於テモ漫ニ被告丙ノ申立ヲ確認シテ判

決ヲ爲シタルハ疎漏ノ速了ニ失シタルモノト雖モ本來該件ト水戸裁判所ニ指令
但書ノ主義トハ全ク同日ノ論ニアラス試ミニ其殊異ナル所以ヲ辨センニ水戸裁
判所ニ指令ノ但書ハ詞訟相手方ノ不良ニヨリ至要ノ證據書類ヲ押隠サレ之カ
爲メ一時負訴訟トナリタル者ノ冤屈ヲ疏通セシムル爲メノ旨意ニ出テタルナリ
之ニ反シ今該伺田地買戻ノ詞訟ハ到底印章信疑ノ一點ニ於テ原告甲カ敗訟ニ歸
シ而シテ數日ヲ經テ公私ノ書類中ヨリ前訴ノ印章ヲ尙真正ノモノトナスヘキ至
要ノ確證數端ヲ發見セシカ如シ果シテ然ラハ其至重ノ確證ハ被告丙ノ所爲ニヨ
ツテ藏匿サレタルニアラス原告甲カ最初斯ル至要ノ確證ヲ搜索シ得サリシハ自
己ノ無念疎漏ト云フヘシ若シ此類ノ者ヲシテ再訴ヲ得シムル時ハ終ニ裁判ノ威
力信用ヲ失フニ至ルヘシ

第二十九號 十月廿四日 神奈川縣令野村 靖

(第二百五十三) 負債主豫テ財産押隠スノ嫌疑有之者處分方伺

金圓等ノ負債主奸智遠謀アリテ未タ債主ニ延滞催促ノ訴ヲセラレサル以前豫テ所
有ノ財産等ヲ其子弟或ハ親屬ニ分與シ又ハ賣拂タル事ニ偽爲シ然シテ后債主ニ對
シ果シテ返金延滞ヲナシ終ニ出訴セラレ身代限ヲ受ケ圖謀ノ如ク債主ニ損害ヲ蒙
ラシムル者アリ依テ其債主共圖謀ヲ探知シ之ヲ告訴シタリ就テ之ヲ檢事ニ交付尋
テ吟味ヲ爲スモ其延滞催促出訴后ニ出ル所爲ハ容易ニ結了ニ至ルト雖モ其以前ニ

追加

謀爲セシ者ノ如キハ管ニ招承ニ服スルヲ待テ漸ク其實ヲ得ルノ譯ナレハ若シ招承服セサルハ其儘ニ處分スルノ道ナキ者ノ如シ依之本件ノ如キ告訴アルハ民事ニ於テ被告人及ヒ押隠シノ助ケヲナシタルト視察スル者等ヲ一應取調理解ニ及ヒ若シ服罪セサルハ其儘ニ差置キ檢事へ交付ニ不及儀ニ候ヤ且昨九年御省達第六十八號身代限ヲ爲者云々トアルハ偏ニ出訴セラレ候後ノ所爲ニ係ル者ヲ指スノ儀ト相心得可然ヤ旁相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣出訴ノ前後ヲ問ハス奸詐ノ所爲ヲ以テ債主ノ損害ヲナシ及ヒ其所爲ヲ助ケル者ハ相當ノ處分可及事

○身代限ノ部

第二十九號 九月十八日 青森縣令山田秀典代理同縣少書記官郷田兼徳

(第二百五十六) 身代限處分ノ節區入費先取ノ儀伺

第一條 身代限處分ノ節區入費取立方ノ儀ニ付昨九年十月御省達第七十號ヲ以テ地方裁判所ニ御達中内務省ヨリ太政官ニ伺書中縣廳獄舎營繕費其他區戸長給料等ト有之而已ニテ其他費自ヲ明示セル公布公達ハ無之候得共去ル七年四月十八日第五十三號公達書及ヒ本年八月内務省乙第七十七號達ノ費目ハ即所謂區入費ナル者ニ有之右ノ内地租改正調費ト有之ハ官員派出檢査中ノ入費及ヒ官有地丈量等ノ費(各自所有ノ地面ニ當リ下調費ヲ除ク)ヲ指シタル儀ニテ先取ノ權ヲ有スヘキ部

分ニ可有之然ニ當縣下ノ如キハ未開ノ人民ニテ各自下調等ヲ爲ス能ハス故ニ村吏人民ノ協議ニヨリ人ヲ備ヒ下調ヲナシ追テ其費用ノ區分ヲ爲サス一般ノ地價ニ割合課出セシムル類有之此ノ如キモ先取ノ權ヲ有スル者ト心得可然哉
第二條 同上公達及内務省達費目外ノ分ト雖モ或ハ一町一村一時ノ釀金ニ無之村吏ノ申立ニヨリ縣廳ニテ之ヲ許可シ該町村ノ課出ニ係ル分ハ先取ノ權ヲ有スヘキカ 右兩條相伺候也

(指令) 十月三十日 第一條 先取ノ權無之事 第二條 伺ノ通

○銀行ノ部

第二十九號 九月廿一日 金澤裁判所長判事櫻井直養

第二百四十四 銀行條例ノ儀ニ付伺

國立銀行條例第八十八條ニ國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參ハエ仕拂ヘキ約束手形又ハ類似ノ証書等ヲ出スヲ禁スト有之右ハ金券ニ限ルモノニテ米穀其他酒油等ノ諸手形ハ右條例外ノモノト相心得可然哉
會社又ハ穀物問屋等ヨリ米券ヲ出シ何人ニ限ラス米券所持ノモノニ其米額ヲ可仕拂約束手形アリ此手形ハ民間互ニ賣買ヲ爲スモノニテ金券ニ類似スレモ現ニ米賣買ノ爲メ出ス証券ナレハ銀行條例第八十八條ニ觸ルサルモト相心得可然哉
右兩條相伺候也

追加

(指令) 十月廿日 伺ノ通
但シ米券等ヲ名トシテ紙幣同様ニ通用スヘキ諸切手ニ均シキ取扱ヲ爲スモノハ
此限ニ非ス

刑事部

司法省指令錄

十年第五十九號

○保釋ノ部

第五十九號

十一月三十日

三 重 縣

(第七百一) 上告ニ係ル者保釋願手續並檢事ヨリ責付請求ノ儀ニ付伺

第一條 刑事指令錄第三十號東京裁判所檢事局ヨリ上告ニ係ル者保釋並ニ責付ノ儀伺ニ本人ノ上告ニ係ル保釋願ハ大審院ニテ受理ス全免輕減等ノ見込ヲ以テ檢事ノ上告ニ係ルモ係ルモ大審院ニアラサレハ行フヲ得サル儀ト心得可シト御指令有之然ルニ同第四十號水戸裁判所ヨリ同上ノ伺ニ原裁判所ニ於テ許否スル儀ト心得可シト御指令有之伺ノ趣意同軌ニシテ御指令兩岐ニ涉リ疑ナキ能ハスト雖モ退テ其理ヲ考測スルニ既ニ裁判宣告後ハ原裁判所ノ管轄ヲ離レ上告中ハ(本人及ヒ

指令錄刑事

檢事ノ爲スニ拘ハラス)大審院ノ管轄ニ歸ス故ニ之ヲ許否スルノ權大審院ニアル
 ハ正則ニ有之然ルニ地方裁判所ハ大審院ヲ距ル數百里ナルアリ正則ノ如ク大審院
 ニ於テ許否セラル、時ハ往復ノ間本人數十日拘留ノ慘苦ヲ嘗メシムル憫然ニ付實
 際ノ便宜ヲ酌量シ原裁判所ニ於テ許否スル權ヲ與ヘラレタル一ノ便法ト見解致シ
 候依テハ水戸裁判所へ御指令ニ遵據シ上告中(本人及ヒ檢事ノ爲スニ拘ハラス)保
 釋ヲ願出ル節ハ檢事ニ於テ書面ヲ受ケ直ニ裁判所へ遞送シ處分ヲ求ム可キ儀ニ候
 哉 第二條 檢事ノ上告ニ係ル者ハ有罪ナレハ拘留日數刑限ニ算入セラル、チ以
 テ刑外慘苦ヲ受ルノ怨ナシト雖モ其免罪等ノ見込ヲ以テ檢事ノ上告ニ係ル者本人
 逃走ノ虞ナク且定マレル住居アル者ニ限り檢事ノ職權ヲ以テ責付致シ可然乎又ハ
 右等責付ス可キ見込ノ者ハ檢事ヨリ原裁判所へ照會シ處分ヲ求ム可キ儀ニ候哉
 第三條 前條後項ノ如ク原裁判所へ照會シ處分ヲ求ムル時原裁判所ニ於テ責付ス
 ルヲ許サ、ル場合ニ於テハ假令本人刑外拘留ノ慘苦ヲ受ルト檢事ニ於テ見認ムル
 モ強テ責付ヲ求ムル權無之哉

○詐偽ノ部

(指令) 十二月廿五日 第一條 伺ノ通○第二條 原裁判言渡ノ日數滿限ニ至ル迄
 ハ拘留致置儀ト心得可シ 但シ原裁判言渡前ヨリ責付致置タル輕罪ノ者ハ此限ニ
 アラス○第三條 前條指令ニ因リ會得ス可シ

第五十九號

十二月十一日

京都裁判所

(第七百二)

雇人雇主ノ賣懸金ヲ詐取スル者並父又ハ夫ノ證書ヲ詐爲シ金ヲ
 借ル者及ヒ字樣ヲ描改シタル紙幣ヲ行使スル者處分ノ儀ニ付伺

第一條 商賈ノ手代雇主ノ會テ賣懸置シ金額アルヲ偵知シ該家ニ至リ雇主ノ命ト
 詐リ請求スルニ該家素ヨリ其手代タルヲ知ルニ依リ自家ノ金錢渡帳(見積付込
 帳ニテ印紙貼用有之)ニ金員ヲ添へ相渡ス處手代其帳簿ニ何某代何某ト記載シ自
 巳ノ印形ヲ捺シ請取之該金持去リ費用スル者有之右ハ雇主ノ命ト詐ルト雖モ既ニ
 商賈ノ手代ニシテ且印稅帳ニ請取ノ確證アル上ハ再買代金ヲ買主ニ拂ハシムルニ
 不及該人ハ雇人盜ヲ以テ論シ贓金ハ追徴シテ雇主へ給付スヘキ哉且亦右ノ如キハ
 其帳簿ニ手代ノ印形有無ニ依テ區別ノ儀モ可有之哉

第二條 子父ノ財物ヲ盜ムハ同居各居ノ別ナク俱ニ子弟私擅用財律ニ依ルト會テ
 當廳へ(八年司法省日誌第四十三號)御指揮ノ通ニ付若シ子父ノ借金證書ヲ詐爲シ
 竊カニ父ノ印形ヲ捺シ財ヲ借り費用スル者モ亦同居各居ノ別ナク子弟私擅用財條ニ
 依リ其金額ハ父ヨリ償ハシメ證書詐爲ノ罪ハ問ハスシテ可然哉且又父ノ其子ノ證
 書ヲ詐爲シ金ヲ借ル者ノ處分方如何 第三條 妻夫ノ借金證書ヲ詐爲シ同様ノ手
 續ニテ金ヲ借り費用スル者其子ト區別有之儀ニ候哉且又其妻並子詐爲スル處ノ證
 書ニ捺用スル印形父夫ノ實印ニアラスシテ他ノ印ヲ用フル者差別モ可有之哉

指令錄刑事

第四條 律例第二百五十一條ノ紙幣ノ字樣ヲ補換描改等スルノ情ヲ知テ行使スル者ハ偽造寶貨律ノ權衡ニ依リ本犯ニ一等ヲ減シ懲役三年ニ可處哉

第五條 楮幣ヲ請取ノ後第四條ノ札ニ係ルヲ知テ損失ヲ厭ヒ官ノ檢査ヲ經ス行使スル者モ釋例第二百五十八條ニ係ルヘキ哉 第六條 十錢札ノ裏ノ筆畫ハ變換セズ表ノミ二十錢ニ描改シタルヲ請取リ後日心付ト雖モ檢査ノ手數ヲ厭ヒ十錢ノ價直ニテ遣ヒ捌ク者ハ違式ニ問ヒ可然哉

(指令) 十二月廿七日 第一條 買者買代金ヲ渡シタル雇人ハ平生雇主ノ委任ヲ受ケ金錢取引ヲ爲ス者ナレハ印稅帳簿面調印ノ有無ニ論ナク再ヒ買代金ヲ拂フニ及ハス雇人ハ竊盜ニ二等ヲ加ヘ賍金ハ追徵シテ雇主ニ給付ス

第二條 子ハ同居各居ノ別ナク改定律例第二百四十六條及ヒ詐欺取財ヲ以テ論シ一ノ重キニ從フテ科ス父ヲシテ辨償セシムルノ限ニアラス父其子ノ證書ヲ詐僞シ金ヲ借ル者亦同シ

第三條 父及ヒ夫ノ實印ヲ用フルモ他ノ印ヲ用ツルモ差別アルコト無シ餘ハ前條指令ニ就テ會得ス可シ

第四條 情ヲ知テ行使スル者ハ從ト爲シ本犯ニ一等ヲ減ス

第五六條 改定律例第二百五十八條ニ依リ酌減ス可シ

○賊盜ノ部

第五十九號

十二月十四日

京都府裁判所

(第七百三)

強盜及ヒ竊盜三犯自首シテ贓徵ス可ラサ處ル者分ノ儀ニ付何

第一條 竊盜ヲ犯シ官司ノ斷決ヲ經テ再ヒ竊盜贓百圓ヲ犯シ再犯加等罪例ニ依リ百圓ノ罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七年ニ該ル罪犯其未發ノ際九十圓ヲ首還シ拾圓ヲ徵スルコト克ハサルモノアルハ之ニ減等ヲ聽スノ法犯罪自首除第五項若シ自首シテ贓徵スヘカラサルハ二等ヲ減ストアル明文ニ照シ二等ヲ減シ懲役三年ニ處スヘキ儀ニ候處八年司法省日誌第九十三號東京裁判所ヨリ舊香川縣へ竊盜ヲ以テ再度處刑ヲ受ケ猶竊盜八圓ヲ犯シ自首シテ贓不可徵者ハ杖六十ヨリ二等ヲ減シ處分スヘシト御指令ニ相成タルヲ援引シ向後モ同一ニ可處分ヤトアル例ニ伺ノ通ト御指揮相見ヘ候右三犯ノ者贓不可徵ナルヲ以テ之ヲ杖六十ヨリ二等ヲ減スル例ハ律例中何レノ明文ニ照依スル儀ニ候哉新律綱領竊盜條三犯五十兩以下流三等ト明文アルニ同犯者ヲシテ杖六十ヨリ二等ヲ減スルトセハ右明文ニ抵觸スル儀ニハ無之哉或ハ想フ其三犯五十兩以下云々ノ明文ハ尋常就縛ノ者ノ處分方ヲ明示セラル、モノニシテ首告贓不可徵ノ者ノ處置法ニアラサルヲ以テ右ノ如ク御指令ニ相成候儀ニモ可有之哉依テ暫ラソ右御指揮ニ從ヒ處分スルモ實際ニ於テ權衡其宜キヲ得サルモノアリ假令ハ竊盜再犯各自斷決ヲ經タル甲乙ノ者申合人家ニ忍ヒ入り贓八圓ヲ得テ未タ分配セサル以前申ハ縛ニ就キ乙ハ前贓ヲ護シテ逃走シ外ニ在テ其贓ヲ費用シ

指令錄刑事

テ後自首スル處甲ノ口供未ダ甘結ニ至ラズ故ニ俱ニ審判シ其贓ヲ償還セシムルニ各資力無之而シテ該犯ヲ處スル甲乙共犯ニ係ルニ甲ハ贓分配ヲ得スシテ懲役十年乙ハ前贓ヲ費用シテ同四十日其間罪ニ輕重アル實ニ霄壤ノ相違アルノミナラス一同其刑ヲ云ヒ渡スニ甲ニハ竊盜條ノ明文ニ照シ三犯五十圓以下ナル者ニ依リ懲役十年宣告シ乙ニハ其明文ニ離レ止テ懲役六十日ヨリ二等ヲ減シ同四十日ト申渡サハ連較ノ犯各共本罪ニ輕重アル處分方ナルニ依リ犯人ニ於テ疑惑ヲ抱クハ勿論ニテ且裁判上不都合ノ義ト存候依之既ニ東京裁判所ヘ右杖六十ヨリ二等ヲ減スル云々御指揮ノ趣ハ有之トモ前條竊盜再犯ノ者ノ如キハ仍ホ法律ニ從ヒ七年ヨリ二等ヲ減シ同三年ニ處分シ且右乙ノ如キハ三犯ノ本罪十年ヨリ二等ヲ減シ懲役五年ニ可處分ト見込候得共同贓ヘノ御指揮外ニ御趣意有テノ儀ニモ可有之哉疑惑甚カラズ候右三犯者ヲシテ直ニ懲役六十日ニ擬シ二等ヲ減スル律ノ義例詳悉御垂示ヲ仰キ候

第二條 右同應伺第二條ニ曰持兇器強盜財ヲ得ル者ノ如キモ自首シテ贓徴スヘカラサルキハ強奪ノ情ハ首免ヲ與ヘ唯贓ヲ計ヘ竊盜ヲ以テ減等スヘキニ似タリ然ルト雖モ強竊ハ犯情自カヲ別ナルモノニ付強盜ノ本罪ヨリ減等シ可然哉トアルニ強盜ノ本罪ヨリ二等ヲ減スト御指揮相見然ルニ第一條ノ竊盜三犯ナル者其犯數ニ係ラズ得贓壹圓以上ナルヲ以テ懲役六十日ヨリ二等ヲ減シ處分スル儀ニ候ハ其強

盜ヲ持不兇器ニ係ラス其不徴ノ贓數ニ依リ三十圓以上ナル者ハ懲役終身ヨリ五圓以下ナル者ハ同二年半ヨリ各二等ヲ減スヘキ理合ニ相成リ然ルヲ特リ竊盜三犯ニ限リ本律ノ明文ニ依ラスシテ六十日ヨリ二等ヲ減シ仍ホ律ニ依リ減等シテ處分スル儀穩當ヲ得ル儀ト存候

(指令) 十二月廿七日 第一條 罪ノ輕重霄壤ノ差違ヲ生スル自首スルト否トニ因ル所以ナリ且自首シテ贓徴スヘカラサル者ハ減等處分ニ及フモ犯數ニ計ヘサルニ付三犯ニアラサルヲ三犯ヲ以テ論シ減等スル理ナシ

第二條 強竊盜ハ犯情自ラ別ナレハ刑名モ從テ異ナリ其強盜ニシテ不持兇器ハ贓數ニ依リ罪ヲ定ムルモ持兇器ニ至テハ贓數ニ依テ罪ヲ定ムルヲナシ因テ強盜ノ本罪ヨリ減スル義ト可心得事

(第五十九號)

十二月十七日

愛知縣

(第七百五)

盜犯就捕前品物追徴ノ儀ニ付伺

甲物品ヲ竊取セラシ盜難ヲ官ニ告クルノ后乙ノ店ニテ該品ヲ見認メ訴出ルニ依リ取調ナルニ乙情ヲ知ラス丙ヨリ賣取セシ旨陳述ス其物品ハ會テ甲ノ陳述セシ被盜品ト公認ス然ルニ其丙タルヤ住所姓名不相分贓品處分方別紙(零之)甲乙號ノ如ク名古屋裁判所ヘ送附セシ處丙號ノ通返却致來候抑該件ノ如キ贓品ヲ處分スルハ特ニ裁判官ノ權内ニ之アル儀ト相心得居候處回答面ノ如ク果シテ法衙ノ處分ニ屬

セサレハ其處分方如何相心得可然哉

(指令) 十二月廿八日 伺ノ趣公商公買ニ因テヌシテ買取スルコト分明ナルニ於テハ警察官ヨリ直ニ物主ニ還付シ盜犯捕ニ就クハ始末書及ヒ其品目代價記ヲ裁判所ヘ送付スル儀ト心得ヘシ

○破廉耻ノ部

第五十九號

十一月廿二日

京都裁判所

(第七百四)

華士族ノ婦女當主ナル者破廉耻罪ヲ犯ス者ノ儀ニ付伺

華士族ノ婦女ニシテ當主ナル者破廉耻罪ヲ犯シ實決スヘキ者懲役百日以下ハ除族收祿ニ止メ一年以上ハ仍ホ本刑ヲ加ト彙ニ鹿兒島縣(七年本省日誌第四十六號)及ヒ足柄裁判所(八年同日誌第三十八號)ヘ御指令相見男夫同様御處分有之候ニ付テハ本年第七十六號公布律例第十三條御改正以降若シ右ノ婦女姦盜等ノ罪ヲ犯スハ假令懲役百日以下ト雖モ除族シテ本刑ヲ加フヘキ哉將テ其戸主ト雖モ婦女タルニ依リ除族ノ上律例第四十條ニ從ヒ可處分哉

(指令) 十二月廿八日 伺ノ趣當主ト雖モ其身婦女ナレハ例第四十條ニ依ル儀ト心得ヘシ

○特典ノ部

第五十九號

十二月十二日

島根縣

(第七百六)

前非悔悟ノ實効ヲ表スル懲役人特典減等伺

松江監獄在檻出雲國意宇郡古志原村

明治七年三月廿日宣告訴偽取財貳百圓以上懲役七年 福庭岩市
明治七年九月懲役場火災ノ節防禦スルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年

同 出雲國神門郡杵築村

明治四年十一月二日宣告地方ノ凶荒ニ乘シ衆ヲ聚メ 川上茂吉
市街ヲ暴動スル科懲役十年

明治七年九月懲役場火災ノ節防禦スルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年

右ノ者共先非ヲ悔悟シ獄則ヲ遵守シ岩市儀ハ一檻ノ頭ニテ炊夫ニ使役罷在處炊室ノ取締行届驅役ノ餘暇ニハ脩學ニ勉勵シ同檻ノ囚ヘモ懇篤説諭スルニ付一檻内獄則ヲ犯スモノ無之一同驅役學事等勉強致スハ全ク岩市ノ鼓舞スル處ニ有之茂吉儀モ悔悛實直ヲ表シ同様炊夫ニ使役罷在處岩市ト俱ニ炊事ニ心ヲ盡シ百餘囚ノ配食懇切ニ取扱ヲ以テ各囚右兩名ヲ賞セサル者無之寔ニ奇特ノ者共ニ候間特議ヲ以テ減等ノ恩典有之候ハ、他囚ノ勸奨トモ可相成ト存候且茂吉儀ハ一等期限ノ央ヲ經過致シ候條(略之)獄官申出書及驅役取調書相添此段相伺候也

(指令) 十二月廿八日 伺之趣懲役人福庭岩市特典ヲ以テ本罪ニ二等川上茂吉ハ同シク一等ヲ減ス

但兩名共役限已ニ過ルヲ以テ直ニ放免ス可也

訓解

(一畫) 一層(一) 一項(二) 一團(三) 一上(四) 一上款(五) 一上款(六) 一上款(七) 一上款(八) 一上款(九) 一上款(十) 一上款(十一) 一上款(十二) 一上款(十三) 一上款(十四) 一上款(十五) 一上款(十六) 一上款(十七) 一上款(十八) 一上款(十九) 一上款(二十) 一上款(二十一) 一上款(二十二) 一上款(二十三) 一上款(二十四) 一上款(二十五) 一上款(二十六) 一上款(二十七) 一上款(二十八) 一上款(二十九) 一上款(三十) 一上款(三十一) 一上款(三十二) 一上款(三十三) 一上款(三十四) 一上款(三十五) 一上款(三十六) 一上款(三十七) 一上款(三十八) 一上款(三十九) 一上款(四十) 一上款(四十一) 一上款(四十二) 一上款(四十三) 一上款(四十四) 一上款(四十五) 一上款(四十六) 一上款(四十七) 一上款(四十八) 一上款(四十九) 一上款(五十) 一上款(五十一) 一上款(五十二) 一上款(五十三) 一上款(五十四) 一上款(五十五) 一上款(五十六) 一上款(五十七) 一上款(五十八) 一上款(五十九) 一上款(六十) 一上款(六十一) 一上款(六十二) 一上款(六十三) 一上款(六十四) 一上款(六十五) 一上款(六十六) 一上款(六十七) 一上款(六十八) 一上款(六十九) 一上款(七十) 一上款(七十一) 一上款(七十二) 一上款(七十三) 一上款(七十四) 一上款(七十五) 一上款(七十六) 一上款(七十七) 一上款(七十八) 一上款(七十九) 一上款(八十) 一上款(八十一) 一上款(八十二) 一上款(八十三) 一上款(八十四) 一上款(八十五) 一上款(八十六) 一上款(八十七) 一上款(八十八) 一上款(八十九) 一上款(九十) 一上款(九十一) 一上款(九十二) 一上款(九十三) 一上款(九十四) 一上款(九十五) 一上款(九十六) 一上款(九十七) 一上款(九十八) 一上款(九十九) 一上款(一百)

○ 分裂(一) 允當(二) 失錯(三) 巡視(四) 以降(五) 召喚(六) 主任(七) 申牒(八) 犯利(九) 奸曲(十) 交誼(十一) 曲庇(十二) 奸智(十三) 延滯(十四) 危險(十五) 朽腐(十六) 防禦(十七) 七畫) 却下(十八) 私擅(十九) 赤貧(二十) 伺案(二十一) 再燃(二十二) 初審(二十三) 佇立(二十四) 完結(二十五) 私營(二十六) 沿海(二十七) 八畫) 承諾(二十八) 制限(二十九) 炊室(三十) 拘引(三十一) 周備(三十二) 例規(三十三) 其際(三十四) 杭木(三十五) 官衙(三十六) 開坑(三十七) 妻除(三十八) 叔姪(三十九) 招牌(四十) 券(四十一) 九畫) 修繕(四十二) 負債(四十三) 看護(四十四) 起算(四十五) 削除(四十六) 奸猾(四十七) 答辨(四十八) 十畫) 疎漏(四十九) 時機(五十) 租額(五十一) 消費(五十二) 俸給(五十三) 陳列(五十四) 厚薄(五十五) 追徵(五十六) 恩典(五十七) 差問(五十八) 契約(五十九) 垣牆(六十) 准允(六十一) 十一) 崇敬(六十二) 理由(六十三) 章程(六十四) 配賦(六十五) 喚問(六十六) 創立(六十七) 閉鎖(六十八) 淤泥(六十九) 堆積(七十) 責付(七十一) 許否(七十二) 掲載(七十三) 通常(七十四) 情況(七十五) 毫末(七十六) 區分(七十七) 副書(七十八) 宿弊(七十九) 排列(八十) 參考(八十一) 連署(八十二)

訓解

敗認ハイセウクジ ○ 參拜ウカ ○ 乾燥カンソウクハ ○ 脱籍ダツセキモレベツ (十二) 掌務セヤウモチ ○ 須臾シンユクハ ○ 猥褻ワイセツ ○ 該カガイリ ○ 掌管シヤウクワン
 ○ 滅殺メンサイ ○ 結果ケツカスル ○ 街燈ガイトウ ○ 費目ヒキツカヒ ○ 景况ケイケウアリ ○ 街路ガイロウヲイ ○ 診定シンテイメル ○ 貯藏チヨウザウ ○ 渡
 御キヨワタ ○ 策定サクテイル ○ 參照サンショウス ○ 超過チョウワ ○ 描改ビョウカイカヘル ○ 詐欺ソウキムク ○ 滅等メツトウ ○ 湮滅インメツナル ○ 診斷シンダンメル ○ 結
 局キョク (十三) 過誤カワレマヤ ○ 盜賊サウタクモノ ○ 準據ジュンキヲフ ○ 燒燼セウゼンル ○ 過失カワレマヤ ○ 準據ジュンキトス ○ 摸倣モボウス ○ 傷痕シヤウケン
 ○ 傷頂シヤウテイ ○ 斟酌シヤクシヤク ○ 補鞍ホサツ ○ 植挿シヨクツツ ○ 模倣モボウス ○ 照依セウイス ○ 督促トクソク ○ 過般カワラン ○ 棄
 捐エン ○ 債主サイ ○ 痴愚チユ ○ 猾兒クワニ ○ (十四) 精理セイリス ○ 整頓セイトンス ○ 懸詔ケンソウ ○ 賠償ハイレイ ○ 賠償ハイレイ ○ 踐履センリ
 ○ 褒詞ホウジ ○ 撲滅ボクメツ ○ 漸次ゼンシ ○ 裝飾サウジヨク ○ 需用キヨウ ○ 精工セイコウ ○ 塵芥チンカイ ○ 慘苦サンク ○ 管
 守クサウ ○ 遞送テイソウ ○ 誤寫ゴシヤ ○ 還付クワンフ ○ 慣習クワンシヨク ○ 墜落ツイラク ○ 標旗ヘウサ ○ 夥多ヒョダ ○ 翫弄クワンロウ
 ○ 誤繆ゴビョウ ○ 數端スウタン ○ 違犯イハン ○ (十五) 賦課フカ ○ 適否テキヒ ○ 擔任タンニン ○ 請求セイキウ ○ 霄
 壤ジョウ ○ 徵收テイソウ ○ 審查シンサ ○ 賠償ハイレイ ○ 廢絶ハイゼツ ○ 履行リョウギョウ ○ 遲延チエン ○ 廢存ハイ
 ○ 魯西亞聖彼特堡府 ○ (十六) 遺留イリウ ○ 確認クワクニン ○ 錯雜サクザツ ○ 親疎シンソ ○ 錯誤サゴ
 (十七) 謄寫タウシヤ ○ 償還シヤウタン ○ (十八) 繫留ケイリウ ○ 懲戒テイカイ ○ 轉仆テンフ ○ 類似ルイシ ○ (十九) 繩索セウサク ○ (廿
 畫) 鑿金キヤウ ○ 鉄鎖テツサ

官准 明治十一年第三月廿三日

右文社

編輯人 青木浩藏
 小石川原町 十三番地
 出版人 澤愛山
 下谷練辨町 四拾二番地
 印刷 葆光社
 湯島壹丁目 十三番地

定價

一明治十一年三月第三號出版
但內務省日誌
司法省指令錄ヲ并ス
但每月廿三日出版

壹ヶ月分 金貳拾錢
前金三ヶ月分 金五拾五錢
半ヶ年分 金壹圓五錢
壹ヶ年分 金貳圓

十年十一月出版

明治十年壹月ヨリ七月迄合編壹冊 定價金九拾錢
同年八月ヨリ十二月迄合編壹冊近日出版 同金七拾五錢

賣 捌

東京銀座四丁目	博聞社	東京京橋弓町貳拾貳番地	擴隆舍
全 通三丁目	丸屋善七	大坂心齋橋筋唐物町	森本太助
全 淺草茅町	北澤伊八	全 備後町角	吉岡平助
全 馬喰町二丁目	品川金重郎支店	全 安十町	鹿田靜七
全 石町二丁目	梶屋喜兵衛	京都寺町通四條上ル	田中治兵衛
全 日本橋西河岸	須原鐵二	兵庫縣 西宮内町	村松爲介
全 南傳馬町二丁目	有隣堂	全 淡路國須本	福浦文造
全 本町貳丁目	柳川梅次郎	全 姫路	山野長平
全 室町三丁目	高村源兵衛	和歌山縣本町	平井文助
全 通油町	藤岡屋慶次郎	長崎袋町四ッ角	滿都家太平治
全 鍛冶町	富士屋金十郎	廣島縣中島本町	秋田惣兵衛
全 芝太神宮前	和泉屋吉兵衛	山口縣中市町	阿部準輔
全 芝字田川町	内野屋彌平次	熊本鹽屋町	活版舎
全 南傳馬町壹丁目	吉川半七	大分縣中津新博多町	野依曆三
全 大傳馬町貳丁目	富田彦次郎	福岡縣福岡簀子町	古野德三郎
全 鎗屋町八番地	律書房	堺縣大小路市ノ町	文正堂
全 兩國藥研堀	報知社	滋賀縣大津下大門町	宮協睡仙

5B19

東 京 圖 書 館

函	門
架	部
號	類

